

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第5456829号
(P5456829)

(45) 発行日 平成26年4月2日 (2014.4.2)

(24) 登録日 平成26年1月17日 (2014.1.17)

(51) Int.Cl.

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

F 1

A 6 3 F 7/02 3 2 0

請求項の数 1 (全 79 頁)

(21) 出願番号	特願2012-78912 (P2012-78912)	(73) 特許権者	000144153
(22) 出願日	平成24年3月30日 (2012.3.30)		株式会社三共
(62) 分割の表示	特願2008-273613 (P2008-273613)		東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
	の分割	(74) 代理人	100103090
原出願日	平成20年10月23日 (2008.10.23)		弁理士 岩壁 冬樹
(65) 公開番号	特開2012-125616 (P2012-125616A)	(74) 代理人	100124501
(43) 公開日	平成24年7月5日 (2012.7.5)		弁理士 塩川 誠人
審査請求日	平成24年3月30日 (2012.3.30)	(74) 代理人	100135161
			弁理士 眞野 修二
前置審査		(72) 発明者	小倉 敏男
			東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号 株
			式会社三共内
		審査官	上田 正樹
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定の始動領域を遊技媒体が通過した後に、可変表示の開始を許容する開始条件の成立にもとづいて、各々を識別可能な複数種類の識別情報の可変表示を行い表示結果を導出表示する可変表示手段を備え、該可変表示手段に特定表示結果が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態に移行させる遊技機であって、

前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記特定遊技状態に移行させるか否かを決定するための特定遊技状態決定用乱数と、識別情報の可変表示パターンを決定するための可変表示決定用乱数とを抽出する抽出手段と、

前記始動領域を遊技媒体が通過したにもかかわらず前記開始条件が成立していない可変表示について、前記抽出手段が抽出した前記特定遊技状態決定用乱数と前記可変表示決定用乱数とを所定の上限数を限度に保留記憶として記憶する保留記憶手段と、

前記保留記憶手段に記憶されている保留記憶の各々に対応して所定の表示態様で保留表示を表示する保留表示手段と、

前記開始条件が成立したことにもとづいて、前記特定遊技状態決定用乱数を用いて、前記特定遊技状態に移行させるか否かを表示結果の導出表示以前に決定する事前決定手段と、

前記事前決定手段の決定結果と、前記開始条件が成立したときの前記保留記憶手段が記憶する保留記憶数と、前記抽出手段により抽出された前記可変表示決定用乱数の値と、複数種類の可変表示パターンに対応した判定値とにもとづいて、識別情報の可変表示パター

10

20

ンを決定する可変表示パターン決定手段と、

前記可変表示パターン決定手段の決定結果にもとづいて、識別情報の可変表示を実行する可変表示実行手段と、

前記可変表示パターン決定手段による決定前に、前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記抽出手段により抽出された前記特定遊技状態決定用乱数の値にもとづいて、前記特定遊技状態に移行させるか否かを判定するとともに、前記抽出手段により抽出された前記可変表示決定用乱数の値と、前記複数種類の可変表示パターンに対応した判定値にもとづいて、識別情報の可変表示パターンが複数種類の可変表示パターンのうちの特定可変表示パターンとなるか否かを判定する始動判定手段と、

前記始動判定手段によって前記特定遊技状態に移行させると判定された場合または前記特定可変表示パターンとなると判定された場合に、当該判定対象となった識別情報の可変表示の前記開始条件が成立する以前に、特定演出を実行可能である特定演出実行手段とを備え、

前記特定可変表示パターンに対応した判定値のうちの少なくとも一部は、前記開始条件が成立したときの前記保留記憶手段が記憶する保留記憶数にかかわらず、同一判定値が設定され、

前記特定可変表示パターンと異なる非特定可変表示パターンに対応した判定値は、前記開始条件が成立したときの前記保留記憶手段が記憶する保留記憶数に応じて異なる判定値が設定され、

前記非特定可変表示パターンは、識別情報の可変表示においてリーチ状態が成立しない可変表示パターンである非リーチ可変表示パターンを含み、該非リーチ可変表示パターンは、前記特定可変表示パターンと比較して識別情報の可変表示を開始してから表示結果を導出表示するまでの可変表示時間が短い短縮用可変表示パターンを含み、

前記可変表示パターン決定手段は、前記開始条件が成立したときに前記保留記憶手段が記憶する保留記憶数にもとづいた短縮条件が成立している場合には、前記短縮条件が成立していない場合と比較して、前記非リーチ可変表示パターンに対応した判定値の個数が多く設定され、かつ前記短縮用可変表示パターンに対応した判定値の個数が多く設定された判定値を用いて可変表示パターンを決定し、少なくとも前記短縮条件が成立していない場合には、該保留記憶数が第1値である場合と第2値である場合とで、共通の判定値を用いて可変表示パターンを決定し、

前記始動判定手段は、前記抽出手段により抽出された前記可変表示決定用乱数の値が前記同一判定値と合致するか否かを判定することによって、前記特定可変表示パターンとなるか否かを判定し、

前記特定演出実行手段は、前記保留表示手段において前記所定の表示態様とは異なる表示態様で保留表示を表示することにより前記特定演出を実行し、

前記特定可変表示パターンは、第1スーパーリーチ可変表示パターンと第2スーパーリーチ可変表示パターンとを含み、

前記第1スーパーリーチ可変表示パターンおよび前記第2スーパーリーチ可変表示パターンに対応した判定値として、前記開始条件が成立したときの前記保留記憶手段が記憶する保留記憶数にかかわらず、前記同一判定値が設定されている

ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、所定の始動領域を遊技媒体が通過した後に、可変表示の開始を許容する開始条件の成立にもとづいて、各々を識別可能な複数種類の識別情報の可変表示を行い表示結果を導出表示する可変表示装置を備え、該可変表示装置に特定表示結果が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態に移行させる遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

10

20

30

40

50

遊技機として、遊技球などの遊技媒体を発射装置によって遊技領域に発射し、遊技領域に設けられている入賞口などの入賞領域に遊技媒体が入賞すると、所定個の賞球が遊技者に払い出されるものがある。さらに、識別情報を可変表示（「変動」ともいう。）可能な可変表示装置が複数設けられ、いずれかの可変表示装置において識別情報の可変表示の表示結果が特定表示結果となった場合に遊技者にとって有利な特定遊技状態に制御可能になるように構成されたものがある。

【 0 0 0 3 】

特定遊技状態とは、所定の遊技価値が付与された遊技者にとって有利な状態を意味する。具体的には、特定遊技状態は、例えば特別可変入賞装置の状態を打球が入賞しやすい遊技者にとって有利な状態（大当り遊技状態）、遊技者にとって有利な状態になるための権利が発生した状態、景品遊技媒体払出の条件が成立しやすくなる状態などの所定の遊技価値が付与された状態である。

10

【 0 0 0 4 】

そのような遊技機では、識別情報としての特別図柄を表示する可変表示装置における表示結果があらかじめ定められた特定の表示態様の組合せ（特定表示結果）になることを、通常、「大当り」という。大当りが発生すると、例えば、大入賞口が所定回数開放して打球が入賞しやすい大当り遊技状態に移行する。そして、各開放期間において、所定個（例えば10個）の大入賞口への入賞があると大入賞口は閉成する。そして、大入賞口の開放は、所定回数（例えば15ラウンド）実行される。なお、各開放について開放時間（例えば29.5秒）が決められ、入賞数が所定個に達しなくても開放時間が経過すると大入賞口は閉成する。

20

【 0 0 0 5 】

また、可変表示部において最終停止図柄（例えば左右中図柄のうち中図柄）となる図柄以外の図柄が、所定時間継続して、特定の表示結果と一致している状態で停止、揺動、拡大縮小もしくは変形している状態、または、複数の図柄が同一図柄で同期して変動したり、表示図柄の位置が入れ替わっていたりして、最終結果が表示される前で大当り発生の可能性が継続している状態（以下、これらの状態をリーチ状態という。）において行われる演出をリーチ演出という。また、リーチ状態やその様子をリーチ態様という。さらに、リーチ演出を含む可変表示をリーチ可変表示という。リーチ状態において、変動パターンを低確率状態における変動パターンとは異なるパターンにすることによって、遊技の興趣が高められている。そして、可変表示部に可変表示される図柄の表示結果がリーチ状態となる条件を満たさない場合には「はずれ」となり、可変表示状態は終了する。遊技者は、大当りをいかにして発生させるかを楽しみつつ遊技を行う。

30

【 0 0 0 6 】

また、可変表示部においてリーチ態様や大当り態様が表示される旨を事前に報知するいわゆる予告機能を備えたものがある。予告機能にもとづく予告演出は、例えば、最終停止図柄が確定する以前の段階で、特別図柄の可変表示態様や背景画像が変化したり、所定のキャラクタが登場したり変化したり、遊技機に設けられているランプやLED等の発光手段を明滅させたり、遊技機に設けられているスピーカ等の音出力手段から音声や効果音を出力することによって行われる。

40

【 0 0 0 7 】

また、識別情報の可変表示が開始される前に、表示結果を報知するための予告演出を実行する遊技機がある。パチンコ遊技機では、識別情報の可変表示の実行条件が成立すると（例えば、始動入賞口に遊技球が入賞すると）、大当りとするか否かを判定するための所定の乱数を抽出し、抽出した乱数を、RAMに設けられている始動入賞記憶（保留記憶）に記憶する。記憶される順は、可変表示の実行条件の発生順である。識別情報の可変表示の開始条件が成立すると、最も過去に記憶された保留記憶にもとづいて大当りとするか否かの抽選を行う。識別情報の可変表示の実行条件が成立したときに、抽出した乱数にもとづいて大当りとするか否かの抽選を行うことによって、実際に可変表示が実行されるときに表示結果が特定表示結果となるか否かを確認できる。そのときに、特定表示結果となる

50

ことが確認できれば、実際に可変表示が開始される時点よりも前に、表示結果が特定表示結果になることを報知するための予告演出を実行することができる。

【 0 0 0 8 】

例えば、特許文献 1 に記載された遊技機では、遊技領域に設けられた始動入賞口に遊技球が始動入賞したタイミングで、あらかじめ各乱数値を先読みし、その始動入賞に対応した変動表示が実行されるときに大当たりとなるか否かやリーチとなるか否かを判定される。そして、その判定結果にもとづいて、その始動入賞に対応した変動表示よりも以前に実行される変動表示中において、大当たりとなることを予告したりリーチとなることを予告したりするように制御される。

【先行技術文献】

10

【特許文献】

【 0 0 0 9 】

【特許文献 1】特開 2 0 0 3 - 1 6 4 6 1 7 号公報（段落 0 1 0 9 - 0 1 1 3、段落 0 1 6 0 - 0 1 6 2、図 1 4、図 2 6 - 2 7）

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 1 0 】

しかし、特許文献 1 に記載された遊技機では、常に一定の割合で変動パターンを決定しているので、変動時間の長い変動パターンが集中して決定されてしまうと、保留記憶が溜まって変動表示されない始動入賞が発生してしまったり、変動表示の作動率が低下してしまうおそれがある。

20

【 0 0 1 1 】

そこで、本発明は、変動表示の作動率の低下を防止しつつ、遊技に対する興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 2 】

本発明による遊技機は、所定の始動領域を遊技媒体が通過した後に、可変表示の開始を許容する開始条件の成立にもとづいて、各々を識別可能な複数種類の識別情報の可変表示を行い表示結果を導出表示する可変表示手段を備え、該可変表示手段に特定表示結果が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態に移行させる遊技機であって、始動領域を遊技媒体が通過したときに、特定遊技状態に移行させるか否かを決定するための特定遊技状態決定用乱数と、識別情報の可変表示パターンを決定するための可変表示決定用乱数とを抽出する抽出手段と、始動領域を遊技媒体が通過したにもかかわらず開始条件が成立していない可変表示について、抽出手段が抽出した特定遊技状態決定用乱数と可変表示決定用乱数とを所定の上限数を限度に保留記憶として記憶する保留記憶手段と、保留記憶手段に記憶されている保留記憶の各々に対応して所定の表示態様で保留表示を表示する保留表示手段と、開始条件が成立したことにともづいて、特定遊技状態決定用乱数を用いて、特定遊技状態に移行させるか否かを表示結果の導出表示以前に決定する事前決定手段と、事前決定手段の決定結果と、開始条件が成立したときの保留記憶手段が記憶する保留記憶数と、抽出手段により抽出された可変表示決定用乱数の値と、複数種類の可変表示パターンに対応した判定値とにもとづいて、識別情報の可変表示パターンを決定する可変表示パターン決定手段と、可変表示パターン決定手段の決定結果にもとづいて、識別情報の可変表示を実行する可変表示実行手段と、可変表示パターン決定手段による決定前に、始動領域を遊技媒体が通過したときに、抽出手段により抽出された特定遊技状態決定用乱数の値にもとづいて、特定遊技状態に移行させるか否かを判定するとともに、抽出手段により抽出された可変表示決定用乱数の値と、複数種類の可変表示パターンに対応した判定値とにもとづいて、識別情報の可変表示パターンが複数種類の可変表示パターンのうちの特定の可変表示パターンとなるか否かを判定する始動判定手段と、始動判定手段によって特定遊技状態に移行させると判定された場合または特定の可変表示パターンとなると判定された場合に、当該判定対象となった識別情報の可変表示の開始条件が成立する以前に、

30

40

50

特定演出を実行可能である特定演出実行手段とを備え、特定の可変表示パターンに対応した判定値のうちの少なくとも一部は、開始条件が成立したときの保留記憶手段が記憶する保留記憶数にかかわらず、同一判定値が設定され、特定の可変表示パターンと異なる非特定可変表示パターンに対応した判定値は、開始条件が成立したときの保留記憶手段が記憶する保留記憶数に応じて異なる判定値が設定され、非特定可変表示パターンは、識別情報の可変表示においてリーチ状態が成立しない可変表示パターンである非リーチ可変表示パターンを含み、該非リーチ可変表示パターンは、特定可変表示パターンと比較して識別情報の可変表示を開始してから表示結果を導出表示するまでの可変表示時間が短い短縮用可変表示パターンを含み、可変表示パターン決定手段は、開始条件が成立したときに保留記憶手段が記憶する保留記憶数にもとづいた短縮条件が成立している場合には、短縮条件が成立していない場合と比較して、非リーチ可変表示パターンに対応した判定値の個数が多く設定され、かつ短縮用可変表示パターンに対応した判定値の個数が多く設定された判定値を用いて可変表示パターンを決定し、少なくとも短縮条件が成立していない場合には、該保留記憶数が第1値である場合と第2値である場合とで、共通の判定値を用いて可変表示パターンを決定し、始動判定手段は、抽出手段により抽出された可変表示決定用乱数の値が同一判定値と合致するか否かを判定することによって、特定の可変表示パターンとなるか否かを判定し、特定演出実行手段は、保留表示手段において所定の表示態様とは異なる表示態様で保留表示を表示することにより特定演出を実行し、特定の可変表示パターンは、第1スーパーリーチ可変表示パターンと第2スーパーリーチ可変表示パターンとを含み、第1スーパーリーチ可変表示パターンおよび第2スーパーリーチ可変表示パターンに対応した判定値として、開始条件が成立したときの保留記憶手段が記憶する保留記憶数にかかわらず、同一判定値が設定されていることを特徴とする。

10

20

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】パチンコ遊技機を正面からみた正面図である。

【図2】遊技制御基板（主基板）の回路構成例を示すブロック図である。

【図3】演出制御基板、ランプドライバ基板および音声出力基板の回路構成例を示すブロック図である。

【図4】遊技制御用マイクロコンピュータにおけるCPUが実行するメイン処理を示すフローチャートである。

30

【図5】2msタイマ割込処理を示すフローチャートである。

【図6】あらかじめ用意された演出図柄の変動パターンを示す説明図である。

【図7】各乱数を示す説明図である。

【図8】大当たり判定テーブル、小当たり判定テーブルおよび大当たり種別判定テーブルを示す説明図である。

【図9】大当たり用変動パターン種別判定テーブルを示す説明図である。

【図10】はずれ用変動パターン種別判定テーブルを示す説明図である。

【図11】当り変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図12】はずれ変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図13】演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。

40

【図14】特別図柄プロセス処理のプログラムの一例を示すフローチャートである。

【図15】始動ロスイッチ通過処理を示すフローチャートである。

【図16】入賞時判定処理を示すフローチャートである。

【図17】特別図柄通常処理を示すフローチャートである。

【図18】変動パターン設定処理を示すフローチャートである。

【図19】表示結果指定コマンド送信処理を示すフローチャートである。

【図20】特別図柄変動中処理を示すフローチャートである。

【図21】特別図柄停止処理を示すフローチャートである。

【図22】大当たり終了処理を示すフローチャートである。

【図23】演出制御用CPUが実行する演出制御メイン処理を示すフローチャートである

50

。

【図 2 4】コマンド受信バッファの構成例を示す説明図である。

【図 2 5】コマンド解析処理を示すフローチャートである。

【図 2 6】コマンド解析処理を示すフローチャートである。

【図 2 7】演出制御プロセス処理を示すフローチャートである。

【図 2 8】チャンス目予告判定処理を示すフローチャートである。

【図 2 9】チャンス目予告決定テーブルを示す説明図である。

【図 3 0】チャンス目予告演出決定処理を示すフローチャートである。

【図 3 1】チャンス目予告演出種類決定テーブルを示す説明図である。

【図 3 2】変動パターンコマンド受信待ち処理を示すフローチャートである。

10

【図 3 3】演出図柄変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 3 4】演出図柄変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 3 5】演出図柄変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 3 6】準チャンス目判定用テーブルを示す説明図である。

【図 3 7】演出図柄の配列を示す説明図である。

【図 3 8】チャンス目および準チャンス目を示す説明図である。

【図 3 9】演出表示装置に表示される背景画像の例を示す説明図である。

【図 4 0】演出図柄変動中処理を示すフローチャートである。

【図 4 1】スーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）の例を示す説明図である。

【図 4 2】演出図柄変動停止処理を示すフローチャートである。

20

【図 4 3】スーパーリーチの予告画面の表示タイミングを示す説明図である。

【図 4 4】はずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態を示す説明図である。

【図 4 5】はずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態の変形例 1 を示す説明図である。

【図 4 6】変形例 2 の始動口スイッチ通過処理を示すフローチャートである。

【図 4 7】変形例 2 の演出図柄変動中処理を示すフローチャートである。

【図 4 8】変形例 2 の変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図 4 9】変形例 2 の変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図 5 0】変形例 2 の変動パターン設定処理を示すフローチャートである。

30

【発明を実施するための形態】

【0014】

以下、本発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

まず、遊技機の一例であるパチンコ遊技機の全体の構成について説明する。図 1 はパチンコ遊技機を正面からみた正面図である。

【0015】

パチンコ遊技機 1 は、縦長の方形状に形成された外枠（図示せず）と、外枠の内側に開閉可能に取り付けられた遊技枠とで構成される。また、パチンコ遊技機 1 は、遊技枠に開閉可能に設けられている額縁状に形成されたガラス扉枠 2 を有する。遊技枠は、外枠に対して開閉自在に設置される前面枠（図示せず）と、機構部品等が取り付けられる機構板と、それらに取り付けられる種々の部品（後述する遊技盤を除く。）とを含む構造体である。

40

【0016】

図 1 に示すように、パチンコ遊技機 1 は、額縁状に形成されたガラス扉枠 2 を有する。ガラス扉枠 2 の下部表面には打球供給皿（上皿）3 がある。打球供給皿 3 の下部には、打球供給皿 3 に収容しきれない遊技球を貯留する余剰球受皿 4 と遊技球を発射する打球操作ハンドル（操作ノブ）5 が設けられている。ガラス扉枠 2 の背面には、遊技盤 6 が着脱可能に取り付けられている。なお、遊技盤 6 は、それを構成する板状体と、その板状体に取り付けられた種々の部品とを含む構造体である。また、遊技盤 6 の前面には遊技領域 7 が形成されている。

50

【 0 0 1 7 】

遊技領域 7 の中央付近には、液晶表示装置 (L C D) で構成された演出表示装置 9 が設けられている。演出表示装置 9 の表示画面には、特別図柄の可変表示に同期した飾り図柄の可変表示を行う飾り図柄表示領域がある。よって、演出表示装置 9 は、飾り図柄の可変表示を行う可変表示装置に相当する。飾り図柄表示領域には、例えば「左」、「中」、「右」の 3 つの装飾用 (演出用) の識別情報を、例えば上から下に移動するように可変表示する。図柄表示エリアには「左」、「中」、「右」の各図柄表示エリア 9 L , 9 C , 9 R があるが、図柄表示エリアの位置は、演出表示装置 9 の表示画面において固定的でなくともよいし、図柄表示エリアの 3 つ領域が離れてもよい。演出表示装置 9 は、演出制御基板に搭載されている演出制御用マイクロコンピュータによって制御される。演出制御用マイクロコンピュータが、特別図柄表示器 8 で特別図柄の可変表示が実行されているときに、その可変表示に伴って演出表示装置 9 で演出表示を実行させるので、遊技の進行状況を把握しやすくすることができる。

10

【 0 0 1 8 】

遊技盤 6 における上部には、識別情報としての特別図柄を可変表示する特別図柄表示器 8 が設けられている。この実施の形態では、特別図柄表示器 8 は、0 ~ 9 の数字を可変表示可能な簡易で小型の表示器 (例えば 7 セグメント L E D) で実現されている。すなわち、特別図柄表示器 8 は、0 ~ 9 の数字 (または、記号) を可変表示するように構成されている。

【 0 0 1 9 】

20

演出表示装置 9 の下方には、第 1 始動入賞口 1 3 を有する入賞装置が設けられている。第 1 始動入賞口 1 3 に入賞した遊技球は、遊技盤 6 の背面に導かれ、第 1 始動口スイッチ 1 3 a によって検出される。

【 0 0 2 0 】

また、第 1 始動入賞口 (第 1 始動口) 1 3 を有する入賞装置の下方には、遊技球が入賞可能な第 2 始動入賞口 1 4 を有する可変入賞球装置 1 5 が設けられている。第 2 始動入賞口 (第 2 始動口) 1 4 に入賞した遊技球は、遊技盤 6 の背面に導かれ、第 2 始動口スイッチ 1 4 a によって検出される。可変入賞球装置 1 5 は、ソレノイド 1 6 によって開状態とされる。可変入賞球装置 1 5 が開状態になることによって、遊技球が第 2 始動入賞口 1 4 に入賞可能になり (始動入賞し易くなり) 、遊技者にとって有利な状態になる。また、可変入賞球装置 1 5 が閉状態になっている状態では、遊技球は第 2 始動入賞口 1 4 に入賞しない。なお、可変入賞球装置 1 5 が閉状態になっている状態において、入賞はしづらいものの、入賞することは可能である (すなわち、遊技球が入賞しにくい) ように構成されていてもよい。

30

【 0 0 2 1 】

以下、第 1 始動入賞口 1 3 と第 2 始動入賞口 1 4 とを総称して始動入賞口または始動口ということがある。

【 0 0 2 2 】

可変入賞球装置 1 5 が開放状態に制御されているときには可変入賞球装置 1 5 に向かう遊技球は第 2 始動入賞口 1 4 に極めて入賞しやすい。そして、第 1 始動入賞口 1 3 は演出表示装置 9 の直下に設けられているが、演出表示装置 9 の下端と第 1 始動入賞口 1 3 との間の間隔をさらに狭めたり、第 1 始動入賞口 1 3 の周辺で釘を密に配置したり、第 1 始動入賞口 1 3 の周辺での釘配列を遊技球を第 1 始動入賞口 1 3 に導きづらくして、第 2 始動入賞口 1 4 の入賞率の方を第 1 始動入賞口 1 3 の入賞率よりもより高くするようにしてもよい。入賞とは、入賞口などのあらかじめ入賞領域として定められている領域に遊技球が入ったことである。

40

【 0 0 2 3 】

演出表示装置 9 の下方には、始動入賞口に入った有効入賞球数すなわち保留記憶数 (保留記憶を、始動記憶または始動入賞記憶ともいう。) を表示する 4 つの表示器からなる特別図柄保留記憶表示器 1 8 が設けられている。特別図柄保留記憶表示器 1 8 は、有効始動

50

入賞がある毎に、点灯する表示器の数を1増やす。そして、特別図柄表示器8での可変表示が開始される毎に、点灯する表示器の数を1減らす。なお、保留記憶数が上限数（例えば4）に達しているときに始動入賞口に遊技球が入賞しても、その始動入賞は無効始動入賞になる。すなわち、その始動入賞は、可変表示の実行条件である始動条件を成立させない。

【0024】

また、演出表示装置9の表示画面には、保留記憶数を表示する領域（以下、保留記憶表示部18cという。）が設けられている。なお、特別図柄保留記憶表示器18が設けられているので、保留記憶表示部18cは、設けられていなくてもよい。

【0025】

特別図柄の可変表示は、可変表示の実行条件である始動条件が成立（例えば、遊技球が第1始動入賞口13または第2始動入賞口14に入賞したこと）した後、可変表示の開始条件（例えば、保留記憶数が0でない場合であって、特別図柄の可変表示が実行されていない状態であり、かつ、大当たり遊技が実行されていない状態）が成立したことにもとづいて開始され、可変表示時間が経過すると表示結果（停止図柄）を停止表示する。

【0026】

特別図柄表示器8において、特別図柄の可変表示が開始された後、所定時間（変動時間）が経過すると、特別図柄の可変表示結果である停止図柄を停止表示する。大当たりにすることに決定されている場合には、特定の特別図柄（大当たり図柄）が停止表示される。小当たりにすることに決定されている場合には、大当たり図柄とは異なる所定の特別図柄（小当たり図柄）が停止表示される。はずれにすることに決定されている場合には、大当たり図柄や小当たり図柄以外の特別図柄が停止表示される。大当たり図柄が停止表示された場合には、特定遊技状態としての大当たり遊技状態に制御される。また、小当たり図柄が停止表示された場合には、大当たり遊技状態とは異なる小当たり遊技状態に制御される。この実施の形態では、一例として、「1」、「3」、「7」を示す数字を大当たり図柄とし、「5」を示す数字を小当たり図柄とし、「-」を示す記号をはずれ図柄にする。

【0027】

この実施の形態では、大当たり図柄となる「1」、「3」、「7」の数字を示す特別図柄のうち、「3」、「7」の数字を示す特別図柄を15ラウンド大当たり図柄にする。「1」の数字を示す特別図柄を2ラウンド大当たり図柄にする。特別図柄表示器8に15ラウンド大当たり図柄が停止表示された場合には、可変入賞球装置20における開閉板が、所定期間（例えば、29秒間）または所定個数（例えば、10個）の入賞球が発生するまでの期間、開放状態になって、可変入賞球装置20を遊技者にとって有利な第1状態に変化させるラウンドが開始される。15ラウンド大当たり状態では、ラウンドの回数は第1回数（例えば、15）である。以下、ラウンドの回数が第1回数である大当たり遊技状態を15ラウンド大当たり状態ともいう。

【0028】

また、特別図柄表示器8に2ラウンド大当たり図柄が停止表示された場合には、ラウンドの回数が第2回数（例えば、「2」）である大当たり遊技状態（2ラウンド大当たり状態）に移行する。また、2ラウンド大当たり状態では、各ラウンドの期間は、15ラウンド大当たり状態における第1期間よりも短い第2期間（例えば、0.5秒間）になる。また、2ラウンド大当たり状態では、ラウンドの実行回数が、15ラウンド大当たり状態における第1回数よりも少ない第2回数（例えば、「2」）である。なお、2ラウンド大当たり状態では、各ラウンドで大入賞口を開放状態とする期間が第2期間となることと、ラウンドの実行回数が第2回数となることのうち、少なくともいずれか一方が行われるように制御されればよい。なお、2ラウンド大当たり状態では、各ラウンドで可変入賞球装置20とは別個に設けられた所定の入賞球装置を、遊技者にとって不利な第2状態から遊技者にとって有利な第1状態に変化させ、所定期間（第1期間または第2期間）が経過した後に第2状態へと戻すようにしてもよい。

【0029】

10

20

30

40

50

また、大当たり遊技状態が終了した後、時短状態に制御される。時短状態では、通常状態（確変状態や時短状態ではない状態）に比べて特別図柄の可変表示における特別図柄の変動時間が短縮される。時短状態は、例えば、所定回数（例えば、100回）の特別図柄の可変表示が実行されることと、可変表示結果が「大当たり」となることのうち、いずれかの条件が先に成立したときに終了する。なお、大当たり状態が終了した後に、時短状態にせずに通常状態になるようにしてもよい。

【0030】

確率状態を確変状態に制御することに決定されている場合には、大当たり遊技状態が終了した後、確率状態が確変状態に制御される。確変状態は、例えば、次に可変表示結果として大当たり図柄が停止表示されるまで継続する。大当たり遊技状態に制御することに決定されている場合に停止表示される特別図柄の停止図柄を、大当たり図柄という。そして、大当たり状態に制御しないことに決定されている場合に停止表示される特別図柄の停止図柄を、はずれ図柄という。

10

【0031】

2ラウンド大当たり状態が終了した後も、確率状態が確変状態（高確率状態）に制御される。2ラウンド大当たり状態が終了した後に制御される確変状態を、突然確変（突確）状態ともいう。

【0032】

特別図柄表示器8に小当たり図柄が停止表示された場合には、大当たり遊技状態とは異なる小当たり遊技状態に制御される。小当たり遊技状態では、2ラウンド大当たり状態と同様に、可変入賞球装置20における開閉板が第2期間（例えば、0.5秒間）開放状態になって大入賞口が開放される。開放回数は第2回数（例えば、2）である。ただし、2ラウンド大当たり状態とは異なり、確率状態は変更されない。すなわち、小当たり遊技状態に制御される前の確率状態が継続する。ただし、時短状態の終了条件が成立する場合には、確率状態は低確率状態に制御される。なお、2ラウンド大当たり状態における各ラウンドで可変入賞球装置20とは別個に設けられた入賞球装置を第1状態に変化させる場合には、小当たり遊技状態でも、2ラウンド大当たり状態の場合と同様に、その入賞球装置を第1状態に変化させる。

20

【0033】

また、確変状態では、低確率状態（通常状態）に比べて、大当たり決定される確率が高くなっている。例えば、10倍になっている。具体的には、確変状態では、大当たり判定用乱数の値と一致すると大当たりすることに決定される判定値の数が、低確率状態に比べて10倍になっている。また、普通図柄表示器10の停止図柄が当り図柄になる確率が高められている。すなわち、第2始動入賞口14が開放しやすくなって、始動入賞が生じやすくなっている。具体的には、確変状態は、普通図柄当り判定用乱数の値と一致すると当りにすることに決定される判定値の数が、低確率状態に比べて多い。また、普通図柄表示器10の停止図柄が当り図柄になる確率を高めることに加えて、可変入賞球装置15の開放回数または開放時間を多くしたり、可変入賞球装置15の開放回数および開放時間を多くしたりしてもよい。また、時短状態でも、普通図柄表示器10の停止図柄が当り図柄になる確率を高めたり、可変入賞球装置15の開放回数または開放時間を多くしたり、可変入賞球装置15の開放回数および開放時間を多くしたりしてもよい。

30

40

【0034】

演出表示装置9は、特別図柄表示器8による特別図柄の可変表示時間中に、装飾用（演出用）の図柄としての飾り図柄（演出図柄）の可変表示を行う。特別図柄表示器8における特別図柄の可変表示と、演出表示装置9における飾り図柄の可変表示とは同期している。同期とは、可変表示の開始時点および終了時点が同じであって、可変表示の期間が同じであることをいう。特別図柄表示器8において大当たり図柄が停止表示されるときと、演出表示装置9において大当たりを想起させるような飾り図柄の組み合わせが停止表示される。

【0035】

演出表示装置9の表示領域では、開始条件が成立したことにともづいて、「左」、「中

50

」、右」の各図柄表示エリアにおいて飾り図柄の変動が開始され、例えば、「左」→「右」→「中」の順序で飾り図柄の停止図柄が停止表示される。なお、「左」、「中」、「右」の図柄表示エリアにおいて所定順序で飾り図柄を停止表示してもよいし、「左」、「中」、「右」の各図柄表示エリアにおいて同時に停止図柄を停止表示してもよい。

【0036】

飾り図柄の可変表示が開始されてから「左」、「中」、「右」の各図柄表示エリアにおいて停止図柄が停止表示されるまでの期間（可変表示期間＝変動時間）で、飾り図柄の可変表示状態が所定のリーチ状態となることがある。リーチ状態は、演出表示装置9の表示領域において停止表示された飾り図柄が大当り組み合わせの一部を構成しているときに未だ停止表示されていない飾り図柄の変動が継続している表示状態、または、全部もしくは一部の飾り図柄が大当り組み合わせの全部または一部を構成しながら同期して変動している表示状態である。リーチ状態における表示演出が、リーチ演出表示（リーチ演出）である。

10

【0037】

また、飾り図柄の変動中に、リーチ演出とは異なり、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となる可能性があることや、可変表示結果が大当り図柄になる可能性があることを、飾り図柄の可変表示態様などによって遊技者に報知するための特定演出が実行されることがある。この実施の形態では、「滑り」、「擬似連」といった特定演出が実行可能である。

【0038】

20

擬似連演出では、特別図柄の可変表示の開始条件が1回成立したことにもついで、「左」、「中」、「右」の図柄表示エリア9L, 9C, 9Rにおいて飾り図柄を変動させてから、全ての図柄表示エリア9L, 9C, 9Rにおいて飾り図柄を仮停止表示させた後、全ての図柄表示エリア9L, 9C, 9Rにおいて飾り図柄を再び変動（再変動または擬似連変動という。）させる演出表示を、所定回（例えば、最大4回まで）行う。

【0039】

演出表示装置9の周囲の飾り部において、右側には、3つの右演出LED85Rが設けられ、左側には、3つの左演出LED85Lが設けられている。右演出LED85Rおよび左演出LED85Lは、特定演出としての擬似連の演出（1回の変動期間中におけるそれぞれの再変動期間（初回変動の期間も含む。）において関連する表示演出が実行されるような演出）が実行される場合に点灯したり点滅したりする。

30

【0040】

また、図1に示すように、可変入賞球装置15の下方には、特別可変入賞球装置20が設けられている。特別可変入賞球装置20は開閉板を備え、特別図柄表示器8に特定表示結果（大当り図柄）が停止表示されたときに生起する特定遊技状態（大当り遊技状態）においてソレノイド21によって開閉板が開放状態に制御されることによって、入賞領域となる大入賞口が開放状態になる。大入賞口に入賞した遊技球はカウントスイッチ23で検出される。

【0041】

遊技領域6には、遊技球の入賞にもついであらかじめ決められている所定数の景品遊技球の払出を行うための入賞口（普通入賞口）29, 30, 33, 39も設けられている。入賞口29, 30, 33, 39に入賞した遊技球は、入賞口スイッチ29a, 30a, 33a, 39aで検出される。

40

【0042】

演出表示装置9の上側には、普通図柄表示器10が設けられている。普通図柄表示器10は、普通図柄と呼ばれる複数種類の識別情報（例えば、「○」および「×」）を可変表示する。

【0043】

遊技球がゲート32を通過しゲートスイッチ32aで検出されると、普通図柄表示器10の表示の可変表示が開始される。この実施の形態では、上下のランプ（点灯時に図柄が

50

視認可能になる)が交互に点灯することによって可変表示が行われ、例えば、可変表示の終了時に下側のランプが点灯すれば当たりとなる。そして、普通図柄表示器 10 における停止図柄が所定の図柄(当り図柄)である場合に、可変入賞球装置 15 が所定回数、所定時間だけ開状態になる。すなわち、可変入賞球装置 15 の状態は、普通図柄の停止図柄が当り図柄である場合に、遊技者にとって不利な状態から有利な状態(第 2 始動入賞口 14 に遊技球が入賞可能な状態)に変化する。普通図柄表示器 10 の近傍には、ゲート 32 を通過した入賞球数を表示する 4 つの LED による表示部を有する普通図柄保留記憶表示器 41 が設けられている。ゲート 32 への遊技球の通過がある毎に、すなわちゲートスイッチ 32a によって遊技球が検出される毎に、普通図柄保留記憶表示器 41 は点灯する LED を 1 増やす。そして、普通図柄表示器 10 の可変表示が開始される毎に、点灯する LED を 1 減らす。さらに、低確率状態に比べて大当たりとすることに決定される確率が高い状態である確変状態では、普通図柄表示器 10 における停止図柄が当り図柄になる確率が高められるとともに、可変入賞球装置 15 の開放時間と開放回数が高められる。また、確変状態ではないが図柄の変動時間が短縮されている時短状態(特別図柄の可変表示時間が短縮される状態)でも、可変入賞球装置 15 の開放時間と開放回数が高められる。

【0044】

遊技盤 6 の遊技領域 7 の左右周辺には、遊技中に点滅表示される装飾 LED 25 が設けられ、下部には、入賞しなかった打球が取り込まれるアウト口 26 がある。また、遊技領域 7 の外側の左右上部には、所定の音声出力として効果音や音声を発声する 2 つのスピーカ 27 が設けられている。遊技領域 7 の外周には、天枠 LED 28a、左枠 LED 28b および右枠 LED 28c が設けられている。さらに、遊技領域 7 における各構造物(演出表示装置 9 等)の周囲には装飾 LED が設置されている。天枠 LED 28a、左枠 LED 28b、右枠 LED 28c および装飾用 LED は、遊技機に設けられている演出装置としての装飾発光体の一例である。

【0045】

遊技機には、遊技者が打球操作ハンドル 5 を操作することに応じて駆動モータを駆動し、駆動モータの回転力を利用して遊技球を遊技領域 7 に発射する打球発射装置(図示せず)が設けられている。打球発射装置から発射された遊技球は、遊技領域 7 を囲むように円形状に形成された打球レールを通過して遊技領域 7 に入り、その後、遊技領域 7 を下りてくる。遊技球が第 1 始動入賞口 13 または第 2 始動入賞口 14 に入り第 1 始動口スイッチ 13a または第 2 始動口スイッチ 14a で検出されると、特別図柄の可変表示を開始できる状態であれば(例えば、特別図柄の可変表示が終了し、開始条件が成立したこと)、演出表示装置 9 において飾り図柄の可変表示が開始される。すなわち、特別図柄および飾り図柄の可変表示は、始動入賞口への入賞に対応する。特別図柄の可変表示を開始できる状態でなければ、保留記憶数が上限値に達していないことを条件として、保留記憶数を 1 増やす。

【0046】

図 2 は、主基板(遊技制御基板)31 における回路構成の一例を示すブロック図である。なお、図 2 は、払出制御基板 37 および演出制御基板 80 等も示されている。主基板 31 には、プログラムに従ってパチンコ遊技機 1 を制御する遊技制御用マイクロコンピュータ(遊技制御手段に相当)560 が搭載されている。遊技制御用マイクロコンピュータ 560 は、ゲーム制御(遊技進行制御)用のプログラム等を記憶する ROM 54、ワークメモリとして使用される記憶手段としての RAM 55、プログラムに従って制御動作を行う CPU 56 および I/O ポート部 57 を含む。この実施の形態では、ROM 54 および RAM 55 は遊技制御用マイクロコンピュータ 560 に内蔵されている。すなわち、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 は、1 チップマイクロコンピュータである。1 チップマイクロコンピュータには、少なくとも CPU 56 のほか RAM 55 が内蔵されていればよく、ROM 54 は外付けであっても内蔵されていてもよい。また、I/O ポート部 57 は、外付けであってもよい。遊技制御用マイクロコンピュータ 560 には、さらに、ハードウェア乱数(ハードウェア回路が発生する乱数)が発生する乱数回路 503 が内蔵されて

いる。

【 0 0 4 7 】

また、R A M 5 5 は、その一部または全部が電源基板 9 1 0 において作成されるバックアップ電源によってバックアップされている不揮発性記憶手段としてのバックアップ R A M である。すなわち、遊技機に対する電力供給が停止しても、所定期間（バックアップ電源としてのコンデンサが放電してバックアップ電源が電力供給不能になるまで）は、R A M 5 5 の一部または全部の内容は保存される。特に、少なくとも、遊技制御手段の制御状態に応じたデータ（特別図柄プロセスフラグなど）と未払出賞球数を示すデータは、バックアップ R A M に保存される。遊技制御手段の制御状態に応じたデータとは、停電等が生じた後に復旧した場合に、そのデータにもとづいて、制御状態を停電等の発生前に復旧させるために必要なデータである。また、制御状態に応じたデータと未払出賞球数を示すデータとを遊技の進行状態を示すデータと定義する。なお、この実施の形態では、R A M 5 5 の全部が、電源バックアップされているとする。

10

【 0 0 4 8 】

また、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 において C P U 5 6 が R O M 5 4 に格納されているプログラムに従って制御を実行するので、以下、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 （または C P U 5 6 ）が実行する（または、処理を行う）ということは、具体的には、C P U 5 6 がプログラムに従って制御を実行することである。このことは、主基板 3 1 以外の他の基板に搭載されているマイクロコンピュータについても同様である。

【 0 0 4 9 】

20

乱数回路 5 0 3 は、特別図柄の可変表示の表示結果により大当たりとするか否か判定するための判定用乱数を発生するために用いられるハードウェア回路である。乱数回路 5 0 3 は、初期値（例えば、0）と上限値（例えば、6 5 5 3 5）とが設定された数値範囲内で、数値データを、設定された更新規則に従って更新し、ランダムなタイミングで発生する始動入賞時が数値データの読出（抽出）時であることにともづいて、読出される数値データが乱数値となる乱数発生機能を有する。

【 0 0 5 0 】

乱数回路 5 0 3 は、数値データの更新範囲の選択設定機能（初期値の選択設定機能、および、上限値の選択設定機能）、数値データの更新規則の選択設定機能、および数値データの更新規則の選択切換え機能等の各種の機能を有する。このような機能によって、生成する乱数のランダム性を向上させることができる。

30

【 0 0 5 1 】

また、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、乱数回路 5 0 3 が更新する数値データの初期値を設定する機能を有している。例えば、R O M 5 4 等の所定の記憶領域に記憶された遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 の I D ナンバ（遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 の各製品ごとに異なる数値で付与された I D ナンバ）を用いて所定の演算を行なって得られた数値データを、乱数回路 5 0 3 が更新する数値データの初期値として設定する。そのような処理を行うことによって、乱数回路 5 0 3 が発生する乱数のランダム性をより向上させることができる。

【 0 0 5 2 】

40

また、ゲートスイッチ 3 2 a、第 1 始動口スイッチ 1 3 a、第 2 始動口スイッチ 1 4 a、カウントスイッチ 2 3、入賞口スイッチ 2 9 a、3 0 a、3 3 a、3 9 a からの検出信号を遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 に与える入力ドライバ回路 5 8 も主基板 3 1 に搭載されている。また、可変入賞球装置 1 5 を開閉するソレノイド 1 6、および大入賞口を形成する特別可変入賞球装置 2 0 を開閉するソレノイド 2 1 を遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 からの指令に従って駆動する出力回路 5 9 も主基板 3 1 に搭載されている。

【 0 0 5 3 】

また、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、特別図柄を可変表示（変動表示）する特別図柄表示器 8、普通図柄を可変表示する普通図柄表示器 1 0、特別図柄保留記憶表

50

示器 18 および普通図柄保留記憶表示器 41 の表示制御を行う。

【0054】

なお、大当り遊技状態の発生を示す大当り情報等の情報出力信号をホールコンピュータ等の外部装置に対して出力する情報出力回路（図示せず）も主基板 31 に搭載されている。

【0055】

この実施の形態では、演出制御基板 80 に搭載されている演出制御手段（演出制御用マイクロコンピュータで構成される。）が、中継基板 77 を介して遊技制御用マイクロコンピュータ 560 から演出内容を指示する演出制御コマンドを受信し、飾り図柄を可変表示する演出表示装置 9 の表示制御を行う。

10

【0056】

また、演出制御基板 80 に搭載されている演出制御手段が、ランプドライバ基板 35 を介して、遊技盤に設けられている装飾 LED 25 や枠側に設けられている枠 LED（天枠 LED 28a、左枠 LED 28b、右枠 LED 28c）等の表示制御を行うとともに、音声出力基板 70 を介してスピーカ 27 からの音出力の制御を行う。

【0057】

図 3 は、中継基板 77、演出制御基板 80、ランプドライバ基板 35 および音声出力基板 70 の回路構成例を示すブロック図である。なお、図 3 に示す例では、ランプドライバ基板 35 および音声出力基板 70 には、マイクロコンピュータは搭載されていないが、マイクロコンピュータを搭載してもよい。また、ランプドライバ基板 35 および音声出力基板 70 を設けずに、演出制御に関して演出制御基板 80 のみを設けてもよい。

20

【0058】

演出制御基板 80 は、演出制御用 CPU 101、および演出制御プロセスフラグ等の演出に関する情報を記憶する RAM を含む演出制御用マイクロコンピュータ 100 を搭載している。なお、RAM は外付けであってもよい。この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ 100 における RAM は電源バックアップされていない。演出制御基板 80 において、演出制御用 CPU 101 は、内蔵または外付けの ROM（図示せず）に格納されたプログラムに従って動作し、中継基板 77 を介して入力される主基板 31 からの取込信号（演出制御 INT 信号）に応じて、入力ドライバ 102 および入力ポート 103 を介して演出制御コマンドを受信する。また、演出制御用 CPU 101 は、演出制御コマンド

30

にもとづいて、VDP（ビデオディスプレイプロセッサ）109 に演出表示装置 9 の表示制御を行わせる。

【0059】

この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ 100 と共動して演出表示装置 9 の表示制御を行う VDP 109 が演出制御基板 80 に搭載されている。VDP 109 は、演出制御用マイクロコンピュータ 100 とは独立したアドレス空間を有し、そこに VRAM をマッピングする。VRAM は、画像データを展開するためのバッファメモリである。そして、VDP 109 は、VRAM 内の画像データをフレームメモリを介して演出表示装置 9 に出力する。

【0060】

40

演出制御用 CPU 101 は、受信した演出制御コマンドに従って CGROM（図示せず）から必要なデータを読み出すための指令を VDP 109 に出力する。CGROM は、演出表示装置 9 に表示されるキャラクタ画像データや動画像データ、具体的には、人物、文字、図形や記号等（飾り図柄を含む）、および背景画像のデータをあらかじめ格納しておくための ROM である。VDP 109 は、演出制御用 CPU 101 の指令に応じて、CGROM から画像データを読み出す。そして、VDP 109 は、読み出した画像データにもとづいて表示制御を実行する。

【0061】

演出制御コマンドおよび演出制御 INT 信号は、演出制御基板 80 において、まず、入力ドライバ 102 に入力する。入力ドライバ 102 は、中継基板 77 から入力された信号

50

を演出制御基板 80 の内部に向かう方向にしか通過させない（演出制御基板 80 の内部から中継基板 77 へ方向には信号を通過させない）信号方向規制手段としての単方向性回路でもある。

【0062】

中継基板 77 には、主基板 31 から入力された信号を演出制御基板 80 に向かう方向にしか通過させない（演出制御基板 80 から中継基板 77 へ方向には信号を通過させない）信号方向規制手段としての単方向性回路 74 が搭載されている。単方向性回路として、例えばダイオードやトランジスタが使用される。図 3 には、ダイオードが例示されている。また、単方向性回路は、各信号毎に設けられる。さらに、単方向性回路である出力ポート 571 を介して主基板 31 から演出制御コマンドおよび演出制御 INT 信号が出力されるので、中継基板 77 から主基板 31 の内部に向かう信号が規制される。すなわち、中継基板 77 からの信号は主基板 31 の内部（遊技制御用マイクロコンピュータ 560 側）に入り込まない。なお、出力ポート 571 は、図 2 に示された I/O ポート部 57 の一部である。また、出力ポート 571 の外側（中継基板 77 側）に、さらに、単方向性回路である信号ドライバ回路が設けられていてもよい。

10

【0063】

また、演出制御用 CPU 101 は、出力ポート 105 を介してランプドライバ基板 35 に対して LED を駆動する信号を出力する。また、演出制御用 CPU 101 は、出力ポート 104 を介して音声出力基板 70 に対して音番号データを出力する。

【0064】

20

ランプドライバ基板 35 において、LED を駆動する信号は、入力ドライバ 351 を介して LED ドライバ 352 に入力される。LED ドライバ 352 は、LED を駆動する信号にもとづいて枠 LED 28（具体的には、天枠 LED 28a、左枠 LED 28b、右枠 LED 28c）などの枠側に設けられている発光体に電流を供給する。また、遊技盤側に設けられている装飾 LED 25、右演出 LED 85R および左演出 LED 85L に電流を供給する。

【0065】

音声出力基板 70 において、音番号データは、入力ドライバ 702 を介して音声合成用 IC 703 に入力される。音声合成用 IC 703 は、音番号データに応じた音声や効果音を発生し増幅回路 705 に出力する。増幅回路 705 は、音声合成用 IC 703 の出力レベルを、ボリューム 706 で設定されている音量に応じたレベルに増幅した音声信号をスピーカ 27 に出力する。音声データ ROM 704 には、音番号データに応じた制御データが格納されている。音番号データに応じた制御データは、所定期間（例えば飾り図柄の変動期間）における効果音または音声の出力態様を時系列的に示すデータの集まりである。

30

【0066】

次に、遊技機の動作について説明する。図 4 は、主基板 31 における遊技制御用マイクロコンピュータ 560 が実行するメイン処理を示すフローチャートである。遊技機に対して電源が投入され電力供給が開始されると、リセット信号が入力されるリセット端子の入力レベルがハイレベルになり、遊技制御用マイクロコンピュータ 560（具体的には、CPU 56）は、プログラムの内容が正当か否か確認するための処理であるセキュリティチェック処理を実行した後、ステップ S1 以降のメイン処理を開始する。メイン処理において、CPU 56 は、まず、必要な初期設定を行う。

40

【0067】

初期設定処理において、CPU 56 は、まず、割込禁止に設定する（ステップ S1）。次に、割込モードを割込モード 2 に設定し（ステップ S2）、スタックポインタにスタックポインタ指定アドレスを設定する（ステップ S3）。そして、内蔵デバイスの初期化（内蔵デバイス（内蔵周辺回路）である CTC（カウンタ/タイマ）および PIO（パラレル入出力ポート）の初期化など）を行った後（ステップ S4）、RAM 55 をアクセス可能状態に設定する（ステップ S5）。なお、割込モード 2 は、CPU 56 が内蔵する特定レジスタ（エレジスタ）の値（1 バイト）と内蔵デバイスが出力する割込ベクタ（1 バイ

50

ト：最下位ビット 0) とから合成されるアドレスが、割込番地を示すモードである。

【 0 0 6 8 】

次いで、CPU 56 は、入力ポートを介して入力されるクリアスイッチ（例えば、電源基板に搭載されている。）の出力信号の状態を確認する（ステップ S 6 ）。その確認においてオンを検出した場合には、CPU 56 は、通常の初期化処理を実行する（ステップ S 10 ~ S 15 ）。

【 0 0 6 9 】

クリアスイッチがオンの状態でない場合には、遊技機への電力供給が停止したときにバックアップ RAM 領域のデータ保護処理（例えばパリティデータの付加等の電力供給停止時処理）が行われたか否か確認する（ステップ S 7 ）。そのような保護処理が行われていないことを確認したら、CPU 56 は初期化処理を実行する。バックアップ RAM 領域にバックアップデータがあるか否かは、例えば、電力供給停止時処理においてバックアップ RAM 領域に設定されるバックアップフラグの状態によって確認される。

【 0 0 7 0 】

電力供給停止時処理が行われたことを確認したら、CPU 56 は、バックアップ RAM 領域のデータチェックを行う（ステップ S 8 ）。この実施の形態では、データチェックとしてパリティチェックを行う。よって、ステップ S 8 では、算出したチェックサムと、電力供給停止時処理で同一の処理によって算出され保存されているチェックサムとを比較する。不測の停電等の電力供給停止が生じた後に復旧した場合には、バックアップ RAM 領域のデータは保存されているはずであるから、チェック結果（比較結果）は正常（一致）になる。チェック結果が正常でないということは、バックアップ RAM 領域のデータが、電力供給停止時のデータとは異なっていることを意味する。そのような場合には、内部状態を電力供給停止時の状態に戻すことができないので、電力供給の停止からの復旧時でない電源投入時に実行される初期化処理を実行する。

【 0 0 7 1 】

チェック結果が正常であれば、CPU 56 は、遊技制御手段の内部状態と演出制御手段等の電気部品制御手段の制御状態を電力供給停止時の状態に戻すための遊技状態復旧処理（ステップ S 41 ~ S 43 の処理）を行う。具体的には、ROM 54 に格納されているバックアップ時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し（ステップ S 41 ）、バックアップ時設定テーブルの内容を順次作業領域（RAM 55 内の領域）に設定する（ステップ S 42 ）。作業領域はバックアップ電源によって電源バックアップされている。バックアップ時設定テーブルには、作業領域のうち初期化してもよい領域についての初期化データが設定されている。ステップ S 41 および S 42 の処理によって、作業領域のうち初期化してはならない部分については、保存されていた内容がそのまま残る。初期化してはならない部分とは、例えば、電力供給停止前の状態を示すデータ（特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグなど）、出力ポートの出力状態が保存されている領域（出力ポートバッファ）、未払出賞球数を示すデータが設定されている部分などである。

【 0 0 7 2 】

また、CPU 56 は、電力供給復旧時の初期化コマンドとしての停電復旧指定コマンドを演出制御基板 80 に送信する（ステップ S 43 ）。そして、ステップ S 14 に移行する。

【 0 0 7 3 】

なお、この実施の形態では、バックアップフラグとチェックデータとの双方を用いてバックアップ RAM 領域のデータが保存されているか否か確認しているが、いずれか一方のみを用いてもよい。すなわち、バックアップフラグとチェックデータとのいずれかを、遊技状態復旧処理を実行するための契機としてもよい。

【 0 0 7 4 】

初期化処理では、CPU 56 は、まず、RAM クリア処理を行う（ステップ S 10 ）。なお、RAM クリア処理によって、所定のデータ（例えば大当たり判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ）は 0 に初期化されるが、任意の値またはあらかじめ

10

20

30

40

50

決められている値に初期化するようにしてもよい。また、RAM 55の全領域を初期化せず、所定のデータ（例えば大当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ）をそのままにしてもよい。また、ROM 54に格納されている初期化時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し（ステップS11）、初期化時設定テーブルの内容を順次RAM 55における作業領域に設定する（ステップS12）。

【0075】

ステップS11およびS12の処理によって、特別図柄プロセスフラグなど制御状態に応じて選択的に処理を行うためのフラグに初期値が設定される。

【0076】

また、CPU 56は、サブ基板（主基板31以外のマイクロコンピュータが搭載された基板。）を初期化するための初期化指定コマンド（遊技制御用マイクロコンピュータ560が初期化処理を実行したことを示すコマンドでもある。）を演出制御基板80に送信する（ステップS13）。例えば、演出制御基板80に搭載されている演出制御用マイクロコンピュータ100は、初期化指定コマンドを受信すると、演出表示装置9において、遊技機の制御の初期化がなされたことを報知するための画面表示、すなわち初期化報知を行う。なお、初期化処理において、CPU 56は、客待ちデモンストレーション指定（デモ指定）コマンドも送信する。

【0077】

また、CPU 56は、乱数回路503を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップS14）。CPU 56は、例えば、乱数回路設定プログラムに従って処理を実行することによって、乱数回路503にランダムRの値を更新させるための設定を行う。

【0078】

そして、CPU 56は、所定時間（例えば2ms）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ560に内蔵されているCTCのレジスタの設定を行なう（ステップS15）。すなわち、初期値として例えば2msに相当する値が所定のレジスタ（時間定数レジスタ）に設定される。この実施の形態では、2ms毎に定期的にタイマ割込がかかるとする。

【0079】

初期化処理の実行（ステップS10～S15）が完了すると、CPU 56は、メイン処理で、表示用乱数更新処理（ステップS17）および初期値用乱数更新処理（ステップS18）を繰り返し実行する。表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理を実行するときには割込禁止状態に設定し（ステップS16）、表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理の実行が終了すると割込許可状態に設定する（ステップS19）。この実施の形態では、表示用乱数とは、変動パターン等を決定するための乱数であり、表示用乱数更新処理とは、表示用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。また、初期値用乱数更新処理とは、初期値用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。この実施の形態では、初期値用乱数とは、普通図柄の当りとするか否か決定するための乱数を発生するためのカウンタ（普通図柄当り判定用乱数発生カウンタ）等のカウント値の初期値を決定するための乱数である。後述する遊技の進行を制御する遊技制御処理（遊技制御用マイクロコンピュータ560が、遊技機に設けられている可変表示装置、可変入賞球装置、球払出装置等の遊技用の装置を、自身で制御する処理、または他のマイクロコンピュータに制御させるために指令信号を送信する処理、遊技装置制御処理ともいう）において、普通図柄当り判定用乱数発生カウンタ等のカウント値が1周（乱数の取りうる値の最小値から最大値までの間の数値の個数分歩進したこと）すると、そのカウンタに初期値が設定される。

【0080】

タイマ割込が発生すると、CPU 56は、図5に示すステップS20～S34のタイマ割込処理を実行する。タイマ割込処理において、まず、電源断信号が出力されたか否か（オン状態になったか否か）を検出する電源断検出処理を実行する（ステップS20）。電源断信号は、例えば電源基板に搭載されている電源監視回路が、遊技機に供給される電源

10

20

30

40

50

の電圧の低下を検出した場合に出力する。そして、電源断検出処理において、CPU 56は、電源断信号が出力されたことを検出したら、必要なデータをバックアップRAM領域に保存するための電力供給停止時処理を実行する。次いで、入力ドライバ回路58を介して、ゲートスイッチ32a、第1始動口スイッチ13a、第2始動口スイッチ14a、カウントスイッチ23、および入賞口スイッチ29a、30a、33a、39aの検出信号を入力し、それらの状態判定を行う（スイッチ処理：ステップS21）。

【0081】

次に、CPU 56は、特別図柄表示器8、普通図柄表示器10、特別図柄保留記憶表示器18、普通図柄保留記憶表示器41の表示制御を行う表示制御処理を実行する（ステップS22）。特別図柄表示器8および普通図柄表示器10については、ステップS32、S33で設定される出力バッファの内容に応じて各表示器に対して駆動信号を出力する制御を実行する。

10

【0082】

また、遊技制御に用いられる普通当り図柄決定用乱数等の各判定用乱数を生成するための各カウンタのカウント値を更新する処理を行う（判定用乱数更新処理：ステップS23）。CPU 56は、さらに、初期値用乱数および表示用乱数を生成するためのカウンタのカウント値を更新する処理を行う（初期値用乱数更新処理、表示用乱数更新処理：ステップS24、S25）。

【0083】

さらに、CPU 56は、特別図柄プロセス処理を行う（ステップS26）。特別図柄プロセス処理では、特別図柄表示器8および大入賞口を所定の順序で制御するための特別図柄プロセスフラグに従って該当する処理を実行する。CPU 56は、特別図柄プロセスフラグの値を更新する。

20

【0084】

次いで、普通図柄プロセス処理を行う（ステップS27）。普通図柄プロセス処理では、CPU 56は、普通図柄表示器10の表示状態を所定の順序で制御するための普通図柄プロセスフラグに従って該当する処理を実行する。CPU 56は、普通図柄プロセスフラグの値を更新する。

【0085】

また、CPU 56は、演出制御用マイクロコンピュータ100に演出制御コマンドを送出する処理を行う（演出制御コマンド制御処理：ステップS28）。

30

【0086】

さらに、CPU 56は、例えばホール管理用コンピュータに供給される大当り情報、始動情報、確率変動情報などのデータを出力する情報出力処理を行う（ステップS29）。

【0087】

また、CPU 56は、第1始動口スイッチ13a、第2始動口スイッチ14a、カウントスイッチ23および入賞口スイッチ29a、30a、33a、39aの検出信号にもとづく賞球個数の設定などを行う賞球処理を実行する（ステップS30）。具体的には、第1始動口スイッチ13a、第2始動口スイッチ14a、カウントスイッチ23および入賞口スイッチ29a、30a、33a、39aのいずれかがオンしたことにもとづく入賞検出に応じて、払出制御基板37に搭載されている払出制御用マイクロコンピュータに賞球個数を示す払出制御コマンド（賞球個数信号）を出力する。払出制御用マイクロコンピュータは、賞球個数を示す払出制御コマンドに応じて球払出装置97を駆動する。

40

【0088】

この実施の形態では、出力ポートの出力状態に対応したRAM領域（出力ポートバッファ）が設けられているのであるが、CPU 56は、出力ポートの出力状態に対応したRAM領域におけるソレノイドのオン/オフに関する内容を出力ポートに出力する（ステップS31：出力処理）。

【0089】

また、CPU 56は、特別図柄の演出表示を行うための特別図柄表示制御データを特別

50

図柄表示制御データ設定用の出力バッファに設定する特別図柄表示制御処理を行う（ステップS32）。CPU56は、例えば、特別図柄プロセス処理でセットされる開始フラグがセットされると終了フラグがセットされるまで、変動速度が1コマ/0.2秒であれば、0.2秒が経過する毎に、出力バッファに設定される表示制御データの値を+1する。また、CPU56は、出力バッファに設定された表示制御データに応じて、ステップS22において駆動信号を出力することによって、特別図柄表示器8における特別図柄の可変表示を実行する。

【0090】

なお、ステップS32の処理で、開始フラグがセットされたことにもとづいて特別図柄の変動を開始するのではなく、特別図柄プロセスフラグの値が変動パターン決定後の特別図柄変動中処理を示す値（具体的には3）となった（または、表示結果特定コマンド送信処理を示す値（具体的には2）となった）ことにもとづいて、特別図柄の変動を開始するようにしてもよい。そして、特別図柄プロセスフラグの値が特別図柄停止処理を示す値（具体的には4）となったことにもとづいて、特別図柄の変動を停止するようにしてもよい。そのようにすれば、開始フラグおよび終了フラグを不要とすることができ、RAM55の必要容量を低減することができる。

【0091】

さらに、CPU56は、普通図柄の演出表示を行うための普通図柄表示制御データを普通図柄表示制御データ設定用の出力バッファに設定する普通図柄表示制御処理を行う（ステップS33）。CPU56は、例えば、普通図柄の変動に関する開始フラグがセットされると終了フラグがセットされるまで、普通図柄の変動速度が0.2秒ごとに表示状態（「○」および「×」）を切り替えるような速度であれば、0.2秒が経過する毎に、出力バッファに設定される表示制御データの値（例えば、「○」を示す1と「×」を示す0）を切り替える。また、CPU56は、出力バッファに設定された表示制御データに応じて、ステップS22において駆動信号を出力することによって、普通図柄表示器10における普通図柄の演出表示を実行する。

【0092】

なお、ステップS33の処理で、開始フラグがセットされたことにもとづいて普通図柄の変動を開始するのではなく、普通図柄プロセスフラグの値が普通図柄変動中処理を示す値となったことにもとづいて、普通図柄の変動を開始するようにしてもよい。そして、普通図柄プロセスフラグの値が普通図柄停止処理を示す値となったことにもとづいて、普通図柄の変動を停止するようにしてもよい。そのようにすれば、開始フラグおよび終了フラグを不要とすることができ、RAM55の必要容量を低減することができる。

【0093】

その後、割込許可状態に設定し（ステップS34）、処理を終了する。

【0094】

以上の制御によって、この実施の形態では、遊技制御処理は2ms毎に起動されることになる。なお、遊技制御処理は、タイマ割込処理におけるステップS21～S33（ステップS29を除く。）の処理に相当する。また、この実施の形態では、タイマ割込処理で遊技制御処理が実行されているが、タイマ割込処理では例えば割込が発生したことを示すフラグのセットのみがなされ、遊技制御処理はメイン処理において実行されるようにしてもよい。

【0095】

特別図柄表示器8および演出表示装置9にはずれ図柄が停止表示される場合には、演出図柄の可変表示が開始されてから、演出図柄の可変表示状態がリーチ状態にならずに、リーチにならない所定の演出図柄の組み合わせが停止表示されることがある。このような演出図柄の可変表示態様を、可変表示結果がはずれ図柄になる場合における「非リーチ」（「通常はずれ」ともいう）の可変表示態様という。

【0096】

特別図柄表示器8および演出表示装置9にはずれ図柄が停止表示される場合には、演出

10

20

30

40

50

図柄の可変表示が開始されてから、演出図柄の可変表示状態がリーチ状態となった後にリーチ演出が実行され、最終的に大当り図柄とはならない所定の演出図柄の組み合わせが停止表示されることがある。このような演出図柄の可変表示結果を、可変表示結果が「はずれ」となる場合における「リーチ」（「リーチはずれ」ともいう）の可変表示態様という。

【 0 0 9 7 】

この実施の形態では、特別図柄表示器 8 に大当り図柄（例えば、「33」や「77」）が停止表示される場合には、演出図柄の可変表示状態がリーチ状態になった後にリーチ演出が実行され、最終的に演出表示装置 9 における「左」、「中」、「右」の各図柄表示エリア 9 L、9 C、9 R に、演出図柄が揃って停止表示される。

10

【 0 0 9 8 】

特別図柄表示器 8 に小当り図柄（例えば、「55」）が停止表示される場合には、演出表示装置 9 において、演出図柄の可変表示態様が「突然確変大当り」である場合と同様に演出図柄の可変表示が行われた後、所定の小当り図柄（突然確変大当り図柄と同じ図柄。例えば「135」）が停止表示されることがある。特別図柄表示器 8 に小当り図柄である「55」が停止表示されることに対応する演出表示装置 9 における表示演出を「小当り」の可変表示態様という。

【 0 0 9 9 】

ここで、小当りとは、大当りと比較して大入賞口の開放回数が少ない回数（この実施の形態では 0 . 1 秒間の開放を 2 回）まで許容される当りである。なお、小当り遊技が終了した場合、確率状態は変化しない。すなわち、確変状態から低確率状態に移行したり低確率状態から確変状態に移行したりすることはない。また、突然確変大当りとは、大当り遊技状態において大入賞口の開放回数が少ない回数（この実施の形態では 0 . 1 秒間の開放を 2 回）まで許容されるが大入賞口の開放時間が極めて短い大当りであり、かつ、大当り遊技後の確率状態を確変状態に移行させるような大当りである（すなわち、そのようにすることにより、遊技者に対して突然に確変状態となったかのように見せるものである）。つまり、この実施の形態では、突然確変大当りと小当りとは、大入賞口の開放パターンが同じである。そのように制御することによって、大入賞口の 0 . 1 秒間の開放が 2 回行われると、突然確変大当りであるか小当りであるかまでは認識できないので、遊技者に対して高確率状態（確変状態）を期待させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

20

30

【 0 1 0 0 】

図 6 は、あらかじめ用意された演出図柄の変動パターンを示す説明図である。図 6 に示すように、この実施の形態では、可変表示結果が「はずれ」であり演出図柄の可変表示態様が「非リーチ」である場合に対応した変動パターンとして、非リーチ P A 1 - 1 ~ 非リーチ P A 1 - 4 の変動パターンが用意されている。また、可変表示結果が「はずれ」であり演出図柄の可変表示態様が「リーチ」である場合に対応した変動パターンとして、ノーマル P A 2 - 1 ~ ノーマル P A 2 - 2、ノーマル P B 2 - 1 ~ ノーマル P B 2 - 2、スーパー P A 3 - 1 ~ スーパー P A 3 - 2、スーパー P B 3 - 1 ~ スーパー P B 3 - 2 の変動パターンが用意されている。なお、図 6 に示すように、リーチしない場合に使用され擬似連の演出を伴う非リーチ P A 1 - 4 の変動パターンについては、再変動が 2 回行われる。リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、ノーマル P B 2 - 1 を用いる場合には、再変動が 2 回行われる。また、リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、ノーマル P B 2 - 2 を用いる場合には、再変動が 3 回行われる。さらに、リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、スーパー P A 3 - 1 ~ スーパー P A 3 - 2 を用いる場合には、再変動が 4 回行われる。

40

【 0 1 0 1 】

また、図 6 に示すように、この実施の形態では、特別図柄の可変表示結果が大当り図柄または小当り図柄になる場合に対応した変動パターンとして、ノーマル P A 2 - 3 ~ ノーマル P A 2 - 4、ノーマル P B 2 - 3 ~ ノーマル P B 2 - 4、スーパー P A 3 - 3 ~ スー

50

パー P A 3 - 4、スーパー P B 3 - 3 ~ スーパー P B 3 - 4、特殊 P G 1 - 1 ~ 特殊 P G 1 - 3、特殊 P G 2 - 1 ~ 特殊 P G 2 - 2 の変動パターンが用意されている。なお、図 6 において、特殊 P G 1 - 1 ~ 特殊 P G 1 - 3、特殊 P G 2 - 1 ~ 特殊 P G 2 - 2 の変動パターンは、突然確変大当たりまたは小当たりとなる場合に使用される変動パターンである。また、図 6 に示すように、突然確変大当たりまたは小当たりでない場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、ノーマル P B 2 - 3 を用いる場合には、再変動が 2 回行われる。また、リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、ノーマル P B 2 - 4 を用いる場合には、再変動が 3 回行われる。さらに、リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、スーパー P A 3 - 3 ~ スーパー P A 3 - 4 を用いる場合には、再変動が 4 回行われる。また、突然確変大当たりまたは小当たりの場合に使用され擬似連の演出を伴う特殊 P G 1 - 3 の変動パターンについては、再変動が 2 回行われる。

10

【 0 1 0 2 】

なお、この実施の形態では、図 6 に示すように、リーチの種類に応じて変動時間が固定的に定められている場合（例えば、擬似連ありのスーパーリーチ A の場合には変動時間が 3 2 . 7 5 秒で固定であり、擬似連なしのスーパーリーチ A の場合には変動時間が 2 2 . 7 5 秒で固定である）を示しているが、例えば、同じ種類のスーパーリーチの場合であっても、保留記憶数に応じて、変動時間を異ならせるようにしてもよい。例えば、同じ種類のスーパーリーチを伴う場合であっても、保留記憶数が多くなるに従って、変動時間が短くなるようにしてもよい。

20

【 0 1 0 3 】

図 7 は、各乱数を示す説明図である。各乱数は、以下のように使用される。

- (1) ランダム 1 : 大当たりの種類（後述する通常大当たり、確変大当たり、突然確変大当たり）を決定する（大当たり種別判定用）
- (2) ランダム 2 : 変動パターンの種類（種別）を決定する（変動パターン種別判定用）
- (3) ランダム 3 : 変動パターン（変動時間）を決定する（変動パターン判定用）
- (4) ランダム 4 : 普通図柄にもとづく当りを発生させるか否が決定する（普通図柄当り判定用）
- (5) ランダム 5 : ランダム 4 の初期値を決定する（ランダム 4 初期値決定用）

【 0 1 0 4 】

30

この実施の形態では、ランダム 1 の値は、図 5 に示すタイマ割込処理のステップ S 2 3 の処理で、0 ~ 3 9 の範囲で 1 ずつカウントアップする。この実施の形態では、2 m s 毎にタイマ割込がかかるように構成されているので、ランダム 1 の値は、2 m s 毎に 0 ~ 3 9 の範囲で 1 ずつカウントアップする。ランダム 2 の値は、図 5 に示すタイマ割込処理のステップ S 2 5 の処理で、1 ~ 2 5 1 の範囲で 1 ずつカウントアップする。この実施の形態では、2 m s 毎にタイマ割込がかかるように構成されているので、ランダム 2 の値は、2 m s 毎に 1 ~ 2 5 1 の範囲で 1 ずつカウントアップする。また、ランダム 2 の値は、図 4 に示すステップ S 1 7 の処理でも 1 ~ 2 5 1 の範囲で 1 ずつカウントアップする。つまり、ランダム 2 の値は、タイマ割込処理の余り時間（次のタイマ割込処理が発生するまでの時間）にも 1 ~ 2 5 1 の範囲で 1 ずつカウントアップする。

40

【 0 1 0 5 】

この実施の形態では、ランダム 3 の値は、図 5 に示すタイマ割込処理のステップ S 2 5 の処理で、1 ~ 9 9 7 の範囲で 1 ずつカウントアップする。この実施の形態では、2 m s 毎にタイマ割込がかかるように構成されているので、ランダム 3 の値は、2 m s 毎に 1 ~ 9 9 7 の範囲で 1 ずつカウントアップする。また、ランダム 3 の値は、図 4 に示すステップ S 1 7 の処理でも 1 ~ 9 9 7 の範囲で 1 ずつカウントアップする。つまり、ランダム 3 の値は、タイマ割込処理の余り時間（次のタイマ割込処理が発生するまでの時間）にも 1 ~ 9 9 7 の範囲で 1 ずつカウントアップする。ランダム 4 の値は、図 5 に示すタイマ割込処理のステップ S 2 3 の処理で、3 ~ 1 3 の範囲で 1 ずつカウントアップする。この実施の形態では、2 m s 毎にタイマ割込がかかるように構成されているので、ランダム 4 の値

50

は、2 m s 毎に3 ~ 13の範囲で1ずつカウントアップする。

【0106】

この実施の形態では、ランダム5の値は、図5に示すタイマ割込処理のステップS24の処理で、3 ~ 13の範囲で1ずつカウントアップする。この実施の形態では、2 m s 毎にタイマ割込がかかるように構成されているので、ランダム5の値は、2 m s 毎に3 ~ 13の範囲で1ずつカウントアップする。また、ランダム5の値は、図4に示すステップS18の処理でも3 ~ 13の範囲で1ずつカウントアップする。つまり、ランダム5の値は、タイマ割込処理の余り時間（次のタイマ割込処理が発生するまでの時間）にも3 ~ 13の範囲で1ずつカウントアップする。

【0107】

なお、この実施の形態では、変動パターンは、まず、変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）を用いて変動パターン種別を決定し、変動パターン判定用乱数（ランダム3）を用いて、決定した変動パターン種別に含まれるいずれかの変動パターンに決定する。そのように、この実施の形態では、2段階の抽選処理によって変動パターンが決定される。

【0108】

なお、変動パターン種別とは、複数の変動パターンをその変動態様の特徴に従ってグループ化したものである。例えば、複数の変動パターンをリーチの種類でグループ化して、ノーマルリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別と、スーパーリーチAを伴う変動パターンを含む変動パターン種別と、スーパーリーチBを伴う変動パターンを含む変動パターン種別とに分けてもよい。また、例えば、複数の変動パターンを擬似連の再変動の回数でグループ化して、擬似連を伴わない変動パターンを含む変動パターン種別と、再変動2回未満の変動パターンを含む変動パターン種別と、再変動3回の変動パターンを含む変動パターン種別と、再変動4回の変動パターンを含む変動パターン種別とに分けてもよい。また、例えば、複数の変動パターンを擬似連や滑り演出などの特定演出の有無でグループ化してもよい。

【0109】

なお、この実施の形態では、後述するように、通常大当たりや確変大当たりである場合には、ノーマルリーチのみを伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルCA3-1と、ノーマルリーチおよび擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルCA3-2と、スーパーリーチを伴う変動パターン種別であるスーパーCA3-3とに種別分けされている。また、小当たりや突然確変大当たりである場合には、非リーチの変動パターンを含む変動パターン種別である特殊CA4-1と、リーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別である特殊CA4-2とに種別分けされている。また、はずれである場合には、リーチも特定演出も伴わない変動パターンを含む変動パターン種別である非リーチCA2-1と、リーチも特定演出も伴わない短縮変動の変動パターンを含む変動パターン種別である非リーチCA2-2と、リーチを伴わないが特定演出を伴う変動パターンを含む変動パターン種別である非リーチCA2-3と、ノーマルリーチのみを伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルCA2-3と、ノーマルリーチおよび再変動3回の擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルCA2-4と、ノーマルリーチおよび再変動2回の擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルCA2-5と、スーパーリーチを伴う変動パターン種別であるスーパーCA2-6とに種別分けされている。

【0110】

図5に示された遊技制御処理におけるステップS23では、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、(1)の大当たり種別判定用乱数、および(4)の普通図柄当たり判定用乱数を生成するためのカウンタのカウントアップ(1加算)を行う。すなわち、それらが判定用乱数であり、それら以外の乱数が表示用乱数（ランダム2、ランダム3）または初期値用乱数（ランダム5）である。なお、遊技効果を高めるために、上記の乱数以外の乱数も用いてもよい。また、この実施の形態では、大当たり判定用乱数として、遊技制御用マイクロコンピュータ560に内蔵されたハードウェア（遊技制御用マイクロコンピュータ5

10

20

30

40

50

60の外部のハードウェアでもよい。)が生成する乱数を用いる。

【0111】

図8(A)は、大当り判定テーブルを示す説明図である。大当り判定テーブルとは、ROM54に記憶されているデータの集まりであって、ランダムRと比較される大当り判定値が設定されているテーブルである。大当り判定テーブルには、低確率状態(確変状態でない確率状態)において用いられる通常時大当り判定テーブルと、確変状態において用いられる確変時大当り判定テーブルとがある。通常時大当り判定テーブルには、図8(A)の左欄に記載されている各数値が設定され、確変時大当り判定テーブルには、図8(A)の右欄に記載されている各数値が設定されている。図8(A)に記載されている数値が大当り判定値である。

10

【0112】

図8(B)は、小当り判定テーブルを示す説明図である。小当り判定テーブルとは、ROM54に記憶されているデータの集まりであって、ランダムRと比較される小当り判定値が設定されているテーブルである。また、図8(B)に記載されている数値が小当り判定値である。

【0113】

CPU56は、所定の時期に、乱数回路503のカウント値を抽出して抽出値を大当り判定用乱数(ランダムR)の値とするのであるが、大当り判定用乱数値が図8(A)に示すいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り(後述する通常大当り、確変大当り、突然確変大当り)にすることに決定する。また、大当り判定用乱数値が図8(B)に示すいずれかの小当り判定値に一致すると、特別図柄に関して小当りにすることに決定する。なお、図8(A)に示す「確率」は、大当りになる確率(割合)を示す。また、図8(B)に示す「確率」は、小当りになる確率(割合)を示す。また、大当りにするか否か決定するということは、大当り遊技状態に移行させるか否か決定するということであるが、特別図柄表示器8における停止図柄を大当り図柄にするか否か決定するということでもある。また、小当りにするか否か決定するということとは、小当り遊技状態に移行させるか否か決定するということであるが、特別図柄表示器8における停止図柄を小当り図柄にするか否か決定するということでもある。

20

【0114】

図8(C)は、ROM54に記憶されている大当り種別判定テーブル131を示す説明図である。具体的には、図8(C)は、遊技球が第1始動入賞口13または第2始動入賞口14に入賞したことにもとづく保留記憶を用いて(すなわち、特別図柄の変動表示が行われるとき)大当り種別を決定する場合の大当り種別判定テーブル131である。

30

【0115】

大当り種別判定テーブル131は、可変表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、大当り種別判定用の乱数(ランダム1)にもとづいて、大当りの種別を「通常大当り」、「確変大当り」、「突然確変大当り」のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【0116】

「確変大当り」とは、15ラウンドの大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に確変状態に移行させる大当りである。また、「通常大当り」とは、15ラウンドの大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に確変状態に移行されない(この実施の形態では、時短状態にのみ移行される)大当りである。

40

【0117】

大当り種別判定テーブル131には、ランダム1の値と比較される数値であって、「通常大当り」、「確変大当り」、「突然確変大当り」のそれぞれに対応した判定値(大当り種別判定値)が設定されている。CPU56は、ランダム1の値が大当り種別判定値のいずれかに一致した場合に、大当りの種別を、一致した大当り種別判定値に対応する種別に決定する。

【0118】

50

図9(A)～(C)は、大当り用変動パターン種別判定テーブル132A～132Cを示す説明図である。大当り用変動パターン種別判定テーブル132A～132Cは、可変表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、大当り種別の判定結果に応じて、変動パターン種別を、変動パターン種別判定用の乱数(ランダム2)にもとづいて複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【0119】

各大当り用変動パターン種別判定テーブル132A～132Cには、変動パターン種別判定用の乱数(ランダム2)の値と比較される数値(判定値)であって、ノーマルCA3-1～ノーマルCA3-2、スーパーCA3-3、特殊CA4-1、特殊CA4-2の変動パターン種別のいずれかに対応する判定値が設定されている。

10

【0120】

例えば、大当り種別が「通常大当り」である場合に用いられる図9(A)に示す大当り用変動パターン種別判定テーブル132Aと、大当り種別が「確変大当り」である場合に用いられる図9(B)に示す大当り用変動パターン種別判定テーブル132Bとで、ノーマルCA3-1～ノーマルCA3-2、スーパーCA3-3の変動パターン種別に対する判定値の割り当てが異なっている。

【0121】

このように、大当り種別に応じて選択される大当り用変動パターン種別判定テーブル132A～132Cを比較すると、大当り種別に応じて各変動パターン種別に対する判定値の割り当てが異なっている。また、大当り種別に応じて異なる変動パターン種別に対して判定値が割り当てられている。よって、大当り種別を複数種類のうちのいずれにするかの決定結果に応じて、異なる変動パターン種別に決定することができ、同一の変動パターン種別に決定される割合を異ならせることができる。

20

【0122】

なお、図9(A)、(B)に示すように、この実施の形態では、通常大当りまたは確変大当りである場合には、変動パターン種別判定用の乱数(ランダム2)の値が150～251であれば、少なくともスーパーリーチ(スーパーリーチA、スーパーリーチB)を伴う変動表示が実行されることがわかる。

【0123】

また、大当り種別が「突然確変大当り」である場合に用いられる大当り用変動パターン種別判定テーブル132Cでは、例えば、特殊CA4-1、特殊CA4-2といった大当り種別が「突然確変大当り」以外である場合には判定値が割り当てられない変動パターン種別に対して、判定値が割り当てられている。よって、可変表示結果が「大当り」となり大当り種別が「突然確変大当り」となることに依拠して2ラウンド大当り状態に制御する場合には、15ラウンド大当り状態に制御する場合とは異なる変動パターン種別に決定することができる。

30

【0124】

また、図9(D)は、小当り用変動パターン種別判定テーブル132Dを示す説明図である。小当り用変動パターン種別判定テーブル132Dは、可変表示結果を小当り図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターン種別を、変動パターン種別判定用の乱数(ランダム2)にもとづいて複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。なお、この実施の形態では、図9(D)に示すように、小当りとするに決定されている場合には、変動パターン種別として特殊CA4-1が決定される場合が示されている。

40

【0125】

図10(A)、(B)は、はずれ用変動パターン種別判定テーブル135A、135Bを示す説明図である。このうち、図10(A)は、確率状態が低確率状態であるとともに保留記憶数が3未満である場合に用いられるはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Aを示している。また、図10(B)は、確率状態が確変状態または時短状態であるか、または保留記憶数が3以上である場合に用いられるはずれ用変動パターン種別判定テ

50

ブル 1 3 5 B を示している。はずれ用変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 A , 1 3 5 B は、可変表示結果をはずれ図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターン種別を、変動パターン種別判定用の乱数 (ランダム 2) にもとづいて複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【 0 1 2 6 】

なお、この実施の形態では、保留記憶数が 3 未満である場合に用いるのはずれ変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 A と、保留記憶数が 3 以上である場合に用いるのはずれ変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 B との 2 種類のテーブルのみを用いる場合を示しているが、はずれ変動パターン種別判定テーブルの分け方は、この実施の形態で示したものにこだわれない。例えば、保留記憶数の値ごとに別々ののはずれ変動パターン種別判定テーブルをそれぞれ備えてもよい (すなわち、保留記憶数 0 個用、保留記憶数 1 個用、保留記憶数 2 個用、保留記憶数 3 個用、保留記憶数 4 個用のはずれ変動パターン種別判定テーブルをそれぞれ別々に用いるようにしてもよい) 。また、例えば、保留記憶数の他の複数の値の組合せに対応したはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。例えば、保留記憶数 0 ~ 2 用、保留記憶数 3 用、保留記憶数 4 用のはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。

10

【 0 1 2 7 】

各はずれ用変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 A , 1 3 5 B には、変動パターン種別判定用の乱数 (ランダム 2) の値と比較される数値 (判定値) であって、非リーチ C A 2 - 1 ~ 非リーチ C A 2 - 3 、ノーマル C A 2 - 3 ~ ノーマル C A 2 - 5 、スーパー C A 2 - 6 の変動パターン種別のいずれかに対応する判定値が設定されている。

20

【 0 1 2 8 】

なお、図 1 0 (A) , (B) に示すように、この実施の形態では、はずれである場合には、変動パターン種別判定用の乱数 (ランダム 2) の値が 2 3 0 ~ 2 5 1 であれば、確率状態や保留記憶数にかかわらず、少なくともスーパーリーチ (スーパーリーチ A 、スーパーリーチ B) を伴う変動表示が実行されることがわかる。つまり、この実施の形態では、保留記憶数にかかわらず、特定の変動パターン (この実施の形態では、スーパーリーチの変動パターン) とするか否かを入賞時に判定することができる。また、保留記憶数に応じて、他の変動パターン (例えば、非リーチの変動パターンや、ノーマルリーチの変動パターン) には、設定されている判定値が異なるので、各変動パターンの発生率や、変動時間を調整することもできる。

30

【 0 1 2 9 】

なお、この実施の形態では、図 9 および図 1 0 に示すように、現在の確率状態にかかわらず、共通の大当り用変動パターン種別判定テーブルやはずれ用変動パターン種別判定テーブルを用いる場合を示したが、現在の確率状態が確変状態であるか低確率状態であるかや、時短状態であるかに応じて、それぞれ別々に用意された大当り用変動パターン種別判定テーブルやはずれ用変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。また、この実施の形態では、保留記憶数が 3 以上である場合に、図 1 0 (B) に示す短縮用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを選択して短縮変動の変動パターンが決定される場合があるように構成する場合を示しているが、現在の確率状態に応じて短縮変動の変動パターンが選択されうる場合の保留記憶数の閾値を異ならせてもよい。例えば、確率状態が低確率状態である場合には、保留記憶数が 3 である場合に、短縮用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを選択して短縮変動の変動パターンが決定される場合があるようにし、確率状態が確変状態である場合や、時短状態である場合には、保留記憶数がより少ない 1 や 2 の場合でも、短縮用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを選択して短縮変動の変動パターンが決定される場合があるようにしてもよい。

40

【 0 1 3 0 】

図 1 1 (A) , (B) は、ROM 5 4 に記憶されている当り変動パターン判定テーブル 1 3 7 A ~ 1 3 7 B を示す説明図である。当り変動パターン判定テーブル 1 3 7 A ~ 1 3 7 B は、可変表示結果を「大当り」や「小当り」にする旨の判定がなされたときに、大当

50

り種別や変動パターン種別の決定結果などに応じて、変動パターン判定用の乱数（ランダム３）にもとづいて、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。各当り変動パターン判定テーブル１３７Ａ～１３７Ｂは、変動パターン種別の決定結果に応じて、使用テーブルとして選択される。すなわち、変動パターン種別をノーマルＣＡ３－１～ノーマルＣＡ３－２、スーパーＣＡ３－３のいずれかにする旨の決定結果に応じて当り変動パターン判定テーブル１３７Ａが使用テーブルとして選択され、変動パターン種別を特殊ＣＡ４－１、特殊ＣＡ４－２のいずれかにする旨の決定結果に応じて当り変動パターン判定テーブル１３７Ｂが使用テーブルとして選択される。各当り変動パターン判定テーブル１３７Ａ～１３７Ｂは、変動パターン種別に応じて、変動パターン判定用の乱数（ランダム３）の値と比較される数値（判定値）であって、演出図柄の可変表示結果が「大当り」である場合に対応した複数種類の変動パターンのいずれかに対応するデータ（判定値）を含む。

10

【０１３１】

なお、図１１（Ａ）に示す例では、変動パターン種別として、ノーマルリーチのみを伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルＣＡ３－１と、ノーマルリーチおよび擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマルＣＡ３－２と、スーパーリーチを伴う（スーパーリートとともに擬似連を伴う場合もある）変動パターンを含む変動パターン種別であるスーパーＣＡ３－３とに種別分けされている場合が示されている。また、図１１（Ｂ）に示す例では、変動パターン種別として、非リーチの変動パターンを含む変動パターン種別である特殊ＣＡ４－１と、リーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別である特殊ＣＡ４－２とに種別分けされている場合が示されている。なお、図１１（Ｂ）において、リーチの有無によって変動パターン種別を分けるのではなく、擬似連や滑り演出などの特定演出の有無によって変動パターン種別を分けてもよい。この場合、例えば、特殊ＣＡ４－１は、特定演出を伴わない変動パターンである特殊ＰＧ１－１と特殊ＰＧ２－１を含むようにし、特殊ＣＡ４－２は、特定演出を伴う特殊ＰＧ１－２、特殊ＰＧ１－３および特殊ＰＧ２－２を含むように構成してもよい。

20

【０１３２】

図１２は、ＲＯＭ５４に記憶されているはずれ変動パターン判定テーブル１３８Ａを示す説明図である。はずれ変動パターン判定テーブル１３８Ａは、可変表示結果を「はずれ」にする旨の判定がなされたときに、変動パターン種別の決定結果に応じて、変動パターン判定用の乱数（ランダム３）にもとづいて、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。はずれ変動パターン判定テーブル１３８Ａは、変動パターン種別の決定結果に応じて、使用テーブルとして選択される。

30

【０１３３】

図１３は、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０が送信する演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。図１３に示す例において、コマンド８０ＸＸ（Ｈ）は、特別図柄の可変表示に対応して演出表示装置９において可変表示される演出図柄の変動パターンを指定する演出制御コマンド（変動パターンコマンド）である（それぞれ変動パターンＸＸに対応）。つまり、図６に示された使用されうる変動パターンのそれぞれに対して一意な番号を付した場合に、その番号で特定される変動パターンのそれぞれに対応する変動パターンコマンドがある。なお、「（Ｈ）」は１６進数であることを示す。また、変動パターンを指定する演出制御コマンドは、変動開始を指定するためのコマンドでもある。従って、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、コマンド８０ＸＸ（Ｈ）を受信すると、演出表示装置９において演出図柄の可変表示を開始するように制御する。

40

【０１３４】

コマンド８Ｃ０１（Ｈ）～８Ｃ０５（Ｈ）は、大当りとするか否か、小当りとするか否か、および大当り種別を示す演出制御コマンドである。演出制御用マイクロコンピュータ１００は、コマンド８Ｃ０１（Ｈ）～８Ｃ０５（Ｈ）の受信に応じて演出図柄の表示結果を決定するので、コマンド８Ｃ０１（Ｈ）～８Ｃ０５（Ｈ）を表示結果指定コマンドという。

50

【 0 1 3 5 】

コマンド 8 F 0 0 (H) は、演出図柄の可変表示 (変動) を終了して表示結果 (停止図柄) を停止表示することを示す演出制御コマンド (図柄確定指定コマンド) である。演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、図柄確定指定コマンドを受信すると、演出図柄の可変表示 (変動) を終了して表示結果を停止表示する。

【 0 1 3 6 】

コマンド 9 0 0 0 (H) は、遊技機に対する電力供給が開始されたときに送信される演出制御コマンド (初期化指定コマンド : 電源投入指定コマンド) である。

【 0 1 3 7 】

コマンド 9 5 0 1 ~ 9 5 0 4 (H) は、入賞時判定結果の内容を示す演出制御コマンド (入賞時判定結果指定コマンド) である。入賞時判定結果指定コマンドには、入賞時判定結果がスーパーリーチ当りであったときに送信される入賞時判定結果 1 指定コマンド (コマンド 9 5 0 1 (H))、入賞時判定結果がスーパーリーチはずれであったときに送信される入賞時判定結果 2 指定コマンド (コマンド 9 5 0 2 (H))、入賞時判定結果がノーマルリーチはずれであったときに送信される入賞時判定結果 3 指定コマンド (コマンド 9 5 0 3 (H))、入賞時判定結果が非リーチはずれであったときに送信される入賞時判定結果 4 指定コマンド (コマンド 9 5 0 4 (H)、および)、入賞時判定結果が非スーパーリーチ当りであったときに送信される入賞時判定結果 5 指定コマンド (コマンド 9 5 0 5 (H)) がある。

【 0 1 3 8 】

コマンド A 0 0 1 ~ A 0 0 3 (H) は、ファンファーレ画面を表示すること、すなわち大当たり遊技の開始を指定する演出制御コマンド (大当たり開始指定コマンド : ファンファーレ指定コマンド) である。大当たり開始指定コマンドには、大当たりの種類に応じた大当たり開始 1 指定コマンド、大当たり開始指定 2 指定コマンドおよび小当り / 突然確変大当たり開始指定コマンドがある。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、突然大当たりである場合に突然確変大当たり開始指定用のファンファーレ指定コマンドを送信するものの、小当りである場合にはファンファーレ指定コマンドを送信しないように構成してもよい。

【 0 1 3 9 】

コマンド A 1 X X (H) は、X X で示す回数 (ラウンド) の大入賞口開放中の表示を示す演出制御コマンド (大入賞口開放中指定コマンド) である。A 2 X X (H) は、X X で示す回数 (ラウンド) の大入賞口閉鎖を示す演出制御コマンド (大入賞口開放後指定コマンド) である。

【 0 1 4 0 】

コマンド A 3 0 1 (H) は、大当たり終了画面を表示すること、すなわち大当たり遊技の終了を指定するとともに、通常大当たりであったことを指定する演出制御コマンド (大当たり終了 1 指定コマンド : エンディング 1 指定コマンド) である。コマンド A 3 0 2 (H) は、大当たり終了画面を表示すること、すなわち大当たり遊技の終了を指定するとともに、確変大当たりであったことを指定する演出制御コマンド (大当たり終了 2 指定コマンド : エンディング 2 指定コマンド) である。コマンド A 3 0 3 (H) は、小当たりの遊技の終了または突然確変大当たりの遊技の終了を指定する演出制御コマンド (小当り / 突然確変大当たり終了指定コマンド : エンディング 3 指定コマンド) である。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、突然大当たりである場合に突然確変大当たり終了指定用のエンディング指定コマンドを送信するものの、小当りである場合にはエンディング指定コマンドを送信しないように構成してもよい。

【 0 1 4 1 】

コマンド B 0 0 0 (H) は、確率状態が低確率状態であることを指定する演出制御コマンド (低確率状態指定コマンド) である。コマンド B 0 0 1 (H) は、時短状態 (確変状態を含む) であることを指定する演出制御コマンド (時短状態指定コマンド) である。

【 0 1 4 2 】

コマンド C 0 0 0 (H) は、始動入賞があったことを指定する演出制御コマンド (始動

10

20

30

40

50

入賞指定コマンド)である。

【0143】

コマンドC1XX(H)は、保留記憶数を指定する演出制御コマンド(保留記憶数指定コマンド)である。コマンドC1XX(H)における「XX」が、保留記憶数を示す。

【0144】

演出制御基板80に搭載されている演出制御用マイクロコンピュータ100(具体的には、演出制御用CPU101)は、主基板31に搭載されている遊技制御用マイクロコンピュータ560から上述した演出制御コマンドを受信すると、図13に示された内容に応じて演出表示装置9の表示状態を変更したり、ランプの表示状態を変更したり、音声出力基板70に対して音番号データを出力したりする。

10

【0145】

例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、始動入賞があり特別図柄表示器8において特別図柄の可変表示が開始される度に、演出図柄の変動パターンを指定する変動パターンコマンドおよび表示結果指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する。

【0146】

この実施の形態では、演出制御コマンドは2バイト構成であり、1バイト目はMODE(コマンドの分類)を表し、2バイト目はEXT(コマンドの種類)を表す。MODEデータの先頭ビット(ビット7)は必ず「1」に設定され、EXTデータの先頭ビット(ビット7)は必ず「0」に設定される。なお、そのようなコマンド形態は一例であって他のコマンド形態を用いてもよい。例えば、1バイトや3バイト以上で構成される制御コマンドを用いてもよい

20

【0147】

なお、演出制御コマンドの送出方式として、演出制御信号CD0~CD7の8本の平行信号線で1バイトずつ主基板31から中継基板77を介して演出制御基板80に演出制御コマンドデータを出力し、演出制御コマンドデータの他に、演出制御コマンドデータの取込を指示するパルス状(矩形波状)の取込信号(演出制御INT信号)を出力する方式を用いる。演出制御コマンドの8ビットの演出制御コマンドデータは、演出制御INT信号に同期して出力される。演出制御基板80に搭載されている演出制御用マイクロコンピュータ100は、演出制御INT信号が立ち上がったことを検知して、割込処理によって1バイトのデータの取り込み処理を開始する。

30

【0148】

図14は、主基板31に搭載される遊技制御用マイクロコンピュータ560(具体的には、CPU56)が実行する特別図柄プロセス処理(ステップS26)のプログラムの一例を示すフローチャートである。特別図柄プロセス処理では特別図柄表示器8および大入賞口を制御するための処理が実行される。特別図柄プロセス処理において、CPU56は、第1始動入賞口13に遊技球が入賞したことを検出するための第1始動口スイッチ13aまたは第2始動入賞口14に遊技球が入賞したことを検出するための第2始動口スイッチ14aがオンしていたら、すなわち始動入賞が発生していたら、始動口スイッチ通過処理を実行する(ステップS311, S312)。そして、ステップS300~S310のうちのいずれかの処理を行う。第1始動入賞口スイッチ13aまたは第2始動口スイッチ14aがオンしていなければ、内部状態に応じて、ステップS300~S310のうちのいずれかの処理を行う。

40

【0149】

ステップS300~S310の処理は、以下のような処理である。

【0150】

特別図柄通常処理(ステップS300):特別図柄プロセスフラグの値が0であるときに実行される。遊技制御用マイクロコンピュータ560は、特別図柄の可変表示が開始できる状態になると、保留記憶数バッファに記憶される数値データの記憶数(保留記憶数)を確認する。保留記憶数バッファに記憶される数値データの記憶数は保留記憶数カウンタ

50

のカウンタ値により確認できる。また、保留記憶数カウンタのカウンタ値が0でなければ、特別図柄の可変表示の表示結果を大当たりとするか否かを決定する。大当たりとする場合には大当たりフラグをセットする。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS301に応じた値（この例では1）に更新する。なお、大当たりフラグは、大当たり遊技が終了するときによりリセットされる。

【0151】

変動パターン設定処理（ステップS301）：特別図柄プロセスフラグの値が1であるときに実行される。また、変動パターンを決定し、その変動パターンにおける変動時間（可変表示時間：可変表示を開始してから表示結果を停止表示するまでの時間）を特別図柄の可変表示の変動時間とすることに決定する。また、特別図柄の変動時間を計測する変動時間タイマをスタートさせる。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS302に対応した値（この例では2）に更新する。

10

【0152】

表示結果指定コマンド送信処理（ステップS302）：特別図柄プロセスフラグの値が2であるときに実行される。演出制御用マイクロコンピュータ100に、表示結果指定コマンドを送信する制御を行う。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS303に対応した値（この例では3）に更新する。

【0153】

特別図柄変動中処理（ステップS303）：特別図柄プロセスフラグの値が3であるときに実行される。変動パターン設定処理で選択された変動パターンの変動時間が経過（ステップS301でセットされる変動時間タイマがタイムアウトすなわち変動時間タイマの値が0になる）すると、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS304に対応した値（この例では4）に更新する。

20

【0154】

特別図柄停止処理（ステップS304）：特別図柄プロセスフラグの値が4であるときに実行される。特別図柄表示器8における可変表示を停止して停止図柄を停止表示させる。また、演出制御用マイクロコンピュータ100に、図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う。そして、大当たりフラグがセットされている場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS305に対応した値（この例では5）に更新する。また、小当たりフラグがセットされている場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS308に対応した値（この例では8）に更新する。大当たりフラグおよび小当たりフラグのいずれもセットされていない場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS300に対応した値（この例では0）に更新する。なお、演出制御用マイクロコンピュータ100は、遊技制御用マイクロコンピュータ560が送信する図柄確定指定コマンドを受信すると演出表示装置9において演出図柄が停止されるように制御する。

30

【0155】

大入賞口開放前処理（ステップS305）：特別図柄プロセスフラグの値が5であるときに実行される。大入賞口開放前処理では、大入賞口を開放する制御を行う。具体的には、カウンタ（例えば、大入賞口に入った遊技球数をカウントするカウンタ）などを初期化するとともに、ソレノイド21を駆動して大入賞口を開放状態にする。また、タイマによって大入賞口開放中処理の実行時間を設定し、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS306に対応した値（この例では6）に更新する。なお、大入賞口開放前処理は各ラウンド毎に実行されるが、第1ラウンドを開始する場合には、大入賞口開放前処理は大当たり遊技を開始する処理でもある。

40

【0156】

大入賞口開放中処理（ステップS306）：特別図柄プロセスフラグの値が6であるときに実行される。大当たり遊技状態中のラウンド表示の演出制御コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御や大入賞口の閉成条件の成立を確認する処理等を行う。大入賞口の閉成条件が成立し、かつ、まだ残りラウンドがある場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS305に対応した値（この例では5）に更新す

50

る。また、全てのラウンドを終えた場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS307に対応した値（この例では7）に更新する。

【0157】

大当り終了処理（ステップS307）：特別図柄プロセスフラグの値が7であるときに実行される。大当り遊技状態が終了したことを遊技者に報知する表示制御を演出制御用マイクロコンピュータ100に行わせるための制御を行う。また、確率状態を示すフラグ（例えば、確変フラグや時短フラグ）をセットする処理を行う。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS300に対応した値（この例では0）に更新する。

【0158】

小当り開放前処理（ステップS308）：特別図柄プロセスフラグの値が8であるときに実行される。小当り開放前処理では、大入賞口を開放する制御を行う。具体的には、カウンタ（例えば、大入賞口に入った遊技球数をカウントするカウンタ）などを初期化するとともに、ソレノイド21を駆動して大入賞口を開放状態にする。また、タイマによって大入賞口開放中処理の実行時間を設定し、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS309に対応した値（この例では9）に更新する。なお、小当り開放前処理は各ラウンド毎に実行されるが、第1ラウンドを開始する場合には、小当り開放前処理は小当り遊技を開始する処理でもある。

【0159】

小当り開放中処理（ステップS309）：特別図柄プロセスフラグの値が9であるときに実行される。大入賞口の閉成条件の成立を確認する処理等を行う。大入賞口の閉成条件が成立し、かつ、まだ残りラウンドがある場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS308に対応した値（この例では8）に更新する。また、全てのラウンドを終えた場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS310に対応した値（この例では10（10進数））に更新する。

【0160】

小当り終了処理（ステップS310）：特別図柄プロセスフラグの値が10であるときに実行される。小当り遊技状態が終了したことを遊技者に報知する表示制御を演出制御用マイクロコンピュータ100に行わせるための制御を行う。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS300に対応した値（この例では0）に更新する。

【0161】

図15は、ステップS312の始動口スイッチ通過処理を示すフローチャートである。始動口スイッチ通過処理では、CPU56は、第1始動入賞口13に遊技球が入賞したことを検出するための第1始動口スイッチ13aまたは第2始動入賞口14に遊技球が入賞したことを検出するための第2始動口スイッチ14aがオンしていたら、すなわち始動入賞が発生していたら、所定の乱数を抽出して記憶する処理等を行う。

【0162】

始動口スイッチ通過処理において、CPU56は、保留記憶数をカウントするための保留記憶数カウンタの値が上限値（この実施の形態では4）であるか否かを確認する（ステップS211）。保留記憶数カウンタの値が上限値であれば、処理を終了する。

【0163】

保留記憶数カウンタの値が上限値になっていない場合には、CPU56は、第1始動口スイッチ13aがオンしたか否かを確認する（ステップS212A）。すなわち、第1始動口スイッチ13aから検出信号が出力されているか否かを確認する。第1始動口スイッチ13aがオンしていない場合には、ステップS212Bに移行する。第1始動口スイッチ13aがオンしている場合には、保留記憶数を示す保留記憶数カウンタの値を1増やす（ステップS213A）。また、CPU56は、乱数回路503やソフトウェア乱数（大当り種別判定用乱数（ランダム1）、変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）：図7参照）を生成するためのカウンタから値を抽出し、抽出した乱数値として保留記憶数カウンタの値に対応する保留記憶バッファにおける保存領域に格納する処理を実行する（ステップS214A）。保留記憶バッファにおいて、保存領域は、保留記憶数の上限値と同数確保

10

20

30

40

50

されている。なお、CPU 56は、変動パターン判定用乱数（ランダム3）も抽出して、保存領域に格納するようにしてもよい。また、ソフトウェア乱数を生成するためのカウンタや保留記憶バッファおよび保留記憶数カウンタは、RAM 55に形成されている。「RAMに形成されている」とは、RAM内の領域であることを意味する。

【0164】

次いで、CPU 56は、特別図柄保留記憶表示器18における表示数を1増やし（ステップS215A）、保留記憶数指定コマンドを送信する制御を行う（ステップS216A）。

【0165】

なお、演出制御用マイクロコンピュータ100に演出制御コマンドを送信する場合には、CPU 56は、演出制御コマンドに応じたコマンド送信テーブル（あらかじめROMにコマンド毎に設定されている）のアドレスをポインタにセットする。そして、演出制御コマンドに応じたコマンド送信テーブルのアドレスをポインタにセットして、演出制御コマンド制御処理（ステップS28）において演出制御コマンドを送信する。

【0166】

また、CPU 56は、入賞時判定処理を実行する（ステップS217A）。そして、保留記憶数カウンタの値が上限値（この実施の形態では4）でなければ、ステップS212Bに移行する。

【0167】

ステップS212Bでは、CPU 56は、第2始動口スイッチ14aがオンしたか否かを確認する（ステップS212B）。すなわち、第2始動口スイッチ14aから検出信号が出力されているか否かを確認する。第2始動口スイッチ14aがオンしていない場合には、処理を終了する。第2始動口スイッチ14aがオンしている場合には、保留記憶数を示す保留記憶数カウンタの値を1増やす（ステップS213B）。また、CPU 56は、乱数回路503やソフトウェア乱数（大当たり種別判定用乱数（ランダム1）、変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）：図7参照）を生成するためのカウンタから値を抽出し、抽出した乱数値として保留記憶数カウンタの値に対応する保留記憶バッファにおける保存領域に格納する処理を実行する（ステップS214B）。

【0168】

次いで、CPU 56は、特別図柄保留記憶表示器18における表示数を1増やし（ステップS215B）、保留記憶数指定コマンドを送信する制御を行う（ステップS216B）。さらに、入賞時判定処理を実行する（ステップS217B）。

【0169】

図16は、ステップS217A、S217Bの入賞時判定処理を示すフローチャートである。入賞時判定処理は、始動入賞について、その始動入賞にもとづく特別図柄および飾り図柄の変動が実際に開始される前に、大当たりが生ずるか否か判定するとともに大当たりの種別や変動パターン種別を判定する処理である。

【0170】

入賞時判定処理において、CPU 56は、ステップS214A、S214Bの処理で保存領域に記憶されたランダムRの値を読み出す（ステップS219A）。そして、ランダムRの値が大当たり判定値（図8（A）参照）のいずれかと一致するか否か確認することによって、発生した始動入賞にもとづいて将来実行される可変表示において大当たり図柄が停止表示されるか否か（すなわち、大当たりになるか否か）判定する（ステップS219B）。ランダムRの値がいずれの判定値とも一致しない場合には（ステップS219BのN）、ステップS219Jの処理に移行する。

【0171】

大当たり判定用乱数（ランダムR）が大当たり判定値と一致する場合には（ステップS219BのY）、CPU 56は、ステップS214A、S214Bで抽出した大当たり種別判定用乱数（ランダム1）を読み出し（ステップS219C）、大当たり種別判定用テーブルにもとづいて、大当たり種別を判定する（ステップS219D）。

10

20

30

40

50

【 0 1 7 2 】

大当り種別が通常大当りまたは確変大当りである場合には（ステップ S 2 1 9 E の Y）、CPU 5 6 は、ステップ S 2 1 4 A、S 2 1 4 B で抽出した変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）を読み出し（ステップ S 2 1 9 F）、変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が 1 5 0 ~ 2 5 1 の範囲であるか否かを確認する（ステップ S 2 1 9 G）。この実施の形態では、図 9（A）、（B）、（C）に示すように、1 5 ラウンドの大当りとならない場合（つまり、突然確変大当りとなる場合）には、スーパーリーチ（スーパーリーチ A、スーパーリーチ B）を伴う変動表示が実行されず（スーパー C A 3 - 3 の変動種別と判定されず）、1 5 ラウンドの大当りとなる場合（つまり、突然確変大当りとならない場合）には、大当り種別が通常大当りであるか確変大当りであるかにかかわらず、変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が 1 5 0 ~ 2 5 1 の範囲であれば、少なくともスーパーリーチ（スーパーリーチ A、スーパーリーチ B）を伴う変動表示が実行される。CPU 5 6 は、大当り種別が通常大当りまたは確変大当りであり（ステップ S 2 1 9 E の Y）、変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が 1 5 0 ~ 2 5 1 の範囲であれば（ステップ S 2 1 9 G の Y）、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に対して入賞時判定結果 1 指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ S 2 1 9 H）。また、大当り種別が通常大当りおよび確変大当りでない（つまり、突然確変大当りである）場合（ステップ S 2 1 9 E の N）、またはステップ S 2 1 4 A、S 2 1 4 B で抽出した変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が 1 5 0 ~ 2 5 1 の範囲でない場合に（ステップ S 2 1 9 G の N）、CPU 5 6 は、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に対して入賞時判定結果 5 指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ S 2 1 9 I）。従って、入賞時判定結果 1 指定コマンドは、大当りであって、スーパーリーチを伴う変動表示が実行されると判定された場合に送信され、入賞時判定結果 5 指定コマンドは、大当りであって、スーパーリーチを伴わない変動表示が実行されると判定された場合に送信される。

【 0 1 7 3 】

大当り判定用乱数（ランダム R）が大当り判定値と一致しなければ（ステップ S 2 1 9 B の N）、CPU 5 6 は、ステップ S 2 1 4 A、S 2 1 4 B で抽出した大当り判定用乱数（ランダム R）と図 8（B）に示す小当り判定値とを比較し、それらが一致するか否かを確認する（ステップ S 2 1 9 J）。大当り判定用乱数（ランダム R）が小当り判定値と一致しなければ（ステップ S 2 1 9 J の N）、すなわち、はずれであれば、CPU 5 6 は、ステップ S 2 1 4 A、S 2 1 4 B で抽出した変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）を読み出し（ステップ S 2 1 9 K）、変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が 2 3 0 ~ 2 5 1 の範囲であるか否かを確認する（ステップ S 2 1 9 L）。この実施の形態では、図 1 0（A）、（B）に示すように、はずれとなる場合には、確率状態や保留記憶数にかかわらず、変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が 2 3 0 ~ 2 5 1 の範囲であれば、少なくともスーパーリーチ（スーパーリーチ A、スーパーリーチ B）を伴う変動表示が実行される。例えば、始動入賞時における保留記憶数と実際に変動表示が開始されるときにの保留記憶数とは必ずしも一致するとはかぎらない（通常、始動入賞後に増減する）ので、始動入賞時の判定と変動開始時の変動パターン種別の決定とで、選択するはずれ変動パターン種別判定テーブルが一致するとはかぎらず、一般に、始動入賞時に前もってスーパーリーチとなるか否かを判定して予測することは難しい。しかし、この実施の形態では、図 1 0（A）、（B）に示すように、保留記憶数 3 未満で用いられるはずれ用変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 A と、保留記憶数 3 以上で用いられるはずれ用変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 B とで、スーパーリーチを伴う変動パターン種別であるスーパー C A 2 - 6 に割り当てられている判定値の範囲が同じ（2 3 0 ~ 2 5 1）であるので、いずれのテーブルを選択したとしても、変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が 2 3 0 ~ 2 5 1 の範囲であれば、少なくともスーパーリーチ（スーパーリーチ A、スーパーリーチ B）となると判定することができる。変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が 2 3 0 ~ 2 5 1 の範囲であれば（ステップ S 2 1 9 L の Y）、CPU 5 6 は、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に対して入賞時判定結果 2 指定コマンドを

送信する制御を行う（ステップS 2 1 9 M）。

【 0 1 7 4 】

この実施の形態では、図 1 0（A），（B）に示すように、保留記憶数 3 未満で用いられるはずれ用変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 A、および保留記憶数 3 以上で用いられるはずれ用変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 Bにおいて、変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が 2 0 0 ～ 2 2 9 の範囲であれば、少なくともノーマルリーチを伴う変動表示が実行される。そこで、CPU 5 6 は、変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が 2 0 0 ～ 2 2 9 の範囲であれば（ステップ S 2 1 9 N の Y）、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に対して入賞時判定結果 3 指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ S 2 1 9 O）。また、変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が 2 0 0 ～ 2 2 9 の範囲でもない場合（ステップ S 2 1 9 N の N）、非リーチの変動表示が実行される。そこで、CPU 5 6 は、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に対して入賞時判定結果 4 指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ S 2 1 9 P）。

10

【 0 1 7 5 】

図 1 7 は、特別図柄プロセス処理における特別図柄通常処理（ステップ S 3 0 0）を示すフローチャートである。特別図柄通常処理において、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、CPU 5 6 は、保留記憶数の値を確認する（ステップ S 5 1）。具体的には、保留記憶数カウンタのカウント値を確認する。保留記憶数が 0 であれば処理を終了する。

【 0 1 7 6 】

保留記憶数が 0 でなければ、CPU 5 6 は、RAM 5 5 の保留記憶数バッファにおける保留記憶数 = 1 に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出して RAM 5 5 の乱数バッファ領域に格納する（ステップ S 5 2）。そして、保留記憶数の値を 1 減らし（保留記憶数カウンタのカウント値を 1 減算し）、かつ、各保存領域の内容をシフトする（ステップ S 5 3）。すなわち、RAM 5 5 の保留記憶数バッファにおいて保留記憶数 = n（n = 2, 3, 4）に対応する保存領域に格納されている各乱数値を、保留記憶数 = n - 1 に対応する保存領域に格納する。よって、各保留記憶数に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各乱数値が抽出された順番は、常に、保留記憶数 = 1, 2, 3, 4 の順番と一致するようになっている。

20

【 0 1 7 7 】

そして、CPU 5 6 は、乱数バッファ領域に格納されているランダム R の値が大当り判定値（図 8（A），（B）参照）のいずれかと一致するか否か確認する。一致した場合には、ステップ S 7 1 に移行する（ステップ S 5 4）。なお、ステップ S 5 4 の処理が実際の大当り判定の処理（実際に大当りにするか否か決定する処理）である。

30

【 0 1 7 8 】

大当り判定の処理では、確率状態が確変状態（高確率状態）の場合は、確率状態が非確変状態（低確率状態および時短状態）の場合よりも、大当りとなる確率が高くなるように構成されている。具体的には、あらかじめ大当り判定値の数が多く設定されている確変時大当り判定テーブル（ROM 5 4 における図 8（A）の右側の数値が設定されているテーブル）と、大当り判定値の数が確変大当り判定テーブルよりも少なく設定されている通常時大当り判定テーブル（ROM 5 4 における図 8（A）の左側の数値が設定されているテーブル）とが設けられている。そして、CPU 5 6 は、確率状態が確変状態であるか否かを確認し、確率状態が確変状態であるときは、確変時大当り判定テーブルを使用して大当りの判定の処理を行い、確率状態が低確率状態であるときは、通常時大当り判定テーブルを使用して大当りの判定の処理を行う。すなわち、CPU 5 6 は、大当り判定用乱数（ランダム R）の値が図 8（A）に示すいずれかの大当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り（確変大当りまたは通常大当り）とすることに決定する。

40

【 0 1 7 9 】

なお、現在の確率状態が確変状態であるか否かの確認は、確変フラグがセットされているか否かにより行われる。確変フラグは、確率状態を確変状態に移行するときにセットされ、確率状態を終了するときにリセットされる。具体的には、確変大当りまたは突然確変

50

大当たりとすることに決定され、大当たり遊技を終了する処理においてセットされ、大当たりとすることに決定されている場合に、大当たり遊技を開始するときにリセットされる。

【0180】

ランダムRの値が大当たり判定値のいずれにも一致しない場合には、ランダムRの値が小当たり判定値のいずれかと一致するか否か確認する(ステップS55)。一致しない場合には、ステップS74の処理に移行する。一致した場合には、小当たりフラグをセットした後(ステップS60)、ステップS74の処理に移行する。

【0181】

ステップS71では、CPU56は、大当たりフラグをセットする。そして、大当たり種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、図8(C)に示す大当たり種別判定テーブル131を用いて、乱数バッファ領域に格納された大当たり種別判定用乱数(ランダム1)の値と一致する値に対応した種別(「通常」、「確変」または「突確」)を大当たりの種別に決定する(ステップS72)。また、決定した大当たりの種別を示すデータをRAM55における大当たり種別バッファに設定する(ステップS73)。なお、例えば、大当たり種別が「通常」の場合には大当たり種別を示すデータとして「01」が設定され、大当たり種別が「確変」の場合には大当たり種別を示すデータとして「02」が設定され、大当たり種別が「突確」の場合には大当たり種別を示すデータとして「03」が設定される。

【0182】

次いで、CPU56は、特別図柄の停止図柄を決定する(ステップS74)。具体的には、大当たりフラグおよび小当たりフラグがセットされていない場合には、はずれ図柄となる「- -」を特別図柄の停止図柄に決定する。小当たりフラグがセットされている場合には、小当たり図柄となる「55」を特別図柄の停止図柄に決定する。大当たりフラグがセットされている場合には、大当たり種別の決定結果に応じて、大当たり図柄となる「11」、「33」、「77」のいずれかを特別図柄の停止図柄に決定し、大当たり種別を「突確」に決定した場合には、「55」を特別図柄の停止図柄に決定する。大当たり種別を「通常」または「確変」に決定した場合には、「33」または「77」を特別図柄の停止図柄に決定する。

【0183】

そして、特別図柄プロセスフラグの値を変動パターン設定処理(ステップS301)に対応した値に更新する(ステップS75)。

【0184】

図18は、特別図柄プロセス処理における変動パターン設定処理(ステップS301)を示すフローチャートである。変動パターン設定処理において、CPU56は、大当たりフラグがセットされているか否か確認する(ステップS91)。大当たりフラグがセットされている場合には、CPU56は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、大当たり用変動パターン種別判定テーブル132A~132C(図9(A)~(C)参照)のいずれかを選択する(ステップS92)。そして、ステップS102の処理に移行する。

【0185】

大当たりフラグがセットされていない場合には、CPU56は、小当たりフラグがセットされているか否かを確認する(ステップS93)。小当たりフラグがセットされている場合には、CPU56は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、小当たり用変動パターン種別判定テーブル132D(図9(D)参照)を選択する(ステップS94)。そして、ステップS102の処理に移行する。

【0186】

小当たりフラグもセットされていない場合には、CPU56は、時短状態であることを示す時短フラグがセットされているか否かを確認する(ステップS95)。なお、時短フラグは、時短状態に移行するとき(確変状態に移行するときを含む)にセットされ、時短状態を終了するときにリセットされる。具体的には、通常大当たり、確変大当たりまたは突然確変大当たりとすることに決定され、大当たり遊技を終了する処理においてセットされ、時短回

10

20

30

40

50

数を消化したタイミングや、大当たりと決定されたときに特別図柄の変動表示を終了して停止図柄を停止表示するタイミングでリセットされる。時短フラグがセットされていれば（ステップS95のY）、CPU56は、ステップS98の処理に移行する。

【0187】

時短フラグがセットされていなければ（ステップS95のN）、CPU56は、保留記憶数が3以上であるか否かを確認する（ステップS96）。保留記憶数が3未満であれば（ステップS96のN）、CPU56は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、はずれ用変動パターン種別判定テーブル135A（図10（A）参照）を選択する（ステップS97）。そして、ステップS102の処理に移行する。

10

【0188】

時短フラグがセットされている場合（ステップS95のY）または保留記憶数が3以上である場合（ステップS96のY）には、CPU56は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、はずれ用変動パターン種別判定テーブル135B（図10（B）参照）を選択する（ステップS98）。そして、ステップS102の処理に移行する。

【0189】

この実施の形態では、ステップS95～S98の処理が実行されることによって、時短状態である場合（確変状態である場合を含む）または保留記憶数が3以上である場合には、図10（B）に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Bが選択される。この場合、後述するステップS102の処理で変動パターン種別として非リーチCA2-2が決定される場合があり、非リーチCA2-2の変動パターン種別が決定された場合には、ステップS105の処理で変動パターンとして短縮変動の非リーチPA1-2が決定される（図12参照）。従って、この実施の形態では、時短状態である場合（確変状態である場合を含む）または保留記憶数が3以上である場合には、短縮変動の変動表示が行われる場合がある。

20

【0190】

なお、この実施の形態では、時短状態である場合であっても、保留記憶数がほぼ0である場合（例えば、0であるか、0または1である場合）には、短縮変動の変動表示を行わないようにしてもよい。この場合、例えば、CPU56は、ステップS95でYと判定したときに、保留記憶数がほぼ0であるか否かを確認し、保留記憶数がほぼ0であれば、はずれ用変動パターン種別判定テーブル135A（図10（A）参照）を選択するようにしてもよい。

30

【0191】

次いで、CPU56は、乱数バッファ領域（保留記憶バッファ）からランダム2（変動パターン種別判定用乱数）を読み出し、ステップS92、S94、S97またはS98の処理で選択したテーブルを参照することによって、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定する（ステップS102）。

【0192】

次いで、CPU56は、ステップS102の変動パターン種別の決定結果にもとづいて、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、当り変動パターン判定テーブル137A、137B（図11参照）、はずれ変動パターン判定テーブル138A（図12参照）のうちのいずれかを選択する（ステップS103）。また、乱数バッファ領域（保留記憶バッファ）からランダム3（変動パターン判定用乱数）を読み出し、ステップS103の処理で選択した変動パターン判定テーブルを参照することによって、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定する（ステップS105）。なお、始動入賞のタイミングでランダム3（変動パターン判定用乱数）を抽出しないように構成する場合には、CPU56は、変動パターン判定用乱数（ランダム3）を生成するための変動パターン判定用乱数カウンタから値を直接抽出し、抽出した乱数値にもとづいて変動パターンを決定するようにしてもよい。

40

50

【 0 1 9 3 】

次いで、決定した変動パターンに対応する演出制御コマンド（変動パターンコマンド）を、演出制御用マイクロコンピュータ 100 に送信する制御を行う（ステップ S 106 ）。

【 0 1 9 4 】

また、特別図柄の変動を開始する（ステップ S 107 ）。また、RAM 55 に形成されている変動時間タイマに、選択された変動パターンに対応した変動時間に応じた値を設定する（ステップ S 108 ）。そして、特別図柄プロセスフラグの値を表示結果指定コマンド送信処理（ステップ S 302 ）に対応した値に更新する（ステップ S 109 ）。

【 0 1 9 5 】

図 19 は、表示結果指定コマンド送信処理（ステップ S 302 ）を示すフローチャートである。表示結果指定コマンド送信処理において、CPU 56 は、決定されている大当りの種類、小当り、はずれに応じて、表示結果 1 指定～表示結果 5 指定のいずれかの演出制御コマンド（図 13 参照）を送信する制御を行う。具体的には、CPU 56 は、まず、大当りフラグがセットされているか否かを確認する（ステップ S 110 ）。セットされていない場合には、ステップ S 116 に移行する。大当りフラグがセットされている場合、大当りの種別が確変大当りであるときには、表示結果 3 指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ S 111 , S 112 ）。なお、確変大当りであるか否かは、具体的には、特別図柄通常処理のステップ S 74 で大当り種別バッファに設定されたデータが「02」であるか否かを確認することによって判定できる。また、CPU 56 は、大当りの種別が突然確変大当りであるときには、表示結果 4 指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ S 113 , S 114 ）。なお、突然確変大当りであるか否かは、具体的には、特別図柄通常処理のステップ S 74 で大当り種別バッファに設定されたデータが「03」であるか否かを確認することによって判定できる。そして、確変大当りおよびおおよび突然確変大当りのいずれでもないときには（すなわち、通常大当りであるときには）、CPU 56 は、表示結果 2 指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ S 115 ）。

【 0 1 9 6 】

一方、CPU 56 は、大当りフラグがセットされていないときには（ステップ S 110 の N ）、小当りフラグがセットされているか否かを確認する（ステップ S 116 ）。小当りフラグがセットされていれば、CPU 56 は、表示結果 5 指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ S 117 ）。小当りフラグもセットされていないときは（ステップ S 116 の N ）、すなわち、はずれである場合には、CPU 56 は、表示結果 1 指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ S 118 ）。

【 0 1 9 7 】

その後、CPU 56 は、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄変動中処理（ステップ S 303 ）に対応した値に更新する（ステップ S 120 ）。

【 0 1 9 8 】

図 20 は、特別図柄プロセス処理における特別図柄変動中処理（ステップ S 303 ）を示すフローチャートである。特別図柄変動中処理において、CPU 56 は、変動時間タイマを 1 減算し（ステップ S 125 ）、変動時間タイマがタイムアウトしたら（ステップ S 126 ）、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄停止処理（ステップ S 304 ）に対応した値に更新する（ステップ S 127 ）。変動時間タイマがタイムアウトしていない場合には、そのまま処理を終了する。

【 0 1 9 9 】

図 21 は、特別図柄プロセス処理における特別図柄停止処理（ステップ S 304 ）を示すフローチャートである。特別図柄停止処理において、CPU 56 は、ステップ S 32 の特別図柄表示制御処理で参照される終了フラグをセットして特別図柄の変動を終了させ、特別図柄表示器 8 に停止図柄を停止表示する制御を行う（ステップ S 131 ）。また、演出制御用マイクロコンピュータ 100 に図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ S 132 ）。そして、大当りフラグがセットされていない場合には、ステップ S 1

39Aに移行する(ステップS133)。

【0200】

大当りフラグがセットされている場合には、CPU56は、セットされていれば、確変状態であることを示す確変フラグ、および時短状態であることを示す時短フラグをリセットし(ステップS134)、演出制御用マイクロコンピュータ100に大当り開始指定コマンドを送信する制御を行う(ステップS135)。具体的には、大当りの種別が通常大当りである場合には大当り開始1指定コマンドを送信する。大当りの種別が確変大当りである場合には大当り開始2指定コマンドを送信する。大当りの種別が突然確変大当りである場合には小当り/突然確変大当り開始指定コマンドを送信する。なお、大当りの種別が通常大当り、確変大当りまたは突然確変大当りのいずれであるかは、RAM55に記憶されている大当り種別を示すデータ(大当り種別バッファに記憶されているデータ)にもとづいて判定される。そして、CPU56は、演出制御用マイクロコンピュータ100に低確率状態指定コマンドを送信する制御を行う(ステップS135A)。

10

【0201】

また、大当り表示時間タイマに大当り表示時間(大当りが発生したことを、例えば、演出表示装置9において報知する時間)に相当する値を設定する(ステップS136)。また、大入賞口開放回数カウンタに開放回数(例えば、通常大当りまたは確変大当りの場合には15回。突然確変大当りの場合には2回。)をセットする(ステップS137)。そして、特別図柄プロセスフラグの値を大入賞口開放前処理(ステップS305)に対応した値に更新する(ステップS138)。

20

【0202】

ステップS139Aでは、CPU56は、確変状態であることを示す確変フラグがセットされているか否かを確認する。確変フラグがセットされていないか否か確認する(ステップS139B)。時短フラグがセットされている場合には(すなわち、確変状態をとともわず、時短状態にのみ制御されている場合には)、時短状態における特別図柄の変動可能回数を示す時短回数カウンタの値を-1する(ステップS140)。また、CPU56は、時短回数カウンタの値が0になった場合には(ステップS141)、時短フラグをリセットする(ステップS142)。また、CPU56は、演出制御用マイクロコンピュータ100に対して低確率状態指定コマンドを送信する制御を行う(ステップS142A)。

30

【0203】

次いで、CPU56は、小当りフラグがセットされているか否かを確認する(ステップS143)。小当りフラグがセットされていれば、CPU56は、演出制御用マイクロコンピュータ100に小当り/突然確変大当り開始指定コマンドを送信する(ステップS144)。また、小当り表示時間タイマに小当り表示時間(小当りが発生したことを、例えば、演出表示装置9において報知する時間)に相当する値を設定する(ステップS145)。また、大入賞口開放回数カウンタに開放回数(例えば2回)をセットする(ステップS146)。そして、特別図柄プロセスフラグの値を小当り開始前処理(ステップS308)に対応した値に更新する(ステップS147)。

【0204】

40

小当りフラグもセットされていなければ(ステップS143のN)、CPU56は、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄通常処理(ステップS300)に対応した値に更新する(ステップS148)。

【0205】

図22は、特別図柄プロセス処理における大当り終了処理(ステップS307)を示すフローチャートである。大当り終了処理において、CPU56は、大当り終了表示タイマが設定されているか否か確認し(ステップS150)、大当り終了表示タイマが設定されている場合には、ステップS154に移行する。大当り終了表示タイマが設定されていない場合には、大当りフラグをリセットし(ステップS151)、大当り終了指定コマンドを送信する制御を行う(ステップS152)。ここで、通常大当りであった場合には大当

50

り終了1指定コマンドを送信し、確変大当りであった場合には大当り終了2指定コマンドを送信し、突然確変大当りであった場合には小当り/突然確変大当り終了指定コマンドを送信する。そして、大当り終了表示タイマに、演出表示装置9において大当り終了表示が行われている時間(大当り終了表示時間)に対応する表示時間に相当する値を設定し(ステップS153)、処理を終了する。

【0206】

ステップS154では、大当り終了表示タイマの値を1減算する。そして、CPU56は、大当り終了表示タイマの値が0になっているか否か、すなわち大当り終了表示時間が経過したか否かを確認する(ステップS155)。経過していなければ処理を終了する。

【0207】

大当り終了表示時間を経過していれば(ステップS155のY)、CPU56は、大当りの種別が確変大当りまたは突然確変大当りであるか否かを確認する(ステップS156)。なお、確変大当りまたは突然確変大当りであるか否かは、具体的には、特別図柄通常処理のステップS74で大当り種別バッファに設定されたデータが「02」～「03」であるか否かを確認することによって判定できる。確変大当りおよび突然確変大当りのいずれでもなければ(すなわち、通常大当りであれば)、CPU56は、時短フラグをセットして時短状態に移行させる(ステップS157)。また、CPU56は、時短回数をカウントするための時短回数カウンタに所定回数(例えば100回)をセットする(ステップS158)。そして、ステップS161に移行する。

【0208】

確変大当りまたは突然確変大当りであれば、CPU56は、確変フラグをセットして確率状態を確変状態に移行させる(ステップS159)。また、CPU56は、時短フラグをセットする(ステップS160)。そして、ステップS161に移行する。

【0209】

なお、この実施の形態では、ステップS157、S160でセットした時短フラグは、可変入賞球装置15の開放時間を長くしたり開放回数を増加させたりするか否かを判定するためにも用いられる。この場合、具体的には、CPU56は、普通図柄プロセス処理(ステップS27参照)において、普通図柄の変動表示結果が当たりとなったときに、時短フラグがセットされているか否かを確認し、セットされていれば、開放時間を長くしたり開放回数を増加させたりして可変入賞球装置15を開放する制御を行う。また、ステップS157、S160でセットした時短フラグは、特別図柄の変動時間を短縮するか否かを判定するために用いられる。

【0210】

ステップS161では、CPU56は、演出制御用マイクロコンピュータ100に対して時短状態指定コマンドを送信する制御を行う。そして、CPU56は、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄通常処理(ステップS300)に対応した値に更新する(ステップS166)。

【0211】

次に、演出制御手段の動作を説明する。図23は、演出制御基板80に搭載されている演出制御手段としての演出制御用マイクロコンピュータ100(具体的には、演出制御用CPU101)が実行するメイン処理を示すフローチャートである。演出制御用CPU101は、電源が投入されると、メイン処理の実行を開始する。メイン処理では、まず、RAM領域のクリアや各種初期値の設定、また演出制御の起動間隔(例えば、2ms)を決めるためのタイマの初期設定等を行うための初期化処理を行う(ステップS701)。その後、演出制御用CPU101は、タイマ割込フラグの監視(ステップS702)を行うループ処理に移行する。タイマ割込が発生すると、演出制御用CPU101は、タイマ割込処理においてタイマ割込フラグをセットする。メイン処理において、タイマ割込フラグがセットされていたら、演出制御用CPU101は、そのフラグをクリアし(ステップS703)、以下の演出制御処理を実行する。

【0212】

演出制御処理において、演出制御用CPU101は、まず、受信した演出制御コマンドを解析し、受信した演出制御コマンドに応じたフラグをセットする処理等を行う（コマンド解析処理：ステップS704）。次いで、演出制御用CPU101は、演出制御プロセス処理を行う（ステップS705）。演出制御プロセス処理では、制御状態に応じた各プロセスのうち、現在の制御状態（演出制御プロセスフラグ）に対応した処理を選択して演出表示装置9の表示制御を実行する。

【0213】

次いで、チャンス目予告決定用乱数や、チャンス目予告演出種類決定用乱数、準チャンス目判定用乱数、大当たり図柄決定用乱数などの乱数を生成するためのカウンタのカウント値を更新する乱数更新処理を実行する（ステップS706）。また、保留記憶表示部18cの表示状態の制御を行う保留記憶表示制御処理を実行する（ステップS707）。その後、ステップS702に移行する。

10

【0214】

図26は、主基板31の遊技制御用マイクロコンピュータ560から受信した演出制御コマンドを格納するためのコマンド受信バッファの一構成例を示す説明図である。この例では、2バイト構成の演出制御コマンドを6個格納可能なリングバッファ形式のコマンド受信バッファが用いられる。従って、コマンド受信バッファは、受信コマンドバッファ1～12の12バイトの領域で構成される。そして、受信したコマンドをどの領域に格納するのかを示すコマンド受信個数カウンタが用いられる。コマンド受信個数カウンタは、0～11の値をとる。なお、必ずしもリングバッファ形式でなくてもよい。

20

【0215】

なお、遊技制御用マイクロコンピュータ560から送信された演出制御コマンドは、演出制御INT信号にもとづく割込処理で受信され、RAMに形成されているバッファ領域に保存されている。コマンド解析処理では、バッファ領域に保存されている演出制御コマンドがどのコマンド（図13参照）であるのか解析する。

【0216】

図25および図26は、コマンド解析処理（ステップS704）の具体例を示すフローチャートである。主基板31から受信された演出制御コマンドは受信コマンドバッファに格納されるが、コマンド解析処理では、演出制御用CPU101は、コマンド受信バッファに格納されているコマンドの内容を確認する。

30

【0217】

コマンド解析処理において、演出制御用CPU101は、まず、コマンド受信バッファに受信コマンドが格納されているか否か確認する（ステップS611）。格納されているか否かは、コマンド受信個数カウンタの値と読出ポインタとを比較することによって判定される。両者が一致している場合が、受信コマンドが格納されていない場合である。コマンド受信バッファに受信コマンドが格納されている場合には、演出制御用CPU101は、コマンド受信バッファから受信コマンドを読み出す（ステップS612）。なお、読み出したら読出ポインタの値を+2しておく（ステップS613）。+2するのは2バイト（1コマンド）ずつ読み出すからである。

【0218】

40

受信した演出制御コマンドが変動パターンコマンドであれば（ステップS614）、演出制御用CPU101は、その変動パターンコマンドを、RAMに形成されている変動パターンコマンド格納領域に格納する（ステップS615）。そして、変動パターンコマンド受信フラグをセットする（ステップS616）。

【0219】

受信した演出制御コマンドが表示結果指定コマンドであれば（ステップS617）、演出制御用CPU101は、その表示結果指定コマンド（表示結果1指定コマンド～表示結果5指定コマンド）を、RAMに形成されている表示結果指定コマンド格納領域に格納する（ステップS618）。

【0220】

50

受信した演出制御コマンドが図柄確定指定コマンドであれば（ステップS 6 1 9）、演出制御用CPU 1 0 1は、確定コマンド受信フラグをセットする（ステップS 6 2 0）。

【0 2 2 1】

受信した演出制御コマンドが大当り開始1指定コマンドまたは大当り開始2指定コマンドであれば（ステップS 6 2 1）、演出制御用CPU 1 0 1は、大当り開始1指定コマンド受信フラグまたは大当り開始2指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS 6 2 2）。

【0 2 2 2】

受信した演出制御コマンドが小当り/突然確変大当り開始指定コマンドであれば（ステップS 6 2 3）、演出制御用CPU 1 0 1は、小当り/突然確変大当り開始指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS 6 2 4）。 10

【0 2 2 3】

受信した演出制御コマンドが始動入賞指定コマンドであれば（ステップS 6 2 5）、始動入賞指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS 6 2 6）。

【0 2 2 4】

受信した演出制御コマンドが保留記憶数指定コマンドであれば（ステップS 6 2 7）、演出制御用CPU 1 0 1は、その保留記憶数指定コマンドの2バイト目のデータ（EXTデータ）を保留記憶数保存領域に格納する（ステップS 6 2 8）。

【0 2 2 5】

受信した演出制御コマンドが大当り終了1または2指定コマンドであれば（ステップS 6 2 9）、演出制御用CPU 1 0 1は、大当り終了1または2指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS 6 3 0）。 20

【0 2 2 6】

受信した演出制御コマンドが入賞時判定結果指定コマンドであれば（ステップS 6 3 1）、受信した入賞時判定結果指定コマンドに対応するフラグをセットする（ステップS 6 3 2）。具体的には、入賞時判定結果1指定コマンドを受信した場合には入賞時判定結果1指定コマンド受信フラグをセットし、入賞時判定結果2指定コマンドを受信した場合には入賞時判定結果2指定コマンド受信フラグをセットし、入賞時判定結果3指定コマンドを受信した場合には入賞時判定結果3指定コマンド受信フラグをセットし、入賞時判定結果4指定コマンドを受信した場合には入賞時判定結果4指定コマンド受信フラグをセットし、入賞時判定結果5指定コマンドを受信した場合には入賞時判定結果5指定コマンド受信フラグをセットする。 30

【0 2 2 7】

そして、演出制御用CPU 1 0 1は、入賞時判定結果1指定コマンドまたは入賞時判定結果2指定コマンドを受信した場合（つまり、少なくともスーパーリーチ（スーパーリーチA、スーパーリーチB）を伴う変動表示が実行される場合）に（ステップS 6 3 3のY）、スーパーリーチとなることを予告する予告画面を表示する旨のスーパーリーチ予告（キャラクタ予告）フラグをセットする（ステップS 6 3 4）。また、演出制御用CPU 1 0 1は、保留記憶数保存領域に現在記憶されている保留記憶数を変動回数カウンタにセットする（ステップS 6 6 5）。なお、変動回数カウンタは、入賞時判定結果指定コマンドで指定されたスーパーリーチとなるまでに実行される変動表示の回数をカウントするためのカウンタである。 40

【0 2 2 8】

受信した演出制御コマンドが小当り/突然確変大当り終了指定コマンドであれば（ステップS 6 3 6）、演出制御用CPU 1 0 1は、小当り/突然確変大当り終了指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS 6 3 7）。

【0 2 2 9】

受信した演出制御コマンドがその他のコマンドであれば、演出制御用CPU 1 0 1は、受信した演出制御コマンドに応じたフラグをセットする（ステップS 6 3 8）。そして、ステップS 6 1 1に移行する。 50

【 0 2 3 0 】

図 2 7 は、図 2 3 に示されたメイン処理における演出制御プロセス処理（ステップ S 7 0 5 ）を示すフローチャートである。演出制御プロセス処理では、演出制御用 C P U 1 0 1 は、チャンス目予告判定処理を実行するとともに（ステップ S 8 1 0 ）、演出制御プロセスフラグの値に応じてステップ S 8 0 0 ~ S 8 0 6 のうちのいずれかの処理を行う。各処理において、以下のような処理を実行する。

【 0 2 3 1 】

変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップ S 8 0 0 ）：遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 から変動パターンコマンドを受信しているか否か確認する。具体的には、コマンド解析処理でセットされる変動パターンコマンド受信フラグがセットされているか否か確認する。変動パターンコマンドを受信していれば、演出制御プロセスフラグの値を演出図柄変動開始処理（ステップ S 8 0 1 ）に対応した値に変更する。

10

【 0 2 3 2 】

演出図柄変動開始処理（ステップ S 8 0 1 ）：演出図柄の変動が開始されるように制御する。そして、演出制御プロセスフラグの値を演出図柄変動中処理（ステップ S 8 0 2 ）に対応した値に更新する。

【 0 2 3 3 】

演出図柄変動中処理（ステップ S 8 0 2 ）：変動パターンを構成する各変動状態（変動速度）の切替タイミング等を制御するとともに、変動時間の終了を監視する。そして、変動時間が終了したら、演出制御プロセスフラグの値を演出図柄変動停止処理（ステップ S 8 0 3 ）に対応した値に更新する。

20

【 0 2 3 4 】

演出図柄変動停止処理（ステップ S 8 0 3 ）：全図柄停止を指示する演出制御コマンド（図柄確定指定コマンド）を受信したことにもとづいて、演出図柄（飾り図柄）の変動を停止し表示結果（停止図柄）を停止表示する制御を行う。そして、演出制御プロセスフラグの値を大当たり表示処理（ステップ S 8 0 4 ）または変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップ S 8 0 0 ）に対応した値に更新する。

【 0 2 3 5 】

大当たり表示処理（ステップ S 8 0 4 ）：変動時間の終了後、演出表示装置 9 に大当たりの発生を報知するための画面を表示する制御を行う。そして、演出制御プロセスフラグの値を大当たり遊技中処理（ステップ S 8 0 5 ）に対応した値に更新する。

30

【 0 2 3 6 】

大当たり遊技中処理（ステップ S 8 0 5 ）：大当たり遊技中の制御を行う。例えば、大入賞口開放中指定コマンドや大入賞口開放後指定コマンドを受信したら、演出表示装置 9 におけるラウンド数の表示制御等を行う。そして、演出制御プロセスフラグの値を大当たり終了処理（ステップ S 8 0 6 ）に対応した値に更新する。

【 0 2 3 7 】

大当たり終了処理（ステップ S 8 0 6 ）：演出表示装置 9 において、大当たり遊技状態が終了したことを遊技者に報知する表示制御を行う。そして、演出制御プロセスフラグの値を変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップ S 8 0 0 ）に対応した値に更新する。

40

【 0 2 3 8 】

図 2 8 は、ステップ S 8 1 0 のチャンス目予告判定処理を示すフローチャートである。チャンス目予告判定処理において、演出制御用 C P U 1 0 1 は、入賞時判定結果コマンド（入賞時判定結果 1 指定コマンド、入賞時判定結果 2 指定コマンド、入賞時判定結果 3 指定コマンド、入賞時判定結果 4 指定コマンド、または入賞時判定結果 5 指定コマンド）を受信したことを示す入賞時判定結果コマンド受信フラグがセットされているか否か確認する（ステップ S 6 7 1 ）。

【 0 2 3 9 】

入賞時判定結果コマンド受信フラグがセットされていない場合には処理を終了する。

【 0 2 4 0 】

50

演出制御用CPU101は、入賞時判定結果コマンド受信フラグがセットされている場合には（ステップS671のY）、保留記憶数が2以上であるか否か確認する（ステップS672）。保留記憶数は、ステップS628の処理で保留記憶数保存領域に格納された保留記憶数指定コマンドの2バイト目のデータ（EXTデータ）によって確認することができる。なお、保留記憶数が2以上でなければ（ステップS672のN）、処理を終了する。保留記憶数が2以上であるか否かを確認するのは、1個目の保留記憶に対応する可変表示時にチャンス目予告演出を実行し、その後、チャンス目予告演出の対象となる2個目の保留記憶に対応する可変表示を実行するためである。

【0241】

演出制御用CPU101は、チャンス目予告禁止フラグがセットされていない場合には（ステップS673のN）、チャンス目予告決定用乱数（SR2-1）を抽出し（ステップS674）、チャンス目予告決定テーブルを用いてチャンス目予告演出を実行するか否か決定する（ステップS675）。なお、チャンス目予告禁止フラグは、チャンス目予告演出の実行開始を禁止することを示すフラグであり、後述するステップS685の処理でセットされ、ステップS821Dの処理でリセットされる。

【0242】

図29は、チャンス目予告決定テーブルを示す説明図である。図29（A）に示すチャンス目予告決定テーブルは、入賞時判定結果が非リーチはずれであった場合に用いられるチャンス目予告決定テーブルである。演出制御用CPU101は、入賞時判定結果4指定コマンド受信フラグがセットされている場合に、図29（A）に示すチャンス目予告決定テーブルを用いてステップS675の処理を行う。

【0243】

図29（B）に示すチャンス目予告決定テーブルは、入賞時判定結果がノーマルリーチはずれであった場合に用いられるチャンス目予告決定テーブルである。演出制御用CPU101は、入賞時判定結果3指定コマンド受信フラグがセットされている場合に、図29（B）に示すチャンス目予告決定テーブルを用いてステップS675の処理を行う。

【0244】

図29（C）に示すチャンス目予告決定テーブルは、入賞時判定結果がスーパーリーチはずれであった場合に用いられるチャンス目予告決定テーブルである。演出制御用CPU101は、入賞時判定結果2指定コマンド受信フラグがセットされている場合に、図29（C）に示すチャンス目予告決定テーブルを用いてステップS675の処理を行う。

【0245】

図29（D）に示すチャンス目予告決定テーブルは、入賞時判定結果がスーパーリーチ当りであった場合に用いられるチャンス目予告決定テーブルである。演出制御用CPU101は、入賞時判定結果1指定コマンド受信フラグがセットされている場合に、図29（D）に示すチャンス目予告決定テーブルを用いてステップS675の処理を行う。

【0246】

図29（E）に示すチャンス目予告決定テーブルは、入賞時判定結果が非スーパーリーチ当りであった場合に用いられるチャンス目予告決定テーブルである。演出制御用CPU101は、入賞時判定結果5指定コマンド受信フラグがセットされている場合に、図29（E）に示すチャンス目予告決定テーブルを用いてステップS675の処理を行う。

【0247】

図29には、判定値そのものではなく、チャンス目予告演出ありと判定する判定値の数が記載されているが、各チャンス目予告決定テーブルには、図29に記載した判定値の数だけチャンス目予告演出ありと判定する判定値が設定されている。本実施の形態では、非リーチはずれ時のチャンス目予告決定テーブルに3個の判定値が設定され、ノーマルリーチはずれ時のチャンス目予告決定テーブルに6個の判定値が設定され、スーパーリーチはずれ時のチャンス目予告決定テーブルに21個の判定値が設定され、スーパーリーチ当り時のチャンス目予告決定テーブルに27個の判定値が設定され、非スーパーリーチ当り時のチャンス目予告決定テーブルには判定値が設定されていない。つまり、スーパーリーチ

10

20

30

40

50

当り（１５ラウンド大当りと判定されたことにもとづいて実行されるが、突然確変大当りと判定されたことにもとづいては実行されない）時には、はずれ時よりもチャンス目予告演出が実行される割合が高いように構成されている。また、はずれ時であっても、リーチはずれ時には、非リーチはずれ時よりもチャンス目予告演出が実行される割合が高いように構成されている。リーチはずれ時であっても、スーパーリーチはずれ時には、ノーマルリーチはずれ時よりもチャンス目予告演出が実行される割合が高いように構成されている。非スーパーリーチ当り（突然確変大当りにもとづいて発生する）時には、判定値が設定されておらず、突然確変大当りを予告するチャンス目予告演出は実行されない。そのように構成されていることによって、チャンス目予告演出の信頼度を高めている。なお、チャンス目予告決定用乱数の値は、１～３１のいずれかである。

10

【０２４８】

演出制御用ＣＰＵ１０１は、ステップＳ６７４で抽出したチャンス目予告決定用乱数の値が、セットされている入賞時判定結果指定コマンド受信フラグに応じたチャンス目予告決定テーブルに設定されている判定値に合致した場合に、チャンス目予告演出を実行すると決定する（ステップＳ６７５）。

【０２４９】

演出制御用ＣＰＵ１０１は、チャンス目予告演出を実行すると決定した場合に（ステップＳ６７６のＹ）、チャンス目予告演出決定処理（ステップＳ２６００）に移行する。チャンス目予告演出を実行しないと決定した場合に（ステップＳ６７６のＮ）、ステップＳ６８３の処理に移行する。

20

【０２５０】

図３０は、チャンス目予告演出決定処理を示すフローチャートである。チャンス目予告演出決定処理において、演出制御用ＣＰＵ１０１は、予告回数カウンタに、保留記憶数から－１した値をセットする（ステップＳ９０１）。予告回数カウンタに、保留記憶数から－１した値をセットするのは、チャンス目予告演出の実行後に、チャンス目予告演出の予告対象となる保留記憶に応じた演出が実行されるからである。つまり、チャンス目予告演出は、予告対象となる保留記憶が発生してから、その保留記憶にもとづく演出図柄の可変表示が実行されるまでに行われる１回または複数回の演出図柄の可変表示中に行われる。

【０２５１】

演出制御用ＣＰＵ１０１は、チャンス目予告演出種類決定用乱数（ＳＲ２－２）を抽出し（ステップＳ９０２）、抽出したチャンス目予告演出種類決定用乱数（ＳＲ２－２）の値とチャンス目予告演出種類決定テーブルとにより予告種類を決定する（ステップＳ９０３）。

30

【０２５２】

演出制御用ＣＰＵ１０１は、ステップＳ９０３の処理で、抽出したチャンス目予告演出種類決定用乱数（ＳＲ２－２）の値とチャンス目予告演出種類決定テーブルとにより決定した予告種類と、チャンス目予告演出の実行回数（予告回数）とをＲＡＭに形成されているバッファ領域に保存する（ステップＳ９０４）。

【０２５３】

演出制御用ＣＰＵ１０１は、連続予告実行フラグをセットし、処理を終了する（ステップＳ９０５）。

40

【０２５４】

図３１は、チャンス目予告演出種類決定テーブルを示す説明図である。図３１（Ａ）は、連続予告回数が１回である場合（ステップＳ９０１で予告回数カウンタにセットされた値が１である場合）に用いられるテーブルである。図３１（Ｂ）は、連続予告回数が２回である場合（ステップＳ９０１で予告回数カウンタにセットされた値が２である場合）に用いられるテーブルである。図３１（Ｃ）は、連続予告回数が３回である場合（ステップＳ９０１で予告回数カウンタにセットされた値が３である場合）に用いられるテーブルである。

【０２５５】

50

図31(A)に示す例では、連続予告回数が1回である場合に、チャンス目予告演出として、チャンス目が演出図柄の停止図柄として停止表示される(演出パターン番号1)。図31(B)に示す例では、連続予告回数が2回である場合に、チャンス目予告演出として、チャンス目が演出図柄の停止図柄として停止表示された後の演出図柄の停止図柄として、単にチャンス目が停止表示される場合(演出パターン番号2)と、演出図柄の可変表示開始時に背景画像が変化し、停止図柄としてチャンス目が停止表示される場合(演出パターン番号3)とがある。つまり、演出パターン番号2は、1回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、2回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示される演出パターンである。演出パターン番号3は、1回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、2回目のチャンス目予告演出として演出図柄の可変表示開始時に背景画像が変化し、その後演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示される演出パターンである。

10

【0256】

図31(B)に示すように、演出パターン番号3には、大当たり時に多くの判定値が設定されている。従って、2回目のチャンス目予告演出として演出図柄の可変表示開始時に背景画像が変化した場合に、遊技者の期待感を煽り、遊技興趣を向上させることができる。また、大当たり時には、演出パターン番号2にも演出パターン番号3と同程度の判定値が設定されているので(演出パターン番号2には15個の判定値が設定され、演出パターン番号3には16個の判定値が設定されているので)、演出図柄の可変表示開始時に背景画像が変化しなかった場合にも、遊技者の期待感を維持させることができる。

20

【0257】

また、連続予告回数が3回である場合には、チャンス目予告演出として、演出パターン番号4~9が用意されている。演出パターン番号4は、1回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、2回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、3回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示される演出パターンである。演出パターン番号5は、1回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、2回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、3回目のチャンス目予告演出として演出図柄の可変表示開始時に背景画像が変化し、その後演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示される演出パターンである。

30

【0258】

演出パターン番号6は、1回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、2回目のチャンス目予告演出として演出図柄の可変表示開始時に背景画像が変化し、その後演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、3回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示される演出パターンである。演出パターン番号7は、1回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、2回目のチャンス目予告演出として演出図柄の可変表示開始時に背景画像が変化し、その後演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、3回目のチャンス目予告演出として演出図柄の可変表示開始時に背景画像が変化し、その後演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示される演出パターンである。

40

【0259】

演出パターン番号8は、1回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、2回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄として準チャンス目が停止表示され、3回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示される演出パターンである。演出パターン番号5は、1回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、2回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄として準チャンス目が停止表示され、

50

3 回目のチャンス目予告演出として演出図柄の可変表示開始時に背景画像が変化し、その後演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示される演出パターンである。

【 0 2 6 0 】

図 3 1 (C) に示すように、演出パターン番号 5 , 7 , 9 には、大当たり時に多くの判定値が設定されているので、3 回目のチャンス目予告演出として演出図柄の可変表示開始時に背景画像が変化した場合に、遊技者の期待感を煽り、遊技興趣を向上させることができる。また、演出パターン番号 5 , 7 , 9 では (演出パターン番号 3 を含む) 、背景画像の変化とチャンス目の停止表示とが異なるタイミングで重複して実行されるので、意外性のある演出により遊技者の遊技興趣を向上させることができる。また、演出パターン番号 8 , 9 の演出 (特定予告演出) には、大当たり時に多くの判定値が設定されているので、2 回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄として準チャンス目が停止表示された後、2 回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示され、その後大当たりとなる場合があり、2 回目のチャンス目予告演出として演出図柄の停止図柄としてチャンス目が停止表示された場合であっても、遊技者の期待感を維持させることができる。また、準チャンス目が停止表示されたことにより、遊技者にチャンス目予告演出が終了したように認識させてからもチャンス目予告演出が継続している場合があるので、準チャンス目が停止表示されてからも遊技者の大当たり遊技への期待感を維持させることができる。なお、演出パターン番号 8 , 9 の演出 (特定予告演出) を大当たり時のみ実行するように判定値が設定されていてもよい。つまり、準チャンス目が停止表示されてからチャンス目が停止表示された後は必ず大当たりとなるように構成されていてもよい。そのように構成された場合には、準チャンス目を停止表示することがより効果的な演出となる。また、各演出パターンに対する判定値の個数が異なるので、複数の可変表示に亘るチャンス目予告演出中において実行される各演出により遊技者の大当たり遊技への期待感を異ならせ、遊技興趣を向上させることができる。なお、チャンス目、準チャンス目、背景画像については後述する。

【 0 2 6 1 】

C P U 1 0 1 は、チャンス目予告演出を実行しないと決定した後 (ステップ S 6 7 6 の N) のステップ S 6 8 3 の処理で、入賞時判定結果 1 ~ 3 , 5 指定コマンド受信フラグがセットされている場合に (ステップ S 6 8 3 の Y) 、チャンス目予告禁止カウンタに保留記憶数の値をセットし (ステップ S 6 8 4) 、チャンス目予告禁止フラグをセットする (ステップ S 6 8 5) 。ここで、入賞時判定結果 1 , 5 指定コマンド受信フラグがセットされている場合とは、演出図柄の停止図柄に大当たり図柄を停止表示させる場合である。また、入賞時判定結果 2 , 3 指定コマンド受信フラグがセットされている場合とは、演出図柄の停止図柄にリーチ図柄を停止表示させる場合である。そのような場合に、その後に発生した始動入賞に応じた保留記憶にもとづくチャンス目予告演出で、停止図柄をチャンス目や準チャンス目とされるのを防ぐためである。また、チャンス目予告演出を実行すると決定し (ステップ S 6 7 6 の Y) 、チャンス目予告演出決定処理を実行した後も、ステップ S 6 8 4 , S 6 8 5 の処理を実行して、チャンス目予告演出の重複を防ぐ。そして、C P U 1 0 1 は、チャンス目予告判定処理を終了する。

【 0 2 6 2 】

図 3 2 は、変動パターンコマンド受信待ち処理 (ステップ S 8 0 0) を示すフローチャートである。変動パターンコマンド受信待ち処理において、演出制御用 C P U 1 0 1 は、変動パターンコマンド受信フラグがセットされているか否か確認する (ステップ S 8 1 1) 。変動パターンコマンド受信フラグがセットされていれば、変動パターンコマンド受信フラグをリセットする (ステップ S 8 1 2) 。そして、演出制御プロセスフラグの値を演出図柄変動開始処理 (ステップ S 8 0 1) に対応した値に更新する (ステップ S 8 1 3) 。

【 0 2 6 3 】

図 3 3 ~ 図 3 5 は、演出図柄変動開始処理 (ステップ S 8 0 1) を示すフローチャートである。演出図柄変動開始処理において、演出制御用 C P U 1 0 1 は、まず、セットされ

10

20

30

40

50

ていれば、変動回数カウンタの値を1減算する(ステップS820A)。また、演出制御用CPU101は、減算後の変動回数カウンタの値が0であるか否かを確認する(ステップS820B)。そして、変動回数カウンタの値が0になっていれば、演出制御用CPU101は、スーパーリーチ予告(キャラクタ予告)フラグをリセットする(ステップS820C)。そのような処理が実行されることによって、この実施の形態では、スーパーリーチとなる変動表示の1つ前の変動表示までスーパーリーチの予告画面(キャラクタ予告画面)が表示されて、そのスーパーリーチとなる変動表示の開始時にスーパーリーチ予告(キャラクタ予告)フラグがリセットされる(そのスーパーリーチとなる変動表示中には予告画面の表示は行われない)。なお、そのスーパーリーチとなる変動表示中においても、スーパーリーチの予告画面(キャラクタ予告画面)を表示するようにしてもよい。

10

【0264】

次いで、演出制御用CPU101は、チャンス目予告禁止フラグがセットされている場合に(ステップS821AのY)、チャンス目予告禁止カウンタを1減算し(ステップS821B)、減算後のチャンス目予告禁止カウンタの値が0である場合に(ステップS821CのY)、チャンス目予告禁止フラグをリセットする(ステップS821D)。チャンス目予告禁止の対象となる保留記憶に応じた可変表示が終了するからである。

【0265】

演出制御用CPU101は、ステップS615の処理で変動パターンコマンド格納領域に格納した変動パターンコマンドを読み出し(ステップS822A)、連続予告実行フラグがセットされているか否かを確認する(ステップS822B)。連続予告実行フラグがセ

20

【0266】

演出制御用CPU101は、連続予告実行フラグがセットされている場合に(ステップS822BのY)、予告回数カウンタの値を1減算する(ステップS822C)。そして、減算後の予告回数カウンタの値が0である場合に(ステップS822DのY)、連続予告実行フラグをリセットし(ステップS822E)、保留記憶数が0でない場合に(ステップS822FのN)、連続予告終了フラグをセットする(ステップS822G)。連続予告終了フラグは、連続予告の終了時にセットされるフラグであり、演出図柄の次の可変表示開始時に、後述するステップS822Jの処理でセットされているか否か確認される。そして、ステップS822Jの処理で連続予告終了フラグがセットされていると判定され、後述するステップS822Lの処理でYと判定され、後述するステップS822Oの処理でYと判定された場合に、準チャンス目を停止図柄に決定される。つまり、連続予告終了フラグは、連続予告終了後の次の可変表示結果として、準チャンス目を停止図柄とするためのフラグである。

30

【0267】

そして、演出制御用CPU101は、ステップS904の処理でバッファ領域に保存されたチャンス目予告演出の予告種類を読み出し、読み出したチャンス目予告演出の予告種類に応じて演出図柄の停止図柄を決定する(ステップS822H)。また、演出制御用CPU101は、読み出したチャンス目予告演出の予告種類に応じて背景画像を変更する(ステップS822I)。例えば、バッファ領域に演出パターン番号9が保存され、予告回数カウンタの値が3である場合に、演出制御用CPU101は、1回目のチャンス目予告演出としてチャンス目を演出図柄の停止図柄に決定する。また、予告回数カウンタの値が2である場合に、演出制御用CPU101は、2回目のチャンス目予告演出として準チャンス目を演出図柄の停止図柄に決定する。また、予告回数カウンタの値が1である場合に、演出制御用CPU101は、3回目のチャンス目予告演出としてチャンス目を演出図柄の停止図柄に決定し、演出表示装置9に表示させる背景画像を変更する。そして、ステップS823の処理に移行する。

40

【0268】

演出制御用CPU101は、ステップS822Jの処理で、連続予告終了フラグがセッ

50

トされているか否か確認する（ステップS 8 2 2 J）。連続予告終了フラグがセットされている場合に（ステップS 8 2 2 JのY）、連続予告終了フラグをリセットする（ステップS 8 2 2 K）。さらに、ステップ8 2 2 Aの処理で読み出した変動パターンコマンドが非リーチはずれの変動パターンの変動パターンコマンドである場合に（ステップS 8 2 2 LのY）、準チャンス目判定用乱数（SR 2 - 3）を抽出し（ステップS 8 2 2 M）、準チャンス目を停止図柄にするか否か決定する（ステップS 8 2 2 N）。従って、例えば、変動パターンコマンドがリーチはずれの変動パターンの変動パターンコマンドである場合には、準チャンス目は停止図柄に決定されず、後述するステップS 8 2 2 Qの処理で、リーチはずれ図柄（左右図柄が同じで中図柄のみが異なる）が停止図柄に決定され、変動パターン（リーチはずれの変動パターン）と停止図柄（リーチはずれ図柄）とを整合させることができる。

10

【0 2 6 9】

図3 6は、準チャンス目判定用テーブルを示す説明図である。図3 6に示すように、準チャンス目判定用テーブルには、準チャンス目を表示する場合と、準チャンス目を表示しない場合とに、準チャンス目判定用乱数（SR 2 - 3）の値と比較するための判定値が設定されている。演出制御用CPU 1 0 1は、準チャンス目判定用乱数（SR 2 - 3）の値が準チャンス目を表示する場合の判定値と合致した場合に（ステップS 8 2 2 OのY）、準チャンス目を表示すると決定する（ステップS 8 2 2 P）。図3 6に示すように、準チャンス目は、毎回ではなく、所定の確率（この実施の形態では約5 0 %）で表示すると決定される。また、準チャンス目は、演出パターン番号8 , 9にもとづいても表示される。従って、準チャンス目が表示された場合であっても、遊技者に、特定遊技状態への期待感を維持させることができる。

20

【0 2 7 0】

演出制御用CPU 1 0 1は、連続予告終了フラグがセットされていない場合（ステップS 8 2 2 JのN）、変動パターンコマンドが非リーチはずれの変動パターンの変動パターンコマンドでない場合（ステップS 8 2 2 LのN）、または準チャンス目判定用乱数（SR 2 - 3）の値が準チャンス目を表示しない場合の判定値と合致した場合に（ステップS 8 2 2 OのN）、次いで、表示結果指定コマンド格納領域に格納されているデータ（すなわち、受信した表示結果指定コマンド）に応じて演出図柄（飾り図柄）の表示結果（停止図柄）を決定する（ステップS 8 2 2 Q）。なお、演出制御用CPU 1 0 1は、ステップS 8 2 2 Qの処理で、チャンス目および準チャンス目を除外して演出図柄の停止図柄を決定する。そして、演出制御用CPU 1 0 1は、決定した演出図柄の停止図柄を示すデータを演出図柄表示結果格納領域に格納する。

30

【0 2 7 1】

演出制御用CPU 1 0 1は、ステップS 8 2 3の処理で、変動パターンに応じたプロセステーブルを選択する（ステップS 8 2 3）。そして、選択したプロセステーブルのプロセスデータ1におけるプロセスタイマをスタートさせる（ステップS 8 2 4）。また、演出制御用CPU 1 0 1は、プロセスデータ1の内容（表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音番号データ1）に従って演出装置（演出用部品としての演出表示装置9、演出用部品としての各種ランプおよび演出用部品としてのスピーカ2 7）の制御を実行する（ステップS 8 2 5）。例えば、演出表示装置9において変動パターンに応じた画像を表示させるために、VDP 1 0 9に指令を出力する。また、各種ランプの点灯 / 消灯制御を行わせるために、ランプドライバ基板3 5に対して制御信号（ランプ制御実行データ）を出力する。また、スピーカ2 7からの音声出力を行わせるために、音声出力基板7 0に対して制御信号（音番号データ）を出力する。

40

【0 2 7 2】

そして、変動時間タイマに、変動パターンコマンドで特定される変動時間に相当する値を設定し（ステップS 8 2 6）、演出制御プロセスフラグの値を演出図柄変動中処理（ステップS 8 0 2）に対応した値にする（ステップS 8 2 7）。

【0 2 7 3】

50

図37は、演出図柄の配列を示す説明図である。図37(A)に示すように、演出図柄のうち左図柄は、「1」～「8」まで昇順に配列されている。また、図37(B)に示すように、演出図柄のうち中図柄は、「1」～「8」まで昇順に配列されている。また、図37(C)に示すように、演出図柄のうち右図柄は、「1」～「8」まで降順に配列されている。そして、演出表示装置9には、左図柄が昇順で可変表示され(1→2→3→・・・)、右図柄が降順で可変表示され(8→7→6→・・・)、中図柄が昇順で可変表示される(1→2→3→・・・)。

【0274】

図38は、チャンス目および準チャンス目を示す説明図である。この実施の形態では、左中右の演出図柄の特殊な組み合わせを停止表示し、その後大当たりとしない場合でも大当たりとするかのように思わせるチャンス目予告演出を実行する。このような左中右の演出図柄の特殊な組み合わせ(特殊組み合わせ)を、チャンス目という。なお、大当たりとしない場合に、チャンス目を停止表示し、その後大当たりとするかのように思わせる演出を偽予告演出ともいう。また、チャンス目と最終停止図柄(この実施の形態では中図柄)のみが異なる演出図柄の組み合わせを特殊な組み合わせ(特殊組み合わせ)に準ずる組み合わせ(準特殊組み合わせ)としての準チャンス目という。例えば、停止図柄にチャンス目が決定された場合には、演出表示装置9における「左」、「中」、「右」の図柄表示エリア9L、9C、9Rにおいて、図38(A)に示すチャンス目GC1～GC6のいずれかを構成する演出図柄が停止表示される。また、停止図柄に準チャンス目が決定された場合には、演出表示装置9における「左」、「中」、「右」の図柄表示エリア9L、9C、9Rにおいて、図38(B)に示すチャンス目HC1～HC6のいずれかを構成する演出図柄が停止表示される。なお、「左図柄」は「左」の図柄表示エリア9Lに停止表示される演出図柄であり、「中図柄」は「中」の図柄表示エリア9Cに停止表示される演出図柄であり、「右図柄」は「右」の図柄表示エリア9Rに停止表示される演出図柄である。なお、「中図柄」が最終停止図柄である。

【0275】

図38(A)、(B)に示すように、図38(B)に示す各準チャンス目HC1～HC6は、図38(A)に示す各チャンス目GC1～GC6と左図柄および右図柄が同じ図柄であり、中図柄が、図37(B)に示す配列上、1つ昇順にずれた、チャンス目に対する近接識別情報である。従って、演出表示装置9に各準チャンス目HC1～HC6が表示される場合、右図柄および左図柄が停止表示された段階では、遊技者はチャンス目が停止表示されるのか準チャンス目が停止表示されるのか認識することができない。そして、最終停止図柄としての中図柄が、チャンス目の中図柄から配列上1つ昇順にずれたとき(つまりチャンス目の中図柄が通過したとき)に、準チャンス目が停止表示されたと認識する。よって、遊技者に、最終停止図柄としての中図柄が、チャンス目の中図柄から配列上1つ昇順にずれるまで(つまりチャンス目の中図柄が通過するまで)、チャンス目が停止表示されることへの期待感を維持させることができる。この実施の形態のように、最終停止図柄をチャンス目と準チャンス目との異なる図柄とすることで、遊技者のチャンス目に対する期待感をより長く維持することができる。

【0276】

なお、準チャンス目は、図38(B)に示す例に限られず、最終停止図柄以外にチャンス目と共通の図柄がある組み合わせであればよい。具体的には、例えば、チャンス目「123」に対して「153」も準チャンス目としてもよいし、チャンス目「123456」に対して「123555」(最終停止図柄は右端の図柄)も準チャンス目としてもよい。

【0277】

なお、チャンス目または準チャンス目を停止図柄に決定する場合に、演出制御用CPU101は、例えば、各チャンス目および準チャンス目にそれぞれ判定値が設定されたテーブルと、チャンス目および準チャンス目を決定するための乱数とを用いて、当該乱数の値に合致する判定値のチャンス目または準チャンス目を停止図柄に決定する。

【0278】

図39は、演出表示装置9に表示される背景画像の例を示す説明図である。図39(A)に示す第1の背景画像は、晴れている様子の背景画像である。図39(B)に示す第2の背景画像は、曇っている様子の背景画像である。図39(C)に示す第3の背景画像は、雨が降っている様子の背景画像である。演出制御用CPU101は、例えば、ステップS822Iの処理で、図39(A)~(C)に示す背景画像のいずれかを演出表示装置9に表示させた場合に、表示させた背景画像に応じた値のフラグをセットする。そして、次のステップS822Iの処理で、背景画像を変更する場合には、セットされているフラグと異なる値に応じた背景画像を演出表示装置9に表示させ、表示させた背景画像に応じた値のフラグをセットする。ここで、「セットされているフラグと異なる値」は、1→2→3→1→・・・の順に遷移し、フラグの値「1」には第1の背景画像が対応し、フラグの値「2」には第2の背景画像が対応し、フラグの値「3」には第3の背景画像が対応するとする。なお、各背景画像は、演出図柄の変動開始時の処理としてのステップS822Iで、予告演出として変更される。また、チャンス目予告演出としてのチャンス目の停止表示は、演出図柄の変動停止時である。従って、演出図柄の変動開始時に背景画像が変更されることにより、遊技者の変動開始時に大当り遊技への期待感を煽ることができる。また、演出図柄の変動開始時に背景画像が変更されなくても、演出図柄の変動停止時にチャンス目が停止表示されることがあるので、遊技者の大当り遊技への期待感を維持することができる。

【0279】

図40は、演出図柄変動中処理(ステップS802)を示すフローチャートである。演出図柄変動中処理において、演出制御用CPU101は、プロセスタイマの値を1減算するとともに(ステップS841)、変動時間タイマの値を1減算する(ステップS842)。プロセスタイマがタイムアウトしたら(ステップS843)、プロセスタイマの切替を行う。すなわち、プロセステーブルにおける次に設定されているプロセスタイマ設定値をプロセスタイマに設定する(ステップS844)。また、その次に設定されている表示制御実行データ、ランプ制御実行データおよび音番号データにもとづいて演出装置に対する制御状態を変更する(ステップS845)。

【0280】

次いで、演出制御用CPU101は、時短状態フラグがセットされているか否かを確認する(ステップS845A)。時短状態フラグがセットされていないければ、演出制御用CPU101は、スーパーリーチを予告する予告画面を既に重畳表示していることを示す予告画面表示フラグがセットされているか否かを確認する(ステップS845B)。予告画面表示フラグがセットされていないければ、演出制御用CPU101は、スーパーリーチ予告(キャラクタ予告)フラグがセットされているか否かを確認する(ステップS845C)。スーパーリーチ予告(キャラクタ予告)フラグがセットされていれば、演出制御用CPU101は、変動時間タイマの値が所定値(例えば2秒)未満であるか否かを確認する(ステップS845D)。

【0281】

変動時間タイマの値が所定値未満でなければ、演出制御用CPU101は、変動回数カウンタの値が3以上であるか否かを確認する(ステップS845E)。変動回数カウンタの値が3以上であれば、演出制御用CPU101は、演出図柄の変動表示中である演出表示装置9の表示画面に、スーパーリーチを予告するスーパーリーチ予告画面(キャラクタ予告画面)1を重畳表示する(ステップS845F)。この場合、例えば、演出制御用CPU101は、後述する図41(A)に示すように、演出表示装置9に所定のキャラクタを表示するとともに、キャラクタのセリフとして「スーパーリーチかも」などのスーパーリーチの発生を予告する文字列を表示する。そして、ステップS845Jに移行する。

【0282】

変動回数カウンタの値が3以上でなければ、演出制御用CPU101は、変動回数カウンタの値が2であるか否かを確認する(ステップS845G)。変動回数カウンタの値が2であれば、演出制御用CPU101は、演出図柄の変動表示中である演出表示装置9の

表示画面に、スーパーリーチを予告するスーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）2を重畳表示する（ステップS845H）。この場合、例えば、演出制御用CPU101は、後述する図41（B）に示すように、演出表示装置9に所定のキャラクタを表示するとともに、キャラクタのセリフとして「もうすぐスーパーリーチかも」などの文字列を表示して、スーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）1よりも、よりスーパーリーチに近いことを示唆する予告画面を表示する。そして、ステップS845Jに移行する。

【0283】

変動回数カウンタの値が2でもなければ、変動回数カウンタの値が1である場合である。この場合、演出制御用CPU101は、演出図柄の変動表示中である演出表示装置9の表示画面に、スーパーリーチを予告するスーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）3を重畳表示する（ステップS845I）。この場合、例えば、演出制御用CPU101は、後述する図41（C）に示すように、演出表示装置9に所定のキャラクタを表示するとともに、キャラクタのセリフとして「次回スーパーリーチになりそう」などの文字列を表示して、スーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）2よりも、さらにスーパーリーチに近いことを示唆する予告画面を表示する。そして、ステップS845Jに移行する。

【0284】

そして、ステップS845Jでは、演出制御用CPU101は、ステップS845F、S845H、S845Iでスーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）を表示したことにともづいて、予告画面表示フラグをセットする。なお、ステップS845F、S845H、S845Iで表示されたスーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）は、表示開始後、例えば、プロセスデータが更新されるごとに表示が更新される。

【0285】

なお、この実施の形態では、時短状態フラグがセットされている場合には（ステップS845AのY参照）、ステップS845B～S845Jの処理を実行しないようにして、スーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）を表示しないように制御する。すなわち、時短状態（確変状態を含む）に制御されている場合には、短縮変動の変動表示が行われる場合があるのであるから、このように短縮変動が行われる場合に予告画面を表示してしまうと、極めて短い時間しか予告画面が表示されず演出が不自然である。そこで、不自然な予告画面が表示されてしまうことを防止するため、時短状態に制御されている場合には、スーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）を表示しないように制御する。

【0286】

また、この実施の形態では、スーパーリーチ予告（キャラクタ予告）フラグがセットされた場合であっても（ステップS845CのY参照）、変動時間タイマの値が所定値（例えば2秒）未満である場合には、ステップS845E～S845Jの処理を実行しないようにして、スーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）を表示しないように制御する。具体的には、この実施の形態では、特別図柄および演出図柄の変動表示中に新たな始動入賞を検出し、その始動入賞に対してスーパーリーチとなることを入賞時判定した場合にも、残りの変動時間を利用してスーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）を表示することが可能であるが、実行中の変動表示の残りの変動時間が極めて短い場合には、極めて短い時間しか予告画面が表示されず演出が不自然である。そこで、不自然な予告画面が表示されてしまうことを防止するため、変動時間タイマの値が所定値未満である場合（残りの変動時間が短い場合）には、スーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）を表示しないように制御する。

【0287】

なお、この実施の形態では、スーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）は、チャンス目予告演出を実行する場合にも演出表示装置9に表示されるように構成されている。しかし、チャンス目予告演出を実行する場合にはステップS845B～S845Jの処理を実行しないようにして、スーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）を表示しないように構成されていてもよい。また、チャンス目予告演出を実行しない場合にも、ス

ーパ－リーチの予告画面（キャラクタ予告画面）を表示しない場合（つまり、ステップ S 8 4 5 E ~ S 8 4 5 J の処理を実行しない場合）があるように構成されていてもよい。

【 0 2 8 8 】

次いで、演出制御用 CPU 1 0 1 は、変動時間タイマがタイムアウトしていれば（ステップ S 8 4 6）、演出制御プロセスフラグの値を演出図柄変動停止処理（ステップ S 8 0 3）に応じた値に更新する（ステップ S 8 4 8）。変動時間タイマがタイムアウトしていなくても、図柄確定指定コマンドを受信したことを示す確定コマンド受信フラグがセットされていたら（ステップ S 8 4 7）、ステップ S 8 4 8 に移行する。変動時間タイマがタイムアウトしていなくても図柄確定指定コマンドを受信したら変動を停止させる制御に移行するので、例えば、基板間でのノイズ等に起因して長い変動時間を示す変動パターンコマンドを受信したような場合でも、正規の変動時間経過時（特別図柄の変動終了時）に、演出図柄の変動を終了させることができる。

10

【 0 2 8 9 】

なお、この実施の形態では、スーパーリーチの予告（キャラクタ予告）として、後述する図 4 1 に示すように、演出表示装置 9 においてスーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）を重畳表示させる場合を示したが、スーパーリーチの予告（キャラクタ予告）の演出態様は、この実施の形態で示したものにかぎられない。例えば、保留記憶表示部 1 8 c に表示する保留記憶の表示（スーパーリーチとなる変動に対応する保留記憶の表示）の表示態様を変えることによって、スーパーリーチとなることを予告してもよい。この場合、例えば、保留記憶表示部 1 8 c に表示する保留記憶の表示の表示色を変えたり（例えば、青色から赤色に変えたり）、表示の形状を変えたり（例えば、丸形表示から星形表示に変えたり）することによって予告してもよい。また、例えば、ランプ 2 8 a, 2 8 b, 2 8 c を点灯させたり、スピーカ 2 7 から所定の音声や警告音を音声出力したり、演出表示装置 9 に所定の予告画面を表示したりすることのいずれかによって予告してもよく、これらのうちのいずれか複数の組合せまたは全てによって予告してもよい。なお、この場合、特に、演出表示装置 9 への予告画面の表示以外の方法により予告を行う方が、演出時間に影響されることなく予告を行うことができ、予告方法として望ましいといえる。

20

【 0 2 9 0 】

図 4 1 は、スーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）を示す説明図である。図 4 1（A）は、変動回数カウンタの値が 3 以上である場合に演出表示装置 9 の表示画面に表示されるスーパーリーチを予告するスーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）1 を示す説明図である。図 4 1（A）に示すように、変動回数カウンタの値が 3 以上である場合に演出表示装置 9 の表示画面には、所定のキャラクタを表示するとともに、キャラクタのセリフとして「スーパーリーチかも」などのスーパーリーチの発生を予告する文字列を表示される。

30

【 0 2 9 1 】

図 4 1（B）は、変動回数カウンタの値が 2 である場合に演出表示装置 9 の表示画面に表示されるスーパーリーチを予告するスーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）2 を示す説明図である。図 4 1（B）に示すように、変動回数カウンタの値が 2 である場合に演出表示装置 9 の表示画面には、所定のキャラクタを表示するとともに、キャラクタのセリフとして「もうすぐスーパーリーチかも」などの文字列を表示して、スーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）1 よりも、よりスーパーリーチに近いことを示唆される。

40

【 0 2 9 2 】

図 4 1（C）は、変動回数カウンタの値が 1 である場合に演出表示装置 9 の表示画面に表示されるスーパーリーチを予告するスーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）3 を示す説明図である。図 4 1（C）に示すように、変動回数カウンタの値が 1 である場合に演出表示装置 9 の表示画面には、所定のキャラクタを表示するとともに、キャラクタのセリフとして「次回スーパーリーチになりそう」などの文字列を表示して、スーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）2 よりも、さらにスーパーリーチに近いことを示唆さ

50

れる。

【0293】

図42は、演出図柄変動停止処理（ステップS803）を示すフローチャートである。演出図柄変動停止処理において、演出制御用CPU101は、確定コマンド受信フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS851）、確定コマンド受信フラグがセットされている場合には、確定コマンド受信フラグをリセットし（ステップS852）、ステップS822H、S822P、S822Qで決定された停止図柄を停止表示する制御を行う（ステップS853）。また、演出制御用CPU101は、予告画面表示フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS854A）。予告画面表示フラグがセットされていれば、演出制御用CPU101は、表示中のスーパーリーチ予告画面（図41に示すスーパーリーチ予告画面1（キャラクタ予告画面1）～スーパーリーチ予告画面3（キャラクタ予告画面3）のいずれか）を消去し（ステップS854B）、予告画面表示フラグをリセットする（ステップS854C）。そして、演出制御用CPU101は、大当たりまたは小当たりとすることに決定されているか否かを確認する（ステップS855）。大当たりまたは小当たりとすることに決定されているか否かは、例えば、表示結果指定コマンド格納領域に格納されている表示結果指定コマンドによって確認される。なお、この実施の形態では、決定されている停止図柄によって、大当たりまたは小当たりとすることに決定されているか否かを確認することもできる。

10

【0294】

なお、この実施の形態では、スーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）を表示する場合には、ほぼ演出図柄の変動を開始すると同時にスーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）1～3のいずれかの重畳表示が開始され（変動表示中に始動入賞がありスーパーリーチとなると判定された場合には、そのタイミングから）、演出図柄の変動表示を終了するときステップS854Bでスーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）1～3が消去され予告画面の表示を終了する。なお、演出図柄の変動表示中のうちの所定期間中のみスーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）を表示するようにしてもよい。例えば、演出図柄の変動表示開始後、所定の予告開始時間となったことにもとづいて、スーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）1～3のいずれかを所定期間（例えば1秒）重畳表示するようにしてもよい。

20

【0295】

また、この実施の形態では、あらかじめ始動入賞時にスーパーリーチと判定されたことにもとづいて、図41に示すような予告画面を表示する場合を示したが、例えば、スーパーリーチとならない場合であっても低い確率で図36と同様の態様の予告画面を表示するようにしてもよい。

30

【0296】

大当たりとすることに決定されている場合には、演出制御プロセスフラグの値を大当たり表示処理（ステップS804）に応じた値に更新する（ステップS856）。

【0297】

大当たりとしないことに決定されている場合には、演出制御用CPU101は、演出制御プロセスフラグの値を変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップS800）に応じた値に更新する（ステップS857）。

40

【0298】

なお、この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ100は、図柄確定指定コマンドを受信したことを条件に、演出図柄（飾り図柄）の変動（可変表示）を終了させる（ステップS851、S853参照）。しかし、受信した変動パターンコマンドにもとづく変動時間タイマがタイムアウトしたら、図柄確定指定コマンドを受信しなくても、演出図柄（飾り図柄）の変動を終了させるように制御してもよい。その場合、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、可変表示の終了を指定する図柄確定指定コマンドを送信しないようにしてもよい。

【0299】

50

次に、スーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）の表示タイミングについて説明する。図43は、スーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）の表示タイミングを示す説明図である。図43に示す例では、特別図柄および演出図柄の変動表示中に新たな始動入賞が発生した場合を示している。

【0300】

遊技制御用マイクロコンピュータ560は、第1始動入賞口13または第2始動入賞口14への新たな始動入賞を検出すると（ステップS212A、S212B参照）、保留記憶数を1加算し（ステップS213A、S213B参照）、保留記憶数指定コマンドを送信する（ステップS216A、S216B参照）。図43に示す例では、1加算後の保留記憶数が4となり、保留記憶数4を指定する保留記憶数指定コマンドを送信する場合が示されている。次いで、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、抽出した各乱数値にもとづいて、その始動入賞に対応する変動表示においてスーパーリーチとなるか否か入賞時判定を行う（ステップS219A～S219G、S219J～S219L参照）。そして、スーパーリーチになると判定すると、入賞時判定結果1または2指定コマンドを送信する（ステップS219H、S219M参照）。

【0301】

演出制御用マイクロコンピュータ100は、入賞時判定結果1または2指定コマンドを受信すると、現在の保留記憶数（図42に示す例では4）を変動回数カウンタにセットする（ステップS635参照）。また、図43に示す例では、演出図柄の変動中であるので、変動回数カウンタの値が3以上であることにもとづいて、残りの変動時間を利用してスーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）1（図41（A）参照）を演出表示装置9に重畳表示する（ステップS845E、S845F参照）。なお、図43に示す例では、変動時間の残り時間が所定時間（例えば2秒）以上である場合が示されているが、変動時間の残り時間が所定時間未満である場合には、スーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）1を表示しない（ステップS845D参照）。

【0302】

次いで、次の変動表示を開始するときに、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動回数カウンタの値を1減算する（ステップS820A参照）。そして、変動回数カウンタの値が3以上であることにもとづいて、スーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）1（図41（A）参照）を演出表示装置9に重畳表示する（ステップS845E、S845F参照）。

【0303】

さらに次の変動表示を開始するときに、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動回数カウンタの値を1減算する（ステップS820A参照）。そして、変動回数カウンタの値が2であることにもとづいて、スーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）2（図41（B）参照）を演出表示装置9に重畳表示する（ステップS845G、S845H参照）。

【0304】

さらに次の変動表示を開始するときに、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動回数カウンタの値を1減算する（ステップS820A参照）。そして、変動回数カウンタの値が1であることにもとづいて、スーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）3（図41（C）参照）を演出表示装置9に重畳表示する（ステップS845I参照）。

【0305】

そして、次の変動表示（予告されたスーパーリーチが実行される変動表示）を開始するときに、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動回数カウンタの値を1減算し（ステップS820A参照）、変動回数カウンタの値が0になったことにもとづいて、スーパーリーチ予告（キャラクタ予告）フラグをリセットする（ステップS820B、S802C）。そして、演出表示装置9においてスーパーリーチを伴う演出図柄の変動表示が実行される（ステップS824、S845参照）。

【0306】

10

20

30

40

50

なお、この実施の形態では、図43に示すように、スーパーリーチが出現する変動表示の1つ前の変動表示までにおいて、その変動表示中にスーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）の表示を行う場合を示しているが、スーパーリーチが出現する変動表示中においてもスーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）を表示するようにしてもよい。なお、この実施の形態では、スーパーリーチが出現する変動表示においては予告画面を表示しないようにしているので、1つの変動表示中に予告画面の表示とスーパーリーチの演出との両方が実行されて、演出が慌ただしく不自然になることを防止している（特に、変動表示の終了間際に演出が慌ただしくなることを確実に防止している）。なお、スーパーリーチが出現する変動表示中においてもスーパーリーチの予告画面（キャラクタ予告画面）を表示する場合には、その変動表示中のスーパーリーチの演出が実行される前に予告画面を表示し、予告画面の表示が終了した後にスーパーリーチの演出を実行するようにすればよい。

10

【0307】

また、この実施の形態では、図43に示すように、変動表示中に始動入賞が発生してスーパーリーチとなると判定した場合、変動時間の残り時間が所定時間以上であれば、その変動表示中の変動においても直ちに予告画面を表示する場合を示しているが、始動入賞時に変動表示中であつた場合に、その変動表示中には予告画面を表示しないようにしてもよい。そのように構成すれば、演出制御用マイクロコンピュータ100側の処理負担の増加を防止するとともに、処理が煩雑となって処理の実行もれなどが発生してしまう事態を防止することができる。また、変動表示の途中からスーパーリーチの演出が実行されて、演出が慌ただしく煩雑になることを防止することができる。

20

【0308】

以上に説明したように、この実施の形態によれば、変動開始前の始動入賞時のタイミングで、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、演出図柄の変動パターンがスーパーリーチを伴う変動パターンとなるか否かをあらかじめ判定する。そして、演出制御用マイクロコンピュータ100は、スーパーリーチとなると入賞時判定されたことにもとづいて、そのスーパーリーチとなると判定された演出図柄の可変表示が開始される以前に、スーパーリーチとなることを報知する演出を実行可能である。そのため、その始動入賞に対応した可変表示よりも以前に、スーパーリーチとなることを報知することができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

30

【0309】

また、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、はずれ用変動パターン種別判定テーブルを用いて変動パターン種別を決定して変動パターンを決定する。この場合、はずれ用変動パターン種別判定テーブルは、スーパーリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別に対しては、保留記憶数にかかわらず、共通の判定値（230～251）が割り当てられている。また、はずれ用変動パターン種別判定テーブルは、スーパーリーチ以外の変動パターン（ノーマルリーチや非リーチ）を含む変動パターン種別に対しては、保留記憶数に応じて異なる判定値が割り当てられている。そのため、保留記憶数が多くなるに従って可変表示時間の短い変動パターンを含む変動パターン種別に対する判定値の割合が多くなるように割り当てを行うことによって、可変表示の作動率が低下してしまう事態を極力防止することができる。

40

【0310】

図44は、はずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態を示す説明図である。この実施の形態では、保留記憶数が3以上である場合には、図10（B）に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Bが用いられ、保留記憶数が0～2（3以下）である場合には、図10（A）に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Aが用いられる（ステップS96～S98参照）。図44に示すように、保留記憶数が3以上である場合には、保留記憶数が0～2である場合に比較して、リーチ（ノーマルリーチ、スーパーリーチ）となる割合が少ない。また、保留記憶数が3以上である場合には、図10（B）に示すように、非リーチCA2-2の変動パターン種別が選択され

50

て短縮変動の変動パターンである非リーチPA1-2が選択されうるので、保留記憶数が多くなるに従って平均的な変動時間を短くすることによって、可変表示の作動率が低下してしまう事態を極力防止することができる。

【0311】

また、この実施の形態では、図44に示すように、保留記憶数にかかわらず、スーパーリーチ（スーパーリーチA、スーパーリーチB）を伴う変動パターン種別に対して、共通の判定値（230～251）が割り当てられている。そのため、始動入賞時において、抽出した変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）の値さえ確認すれば、スーパーリーチとなるか否かをあらかじめ容易に判定することができる。従って、その始動入賞に対応した可変表示よりも以前に、スーパーリーチとなることを報知することができ、遊技に対する興味を向上させることができる。

10

【0312】

なお、この実施の形態では、保留記憶数が0～2であるか3以上であるかの2種類について、はずれ用変動パターン種別判定テーブルの判定値の振り分けを異ならせる場合を示したが、はずれ用変動パターン種別判定テーブルの判定値の振り分けの異ならせ方は、この実施の形態で示したものにかぎられない。例えば、保留記憶数に応じてさらに細かく段階的に振り分けを異ならせてもよい。この場合、例えば、保留記憶数が0, 1用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルと、保留記憶数2個用、保留記憶数3個用および保留記憶数4個用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルとをあらかじめ用意しておき、リーチを伴う変動パターン種別や短縮変動の変動パターン種別の振り分けをさらに段階的に異ならせるようにしてもよい。また、このような例にかぎらず、あらかじめ用意しておくのはずれ用変動パターン種別判定テーブルの組合せは、様々なものが考えられる。例えば、保留記憶数の値ごとに別々ののはずれ変動パターン種別判定テーブルをそれぞれ備えてもよい（すなわち、保留記憶数0個用、保留記憶数1個用、保留記憶数2個用、保留記憶数3個用、保留記憶数4個用・・・のはずれ変動パターン種別判定テーブルをそれぞれ別々に用いるようにしてもよい）。また、例えば、保留記憶数0～2用、保留記憶数3用、保留記憶数4用・・・のはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。

20

【0313】

（変形例1）

図45は、はずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態の変形例1を示す説明図である。図44に示す例では、合算保留記憶数にかかわらず、スーパーリーチ（スーパーリーチA、スーパーリーチB）を伴う変動パターン種別に対して、全く共通の判定値（230～251）が割り当てられていた。変形例1では、図45に示すように、一方のはずれ用変動パターン種別判定テーブル（保留記憶数0～2の場合のはずれ用変動パターン種別判定テーブル）におけるスーパーリーチに対する判定値が、他方のはずれ用変動パターン種別判定テーブル（保留記憶数3以上の場合のはずれ用変動パターン種別判定テーブル）におけるスーパーリーチに対する判定値を包含している。

30

【0314】

図45に示す例では、保留記憶数3以上の場合には、スーパーリーチを伴う変動パターン種別に対して判定値230～251が割り当てられているのに対して、保留記憶数0～2の場合には、スーパーリーチを伴う変動パターン種別に対して判定値200～251が割り当てられている。しかし、このような場合であっても、始動入賞時において、抽出した変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）の値が少なくとも230～251の範囲であれば、スーパーリーチとなることをあらかじめ容易に判定することができる。従って、その始動入賞に対応した可変表示よりも以前に、スーパーリーチとなることを報知することができ、遊技に対する興味を向上させることができる。

40

【0315】

具体的には、図45に示すように、保留記憶数が3以上である場合における非リーチの変動パターン種別に割り当てられている判定値0～199のうち、判定値100～199の範囲については、保留記憶数が0～2である場合における非リーチの変動パターン種別

50

に割り当てられている判定値の範囲 0 ~ 99 には含まれていない。これに対して、保留記憶数が 3 以上である場合におけるスーパーリーチを伴う変動パターン種別に割り当てられている判定値の範囲 230 ~ 251 は、保留記憶数が 0 ~ 2 である場合におけるスーパーリーチを伴う変動パターン種別に割り当てられている判定値の範囲 200 ~ 251 にすべて含まれている。そのため、始動入賞時において、抽出した変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が少なくとも 230 ~ 251 の範囲であれば、スーパーリーチとなることをあらかじめ容易に判定することができる。

【0316】

なお、図 45 に示す例では、保留記憶数 0 ~ 2 の場合には、ノーマルリーチを伴う変動パターン種別に対して判定値 100 ~ 199 が割り当てられ、保留記憶数 3 以上の場合には、ノーマルリーチを伴う変動パターン種別に対して判定値 200 ~ 229 が割り当てられ、ノーマルリーチを伴う変動パターンに対して判定値が割り当てられている範囲が重複していないが、保留記憶数 0 ~ 2 の場合と 3 以上の場合とで、ノーマルリーチを伴う変動パターン種別に対して割り当てられている判定値の範囲が重複するようにしてもよい。例えば、保留記憶数 0 ~ 2 の場合には、ノーマルリーチを伴う変動パターン種別に対して判定値 100 ~ 199 が割り当てられ、保留記憶数 3 以上の場合には、ノーマルリーチを伴う変動パターン種別に対して判定値 180 ~ 229 が割り当てられるように構成してもよい。なお、このように構成した場合であっても、保留記憶数が 3 以上である場合におけるノーマルリーチを伴う変動パターン種別に割り当てられている判定値 180 ~ 229 のうちの一部の判定値 180 ~ 199 の範囲のみが、保留記憶数が 0 ~ 2 である場合におけるノーマルリーチを伴う変動パターン種別に割り当てられている判定値の範囲 100 ~ 199 に含まれていることになる。

【0317】

また、この実施の形態では、スーパーリーチを伴う変動パターンを一括りの変動パターン種別としてはずれ用変動パターン種別判定テーブルを構成する場合を示したが、スーパーリーチの種類ごと（例えば、スーパーリーチ A とスーパーリーチ B）に変動パターン種別を分けてもよい。

【0318】

図 46 は、時短状態で入賞時判定結果指定コマンドを送信しないように構成する場合の始動口スイッチ通過処理を示すフローチャートである。なお、ステップ S211 ~ S216A, S217A, S218, S212B ~ S216B, S227B の処理は、図 15 に示したそれらの処理と同様である。

【0319】

ステップ S216C の処理では、CPU56 は、時短フラグがセットされているか否かを確認する。セットされていないならば（ステップ S216C の N）、ステップ S217A の処理に移行し、入賞時判定処理を実行する。時短フラグがセットされていれば（ステップ S216C の Y）、入賞時判定処理を実行することなく、ステップ S218 の処理に移行する。すなわち、時短状態である場合には、入賞時判定処理を行わず、入賞時判定結果指定コマンドを送信する処理も行わないように制御する。

【0320】

ステップ S216D の処理では、CPU56 は、時短フラグがセットされているか否かを確認する。セットされていないならば（ステップ S216D の N）、ステップ S217B の処理に移行し、入賞時判定処理を実行する。時短フラグがセットされていれば（ステップ S216D の Y）、入賞時判定処理を実行することなく、処理を終了する。すなわち、時短状態である場合には、入賞時判定処理を行わず、入賞時判定結果指定コマンドを送信する処理も行わないように制御する。

【0321】

図 47 は、時短状態で入賞時判定結果指定コマンドを送信しないように構成する場合の演出図柄変動中処理（ステップ S802）を示すフローチャートである。図 47 に示す例では、演出制御用 CPU101 は、図 40 で示したステップ S845A の処理を行わない

。すなわち、演出制御用CPU101は、時短状態であるか否かを判定することなく、ステップS845B～S845Jの処理を実行して、スーパーリーチ予告画面（キャラクタ予告画面）を演出表示装置9に重畳表示する処理を実行する。なお、ステップS841～S845、S845B～S845J、S846～S848の処理は、図40に示したそれらの処理と同様である。

【0322】

図46および図47に示す構成によれば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、遊技制御用マイクロコンピュータ560によって入賞時判定結果指定コマンドが送信されたことにもとづいて、スーパーリーチとなることを報知する予告画面を表示可能である。この場合、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、スーパーリーチとなる場合であっても、時短状態に移行されているときには、入賞時判定結果指定コマンドを送信しないように制御する。そのため、演出制御用マイクロコンピュータ100が誤って時短状態ではないと認識してしまった場合であっても、スーパーリーチとなることを報知する予告画面が表示されないようにすることができ、不自然な演出が実行されてしまう事態を防止することができる。

【0323】

（変形例2）

以上に述べた実施の形態では、変動パターン種別判定テーブルを用いて変動パターン種別を決定してから、変動パターン判定テーブルを用いて当該変動パターン種別に応じた変動パターンに決定するように構成されていた。それに対して、本変形例では、変動パターン種別判定テーブルを用いることなく（変動パターン種別を決定することなく）、変動パターン種別乱数（ランダム2）を変動パターンを決定するための乱数として用いて、変動パターン判定テーブルにもとづいて変動パターンを決定する。

【0324】

図48（A）～（C）は、大当り用変動パターン判定テーブル232A～232Cを示す説明図である。大当り用変動パターン判定テーブル232A～232Cは、可変表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターンを、ランダム2にもとづいて複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【0325】

各大当り用変動パターン判定テーブル232A～232Cには、ランダム2の値と比較される数値（判定値）であって、ノーマルPA2-3、ノーマルPA2-4、ノーマルPB2-3、ノーマルPB2-4、スーパーPA3-3、スーパーPA3-4、スーパーPB3-3、スーパーPB3-4、特殊PG1-1～特殊PG1-3、特殊PG2-1、特殊PG2-2の変動パターンのいずれかに対応する判定値が設定されている。

【0326】

なお、図48（A）、（B）に示すように、図9（A）、（B）に示す変動パターン種別を用いる場合と同様に、変形例2では、通常大当りまたは確変大当りである場合には、ランダム2の値が150～251であれば、少なくともスーパーリーチ（スーパーリーチA、スーパーリーチB）を伴う変動表示が実行されることがわかる。

【0327】

また、大当り種別が「突然確変大当り」である場合に用いられる大当り用変動パターン判定テーブル232Cでは、例えば、特殊PG1-1、特殊PG1-2といった大当り種別が「突然確変大当り」以外である場合には判定値が割り当てられない変動パターン種別に対して、判定値が割り当てられている。よって、変形例2においても、可変表示結果が「大当り」となり大当り種別が「突然確変大当り」となることに応じて2ラウンド大当り状態に制御する場合には、15ラウンド大当り状態に制御する場合とは異なる変動パターンに決定することができる。

【0328】

また、図48（D）は、小当り用変動パターン判定テーブル232Dを示す説明図である。小当り用変動パターン判定テーブル232Dは、可変表示結果を小当り図柄にする旨

10

20

30

40

50

の判定がなされたときに、変動パターンを、ランダム 2 にもとづいて複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【0329】

図 49 (A) , (B) は、はずれ用変動パターン判定テーブル 235A , 235B を示す説明図である。このうち、図 49 (A) は、確率状態が低確率状態であるとともに保留記憶数が 3 未満である場合に用いられるはずれ用変動パターン判定テーブル 235A を示している。また、図 49 (B) は、確率状態が確変状態または時短状態であるか、または保留記憶数が 3 以上である場合に用いられるはずれ用変動パターン判定テーブル 235B を示している。はずれ用変動パターン判定テーブル 235A , 235B は、可変表示結果をはずれ図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターンを、ランダム 2 にもとづいて複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

10

【0330】

なお、変形例 2 では、保留記憶数が 3 未満である場合に用いるはずれ変動パターン判定テーブル 235A と、保留記憶数が 3 以上である場合に用いるはずれ変動パターン判定テーブル 235B との 2 種類のテーブルのみを用いる場合を示しているが、はずれ変動パターン判定テーブルの分け方は、この実施の形態で示したものにきぎられない。例えば、保留記憶数の値ごとに別々のはずれ変動パターン判定テーブルをそれぞれ備えてもよい（すなわち、保留記憶数 0 個用、保留記憶数 1 個用、保留記憶数 2 個用、保留記憶数 3 個用、保留記憶数 4 個用のはずれ変動パターン判定テーブルをそれぞれ別々に用いるようにしてもよい）。また、例えば、保留記憶数の他の複数の値の組合せに対応したはずれ変動パターン判定テーブルを用いるようにしてもよい。例えば、保留記憶数 0 ~ 2 用、保留記憶数 3 用、保留記憶数 4 用のはずれ変動パターン判定テーブルを用いるようにしてもよい。

20

【0331】

各はずれ用変動パターン判定テーブル 235A , 235B には、ランダム 2 の値と比較される数値（判定値）であって、非リーチ PA1 - 1 ~ 非リーチ PA1 - 4、ノーマル PA2 - 1、ノーマル PA2 - 2、ノーマル PB2 - 1、ノーマル PB2 - 2、スーパー PA3 - 1、スーパー PA3 - 2、スーパー PB3 - 1、スーパー PB3 - 2 の変動パターンのいずれかに対応する判定値が設定されている。

【0332】

なお、図 49 (A) , (B) に示すように、図 10 (A) , (B) に示す変動パターン種別を用いる場合と同様に、確率状態や保留記憶数にかかわらず、スーパーリーチの変動パターンに対して一定の値が設定されている。具体的には、変形例 2 では、はずれである場合には、ランダム 2 の値が 230 ~ 251 であれば、確率状態や保留記憶数にかかわらず、少なくともスーパーリーチ（スーパーリーチ A、スーパーリーチ B）を伴う変動表示が実行されることがわかる。つまり、230 ~ 251 の判定値は、確率状態や保留記憶数にかかわらず、スーパーリーチの変動パターンに対して設定された共通の判定値である。

30

【0333】

なお、保留記憶数 3 以上の場合には、スーパーリーチを伴う変動パターンに対して判定値 230 ~ 251 が割り当てられているのに対して、保留記憶数 0 ~ 2 の場合には、スーパーリーチを伴う変動パターンに対して判定値 200 ~ 251 が割り当てられるように構成されていてもよい。そのような場合であっても、始動入賞時において、抽出したランダム 2 の値が少なくとも 230 ~ 251 の範囲であれば、スーパーリーチとなることをあらかじめ容易に判定することができる。従って、その始動入賞に対応した可変表示よりも前に、スーパーリーチとなることを報知することができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

40

【0334】

従って、変形例 2 における入賞時判定処理は、図 10 (A) , (B) に示す変動パターン種別を用いる場合と同様に、図 16 に示す処理と同様の処理を行うことにより、入賞時に、スーパーリーチ（スーパーリーチ A、スーパーリーチ B）を伴う変動表示が実行されるか否かがわかる。

50

【 0 3 3 5 】

図 5 0 は、変形例 2 の変動パターン設定処理を示すフローチャートである。図 5 0 に示す変形例 2 の変動パターン設定処理は、図 1 8 に示す変動パターン設定処理におけるステップ S 9 2 , S 9 4 の処理に代えてステップ S 9 2 A , S 9 4 A の処理を含み、ステップ S 9 7 , S 9 8 の処理に代えてステップ S 9 7 A , S 9 8 A の処理を含み、ステップ S 1 0 2 ~ S 1 0 5 に代えてステップ S 1 0 2 A の処理を含む。

【 0 3 3 6 】

図 5 0 に示す変形例 2 の変動パターン設定処理のステップ S 9 2 A の処理で、CPU 5 6 は、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、大当り用変動パターン判定テーブル 2 3 2 A ~ 2 3 2 C (図 4 8 (A) ~ (C) 参照) のいずれかを選択する (ステップ S 9 2 A) 。そして、ステップ S 1 0 2 A の処理に移行する。

10

【 0 3 3 7 】

また、図 5 0 に示す変形例 2 の変動パターン設定処理のステップ S 9 4 A の処理で、CPU 5 6 は、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、小当り用変動パターン判定テーブル 2 3 2 D (図 4 8 (D) 参照) を選択する (ステップ S 9 4 A) 。そして、ステップ S 1 0 2 A の処理に移行する。

【 0 3 3 8 】

また、図 5 0 に示す変形例 2 の変動パターン設定処理のステップ S 9 7 A の処理で、CPU 5 6 は、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、はずれ用変動パターン判定テーブル 2 3 5 A (図 4 9 (A) 参照) を選択する (ステップ S 9 7 A) 。そして、ステップ S 1 0 2 A の処理に移行する。

20

【 0 3 3 9 】

また、図 5 0 に示す変形例 2 の変動パターン設定処理のステップ S 9 8 A の処理で、CPU 5 6 は、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、はずれ用変動パターン判定テーブル 2 3 5 B (図 4 9 (B) 参照) を選択する (ステップ S 9 7 B) 。そして、ステップ S 1 0 2 A の処理に移行する。

【 0 3 4 0 】

また、図 5 0 に示す変形例 2 の変動パターン設定処理のステップ S 9 8 A の処理で、CPU 5 6 は、乱数バッファ領域 (保留記憶バッファ) からランダム 2 を読み出し、ステップ S 9 2 A 、 S 9 4 A 、 S 9 7 A または S 9 8 A の処理で選択したテーブルを参照することによって、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定する (ステップ S 1 0 2 A) 。

30

【 0 3 4 1 】

変形例 2 では、図 4 8 および図 4 9 に示すように、現在の確率状態にかかわらず、共通の大当り用変動パターン判定テーブルやはずれ用変動パターン判定テーブルを用いる場合を示したが、現在の確率状態が確変状態であるか低確率状態であるかや、時短状態であるかに応じて、それぞれ別々に用意された大当り用変動パターン判定テーブルやはずれ用変動パターン判定テーブルを用いるようにしてもよい。また、この実施の形態では、保留記憶数が 3 以上である場合に、図 1 0 (B) に示す短縮用のはずれ用変動パターン判定テーブルを選択して短縮変動の変動パターンが決定される場合があるように構成する場合を示しているが、現在の確率状態に応じて短縮変動の変動パターンが選択されうる場合の保留記憶数の閾値を異ならせてもよい。例えば、確率状態が低確率状態である場合には、保留記憶数が 3 である場合に、短縮用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを選択して短縮変動の変動パターンが決定される場合があるようにし、確率状態が確変状態である場合や、時短状態である場合には、保留記憶数がより少ない 1 や 2 の場合でも、短縮用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを選択して短縮変動の変動パターンが決定される場合があるようにしてもよい。

40

【 0 3 4 2 】

なお、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、リーチ態様を伴う変動パターンとす

50

るか否かを決定するためのリーチ決定用乱数を用いて、変動パターンを決定するように構成されていてもよい。具体的には、リーチ態様を伴う変動パターンを実行するための変動パターン種別判定テーブルと、リーチ態様を伴わない変動パターンを実行するための変動パターン種別判定テーブルとを用意しておき、リーチ決定用乱数を用いて、リーチ態様を伴う変動パターンとすると決定した場合にはリーチ態様を伴う変動パターンを実行するための変動パターン種別判定テーブルを参照して変動パターン種別を決定し、リーチ態様を伴わない変動パターンとすると決定した場合にはリーチ態様を伴わない変動パターンを実行するための変動パターン種別判定テーブルを参照して変動パターン種別を決定する。また、変形例2で前述したように、変動パターン種別判定テーブルを用いることなく（変動パターン種別を決定することなく）、変動パターン判定テーブルにもとづいて変動パターンを決定するように構成されている場合には、リーチ態様を伴う変動パターンを実行するための変動パターン判定テーブルと、リーチ態様を伴わない変動パターンを実行するための変動パターン判定テーブルとを用意しておき、リーチ決定用乱数を用いて、リーチ態様を伴う変動パターンとすると決定した場合にはリーチ態様を伴う変動パターンを実行するための変動パターン判定テーブルを参照して変動パターンを決定し、リーチ態様を伴わない変動パターンとすると決定した場合にはリーチ態様を伴わない変動パターンを実行するための変動パターン判定テーブルを参照して変動パターンを決定する。リーチ決定用乱数を用いて、変動パターンを決定するように構成されている場合には、リーチ態様を伴うか否かに応じて多様な変動パターンに決定することができる。

【0343】

なお、本発明による遊技機は、以下に示すようにも構成されうる。

【0344】

本発明による遊技機は、所定の始動領域（例えば、第1始動入賞口13や第2始動入賞口14）を遊技媒体（例えば、遊技球）が通過した後に、各々を識別可能に所定の順序で配列された（例えば、図37に示す順序で配列された）複数種類の識別情報（例えば、演出図柄（左図柄、中図柄、右図柄））を可変表示する可変表示部（例えば、演出表示装置9における各図柄表示エリア9L, 9C, 9R）を複数備え、複数の可変表示部において停止表示された識別情報の組み合わせがあらかじめ定められた特定組み合わせ（例えば、大当り図柄となる組み合わせ）となったときに、遊技者にとって有利な特定遊技状態（例えば、大当り遊技状態）に制御する遊技機であって、所定の始動領域を遊技媒体が通過したが未だ開始されていない可変表示について、特定遊技状態に制御するか否かを特定するための情報（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560がステップS214A, S214Bの処理で抽出した大当り判定用乱数（ランダムR）や大当り種別決定用乱数（ランダム1）、変動パターン種別判定用乱数（ランダム2））を保留記憶情報として記憶する保留記憶手段（例えば、RAM55に形成された保存領域（保留記憶バッファ））と、保留記憶手段に特定遊技状態に制御することを特定するための保留記憶情報が記憶されていることにもとづいて、当該保留記憶情報にもとづく可変表示より前に停止表示される1回または複数回の可変表示において停止表示する識別情報の組み合わせとして特定組み合わせとは異なる特殊組み合わせ（例えば、図38（A）に示すチャンス目）を可変表示部に停止表示させる予告演出（例えば、図16に示す入賞時判定処理で大当りと判定されたことにもとづいて送信された入賞時判定結果1指定コマンドまたは入賞時判定結果5指定コマンドに応じて、演出制御用マイクロコンピュータ100が、当該入賞時判定結果1指定コマンドまたは入賞時判定結果5指定コマンドに対応する可変表示の前に、図31に示す演出パターンのいずれかを実行し、演出表示装置9に図38（A）に示すチャンス目を停止表示させる演出）を実行する演出実行手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560が、大当り判定用乱数（ランダムR）に応じたステップS219Bの処理結果、大当り種別決定用乱数（ランダム1）に応じたステップS219Eの処理結果、および変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）に応じたステップS219Gの処理結果に対応してステップS219Hの処理で送信した入賞時判定結果1指定コマンドまたはステップS219Iの処理で送信した入賞時判定結果5指定コマンドにもとづいて、演出制御用マ

イクロコンピュータ１００におけるステップＳ６７１～Ｓ６７６，Ｓ９０２，Ｓ９０３，
 Ｓ８２２Ｈ，Ｓ８５３の処理を実行する部分（なお、ステップＳ９０３の処理では、図３
 １に示すテーブルを参照してチャンス目を演出表示装置９に停止表示する演出パターンに
 決定する。）とを備え、演出実行手段は、保留記憶手段に特定遊技状態に制御しないこ
 とを特定するための保留記憶情報が記憶されている場合であっても、所定条件が成立した
 ときは、当該保留記憶情報にもとづく可変表示より前に停止表示される１回または複数回
 の可変表示において停止表示する識別情報の組み合わせとして特殊組み合わせを可変表示
 部に停止表示させる偽予告演出（例えば、図１６に示す入賞時判定処理ではずれと判定さ
 れたことにもとづいて送信された入賞時判定結果２～４指定コマンドに応じて、演出制御
 用マイクロコンピュータ１００が、当該入賞時判定結果２～４指定コマンドに対応する可
 変表示の前に、図３１に示す演出パターンのいずれかを実行して、演出表示装置９に図３
 ８（Ａ）に示すチャンス目を停止表示させる演出）を実行可能であり（例えば、遊技制御
 用マイクロコンピュータ５６０が、大当たり判定用乱数（ランダムＲ）に応じたステップＳ
 ２１９Ｂの処理結果、および変動パターン種別判定用乱数（ランダム２）に応じたステッ
 プＳ２１９Ｌの処理結果に対応してステップＳ２１９Ｍの処理で送信した入賞時判定結果
 ２指定コマンド、ステップＳ２１９Ｎの処理結果に対応してステップＳ２１９Ｏの処理で
 送信した入賞時判定結果３指定コマンドまたはステップＳ２１９Ｐの処理で送信した入賞
 時判定結果４指定コマンドにもとづいて、演出制御用マイクロコンピュータ１００が、ス
 テップＳ６７１～Ｓ６７４の処理を実行し、ステップＳ６７５の処理で、図２９（Ａ），
 （Ｂ），（Ｃ）に示すテーブルを参照してステップＳ６７６の処理でＹと判定したこと
 にもとづいて、Ｓ９０２，Ｓ９０３，Ｓ８２２Ｈの処理を実行し、ステップＳ８２２Ｈの処
 理結果にもとづいて、ステップＳ８５３の処理でチャンス目を演出表示装置９に停止表示
 可能である（なお、ステップＳ９０３の処理では、図３１に示すテーブルを参照してチャ
 ンス目を演出表示装置９に停止表示する演出パターンに決定する。））、特殊組み合わ
 せとは異なる識別情報の組み合わせであって、特殊組み合わせを構成する識別情報に対
 して最後に停止表示される識別情報以外の識別情報に共通の識別情報の組み合わせを含む
 準特殊組み合わせ（例えば、図３８（Ｂ）に示す準チャンス目）を可変表示部に停止表示
 させる（演出制御用マイクロコンピュータ１００が、ステップＳ６７１～Ｓ６７４の処理
 を実行し、ステップＳ６７５の処理で、図２９（Ａ），（Ｂ），（Ｃ），（Ｄ）に示すテ
 ーブルを参照してステップＳ６７６の処理でＹと判定したことにもとづいて、Ｓ９０２，
 Ｓ９０３，Ｓ８２２Ｈの処理を実行し、ステップＳ８２２Ｈの処理結果にもとづいて、ス
 テップＳ８５３の処理でチャンス目を演出表示装置９に停止表示し、その後の可変表示時
 に、ステップＳ８２２Ｄ～Ｓ８２２Ｇの処理を実行し、ステップＳ８２２Ｇの処理で連続
 予告終了フラグをセットしたことにもとづいてステップＳ８２２Ｊの処理でＹと判定し、
 遊技制御用マイクロコンピュータ５６０がステップＳ１０６の処理で非リーチはずれの変
 動パターンコマンドを送信したことにもとづいてステップＳ８２２Ｌの処理でＹと判定し
 、図３６を参照したステップＳ８２２Ｎの処理結果にもとづいてステップＳ８２２Ｏの処
 理でＹと判定し、ステップＳ８２２Ｐの処理で停止図柄に準チャンス目を決定し、ステッ
 プＳ８５３の処理で、準チャンス目を演出表示装置９に停止表示させる）ことを特徴とす
 る。

【０３４５】

演出実行手段が、保留記憶手段に特定遊技状態に制御しないことを特定するための保留
 記憶情報が記憶されている場合に、所定の確率で準特殊組み合わせを可変表示部に停止表
 示させる（遊技制御用マイクロコンピュータ５６０が、大当たり判定用乱数（ランダムＲ）
 に応じたステップＳ２１９Ｂの処理結果、および変動パターン種別判定用乱数（ランダム
 ２）に応じたステップＳ２１９Ｌの処理結果に対応してステップＳ２１９Ｍの処理で送信
 した入賞時判定結果２指定コマンド、ステップＳ２１９Ｎの処理結果に対応してステップ
 Ｓ２１９Ｏの処理で送信した入賞時判定結果３指定コマンドまたはステップＳ２１９Ｐの
 処理で送信した入賞時判定結果４指定コマンドにもとづいて、演出制御用マイクロコンピ

10

20

30

40

50

ユータ 100 が、ステップ S 671 ~ S 674 の処理を実行し、ステップ S 675 の処理で、図 29 (A), (B), (C) に示すテーブルを参照してステップ S 676 の処理で Y と判定したことにもとづいて、S 902, S 903, S 822H の処理を実行し、ステップ S 822H の処理結果にもとづいて、ステップ S 853 の処理で、準チャンス目を演出表示装置 9 に停止表示させ、その後の可変表示時にステップ S 822D ~ S 822G の処理を実行し、ステップ S 822G の処理で連続予告終了フラグをセットしたことにもとづいてステップ S 822J の処理で Y と判定し、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 がステップ S 106 の処理で非リーチはずれの変動パターンコマンドを送信したことにもとづいてステップ S 822L の処理で Y と判定し、ステップ S 822M の処理で抽出した準チャンス目判定用乱数 (SR2 - 3) の値が図 36 に示すテーブルにおける準チャンス目を表示する範囲の判定値である場合に、準チャンス目を表示すると決定し、ステップ S 822N の処理で Y と判定したことにもとづいてステップ S 822O の処理で Y と判定し、ステップ S 822P の処理で停止図柄に準チャンス目を決定し、ステップ S 853 の処理で、準チャンス目を演出表示装置 9 に停止表示させる) ように構成されていてもよい。

【0346】

可変表示を開始するときに、保留記憶手段に記憶されている保留記憶情報にもとづいて (例えば、保留記憶バッファに記憶されているランダム R の値に応じてステップ S 54 の処理で Y と判定されてステップ S 71 の処理で大当りフラグがセットされたこと、ステップ S 55 の処理で Y と判定されてステップ S 60 の処理で小当りフラグがセットされたこと、またはステップ S 55 の処理で N と判定されて大当りフラグも小当りフラグもセットされなかったことにもとづいて)、識別情報の可変表示パターン (例えば、変動パターン) をリーチ態様を含む可変表示パターンまたはリーチ態様を含まない可変表示パターンのいずれかに決定する可変表示パターン決定手段 (例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 において、図 9 ~ 図 12 に示すテーブルを参照して、ステップ S 91 ~ S 105 の処理を実行する部分) を備え、演出実行手段が、可変表示パターン決定手段によってリーチ態様を含まない可変表示パターンとすることに決定されている場合に (例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 が、ステップ S 105 の処理で、非リーチはずれの変動パターン (例えば、非リーチ PA1 - 1 ~ PA1 - 4) に決定し、ステップ S 106 の処理でステップ S 105 の処理結果に応じた変動パターンコマンドが送信された場合に)、準特殊組み合わせを可変表示部に停止表示させる (遊技制御用マイクロコンピュータ 560 によってステップ S 106 の処理で非リーチはずれの変動パターンコマンドが送信されたことにもとづいて、演出制御用マイクロコンピュータ 100 が、ステップ S 822L の処理で Y と判定し、ステップ S 822M の処理で抽出した準チャンス目判定用乱数 (SR2 - 3) の値が図 36 に示すテーブルにおける準チャンス目を表示する範囲の判定値である場合に、準チャンス目を表示すると決定し、ステップ S 822N の処理で Y と判定したことにもとづいてステップ S 822O の処理で Y と判定し、ステップ S 822P の処理で停止図柄に準チャンス目を決定し、ステップ S 853 の処理で、準チャンス目を演出表示装置 9 に停止表示させる) ように構成されていてもよい。

【0347】

演出実行手段が、予告演出として、準特殊組み合わせを可変表示部に停止表示させた後の次の可変表示において、所定の割合で、特殊組み合わせを可変表示部に停止表示させる特定予告演出 (例えば、図 31 (C) に示す演出パターン 8 または 9 の演出) を実行する (例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 が、ステップ S 902 の処理で抽出したチャンス目予告演出種類決定用乱数 (SR2 - 2) の値が図 31 (C) に示す演出パターン 8 または 9 に対応する判定値に合致する場合に、ステップ S 903 の処理で、準チャンス目を停止表示させた後の可変表示においてチャンス目を停止表示させる演出パターン 8 または 9 に決定したことにもとづいて、ステップ S 822H の処理で演出図柄の停止図柄に準チャンス目を決定して、ステップ S 853 の処理で演出表示装置 9 に準チャンス目を停止表示させ、その後の可変表示時にステップ S 822H の処理で演出図柄の停止図柄にチャンス目を決定して、ステップ S 853 の処理で演出表示装置 9 にチャンス目を停止

10

20

30

40

50

表示させる)ように構成されていてもよい。

【0348】

演出実行手段が、準特殊組み合わせとして最後に停止表示させる識別情報として、特殊組み合わせとして最後に停止表示させる識別情報に対して識別情報の配列の順序において所定個数以内に配列された近接識別情報を停止表示させる(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100が、ステップS822Pの処理結果にもとづいてステップS853の処理で演出表示装置9に停止表示させる準チャンス目は、図38(B)に示すように、図38(A)に示すチャンス目に対して、中図柄が、図37(B)に示す配列の順序において所定個数(例えば、1個)以内に配列された中図柄である。)ように構成されていてもよい。

10

【0349】

始動領域を遊技媒体が通過したときに、特定遊技状態に制御するか否かを決定するための特定遊技状態決定用乱数(例えば、ランダムR)と、識別情報の可変表示パターンを決定するための可変表示決定用乱数(例えば、変動パターン種別判定用乱数(ランダム2)や変動パターン判定用乱数(ランダム3))とを抽出し、該抽出された乱数値を保留記憶手段に保留記憶情報として記憶させる抽出手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS214A, S214Bの処理を実行する部分)と、可変表示を開始するときに、保留記憶手段に記憶された可変表示決定用乱数と、複数種類の可変表示パターン(例えば、ノーマルPA2-3, PA2-4, PB2-3, PB2-4, スーパーPA3-3, PA3-4, PB3-3, PB3-4, 特殊PG1-1~PG1-3, PG2-1, PG2-2)に対して判定値が割り当てられた判定値テーブル(例えば、図48, 図49に示す変形例2の変動パターン判定テーブル)とを用いて、識別情報の可変表示パターンを特定の可変表示パターンとするか否かを決定する可変表示パターン決定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560において、図50に示す変形例2のステップS91~ステップS102Aの処理を実行する部分)と、可変表示パターン決定手段による決定前に、保留記憶手段に記憶された可変表示決定用乱数と、判定値テーブルとを用いて、識別情報の可変表示パターンが複数種類の可変表示パターンのうちの特定の可変表示パターン(例えば、スーパーリーチの変動パターン(スーパーPA3-3, PA3-4, PB3-3, PB3-4))となるか否かを判定する始動判定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560において、変形例2で、図16に示すステップS219G, S219L, S219Nの処理を実行する部分)と、始動判定手段の判定結果に応じて、偽予告演出を実行するか否かを決定する演出決定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560が、変形例2で、図16に示すステップS219L, S219Nの処理結果に応じてステップS219M, S219O, S219Pの処理で入賞時判定2~4指定コマンドを送信したことにもとづいて、演出制御用マイクロコンピュータ100において、ステップS671~S674の処理を実行し、ステップS675の処理で、図29(A), (B), (C)に示すテーブルを参照してステップS676の処理でYと判定したことにもとづいて、S902, S903, S822Hの処理を実行し、図31に示す演出パターンのいずれかを実行して、ステップS853の処理で演出表示装置9に図38(A)に示すチャンス目を停止表示させる部分)とを備え、演出決定手段が、始動判定手段が特定の可変表示パターンとなると判定した場合には、特定の可変表示パターンとならないと判定した場合と比較して、高い割合で、始動判定手段の判定対象の保留記憶情報にもとづく可変表示より前に停止表示される1回または複数回の可変表示において偽予告演出を実行すると決定し(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560が、変形例2で、図16に示すステップS219Lの処理結果に応じてステップS219Mの処理で入賞時判定2指定コマンドを送信したことにもとづいて、演出制御用マイクロコンピュータ100が、ステップS675の処理でチャンス目予告演出ありに21個の判定値が設定されたテーブル(図29(C)に示すテーブル)を参照してチャンス目予告演出を実行するか否かを決定し、遊技制御用マイクロコンピュータ560が、変形例2で、図16に示すステップS219Nの処理結果に応じて、ステップS219Oの処理で入賞時判定3指定コマ

20

30

40

50

ンドを送信したことにもとづいて、演出制御用マイクロコンピュータ100がステップS675の処理で、チャンス目予告演出ありに図29(C)に示すテーブルよりも判定値の個数が少ない6個の判定値が設定されたテーブル(図29(B)に示すテーブル)や、ステップS219Pの処理で入賞時判定4指定コマンドを送信したことにもとづいて、演出制御用マイクロコンピュータ100がステップS675の処理で、チャンス目予告演出ありに図29(C)に示すテーブルよりも判定値の個数が少ない3個の判定値が設定されたテーブル(図29(A)に示すテーブル)を参照してチャンス目予告演出を実行するか否か決定する)、可変表示パターン決定手段が、保留記憶手段に記憶されている保留記憶情報が特定遊技状態に制御することを特定するための情報である場合には、保留記憶手段に記憶されている保留記憶情報が特定遊技状態に制御しないことを特定するための情報である場合と比較して、当該保留記憶情報に対応する可変表示パターンを高い割合で特定の可変表示パターンとすることに決定し(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560が、確変大当たりまたは通常大当たりとすることに決定されて大当たりフラグがセットされている場合に(図50に示す変形例2のステップS91のY)、ステップS92Aの処理で図48(A),(B)に示すテーブルを選択し、はずれとすることに決定されて大当たりフラグおよび小当たりフラグがセットされていない場合に(図50に示す変形例2のステップS91のN,S93のN)、ステップS97A,S98Aの処理で図49(A),(B)に示すテーブルを選択し、ステップS102Aの処理で、変動パターンを選択する。図48(A),(B)に示すテーブルには、図49(A),(B)に示すテーブルにより多くの判定値がスーパーリーチの変動パターンに設定されている。)、判定値テーブルが、特定の可変表示パターンに対しては、保留記憶手段が記憶する保留記憶数にかかわらず、共通の判定値が割り当てられ、特定の可変表示パターン以外の可変表示パターンに対しては、保留記憶手段が記憶する保留記憶数に応じて異なる判定値が割り当てられている(例えば、図49(A),(B)に示すように、保留記憶数が0~2であるか3以上であるかにかかわらず、スーパーリーチを伴う変動パターンに対して230~251の範囲の判定値が割り当てられている。また、スーパーリーチ以外の非リーチやノーマルリーチを伴う変動パターンに対しては、保留記憶数が0~2であるか3以上であるかに応じて異なる判定値が割り当てられている)ように構成されていてもよい。

【0350】

始動領域を遊技媒体が通過したときに、特定遊技状態に制御するか否かを決定するための特定遊技状態決定用乱数と、識別情報の可変表示パターン種別(例えば、ノーマルCA2-3~CA2-5,CA3-1,CA3-2,スーパーCA2-6,CA3-3,特殊CA4-1,CA4-2,非リーチCA2-1~CA2-3)を決定するための可変表示パターン種別決定用乱数(例えば、変動パターン種別判定用乱数(ランダム2))と、識別情報の可変表示パターンを決定するための可変表示決定用乱数とを抽出し、該抽出された乱数値を保留記憶手段に保留記憶情報として記憶させる抽出手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS214A,S214Bを実行する部分)と、保留記憶手段に記憶された可変表示パターン種別決定用乱数と、複数種類の可変表示パターン種別に対して判定値が割り当てられた判定値テーブル(例えば、図9,図10に示すテーブル)とを用いて、識別情報の可変表示パターン種別を特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別を含む複数種類の可変表示パターン種別のいずれかに決定する可変表示パターン種別決定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS91~S102の処理を実行する部分)と、保留記憶手段に記憶された可変表示決定用乱数にもとづいて、可変表示パターン種別決定手段により決定された可変表示パターン種別に含まれる可変表示パターンの中から(例えば、ステップS102の処理で決定した変動パターン種別に含まれる変動パターンの中から)識別情報の可変表示パターンを決定する可変表示パターン決定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS103,S105の処理を実行する部分)と、可変表示パターン種別決定手段による決定前に、保留記憶手段に記憶された可変表示パターン種別決定用乱数と、判定値テーブルとを用いて、識別情報の可変表示パターン種別が特定の可変表

10

20

30

40

50

示パターンを実行する可変表示パターン種別となるか否かを判定する始動判定手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560において、ステップS219Gの処理で変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）の値が150～251であるか否かを判定し、ステップS219Lの処理で変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）の値が230～251であるか否かを判定する部分）と、始動判定手段の判定結果に応じて、偽予告演出を実行するか否かを決定する演出決定手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560が、ステップS219L、S219Nの処理結果に応じてステップS219M、S219O、S219Pの処理で入賞時判定2～4指定コマンドを送信したことにもとづいて、演出制御用マイクロコンピュータ100において、ステップS671～S674の処理を実行し、ステップS675の処理で、図29（A）、（B）、（C）に示すテーブルを参照してステップS676の処理でYと判定したことにもとづいて、S902、S903、S822Hの処理を実行し、図31に示す演出パターンのいずれかを実行して、ステップS853の処理で演出表示装置9に図38（A）に示すチャンス目を停止表示させる部分）とを備え、可変表示パターン種別決定手段が、保留記憶手段に記憶されている保留記憶情報が特定遊技状態に制御することを特定するための情報である場合には、保留記憶手段に記憶されている保留記憶情報が特定遊技状態に制御しないことを特定するための情報である場合と比較して、当該保留記憶情報に対応する可変表示パターン種別を高い割合で特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別とすることに決定し（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560が、確変大当たりまたは通常大当たりとすることに決定されて大当たりフラグがセットされている場合に（ステップS91のY）、ステップS92の処理で図9（A）、（B）に示すテーブルを選択し、はずれとすることに決定されて大当たりフラグおよび小当たりフラグがセットされていない場合に（ステップS91のN、S93のN）、ステップS97、S98の処理で図10（A）、（B）に示すテーブルを選択し、ステップS102の処理で、変動パターンを選択する。図9（A）、（B）に示すテーブルには、図10（A）、（B）に示すテーブルよりも多くの判定値がスーパーリーチの変動パターンに設定されている。）、演出決定手段が、始動判定手段が特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別となると判定した場合には、特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別とならないと判定した場合と比較して、高い割合で、始動判定手段の判定対象の保留記憶情報にもとづく可変表示より前に停止表示される1回または複数回の可変表示において偽予告演出を実行すると決定し（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560が、ステップS219Lの処理結果に応じてステップS219Mの処理で入賞時判定2指定コマンドを送信したことにもとづいて、演出制御用マイクロコンピュータ100が、ステップS675の処理でチャンス目予告演出ありに21個の判定値が設定されたテーブル（図29（C）に示すテーブル）を参照してチャンス目予告演出を実行するか否か決定し、遊技制御用マイクロコンピュータ560が、ステップS219Nの処理結果に応じて、ステップS219Oの処理で入賞時判定3指定コマンドを送信したことにもとづいて、演出制御用マイクロコンピュータ100がステップS675の処理で、チャンス目予告演出ありに図29（C）に示すテーブルよりも判定値の個数が少ない6個の判定値が設定されたテーブル（図29（B）に示すテーブル）や、ステップS219Pの処理で入賞時判定4指定コマンドを送信したことにもとづいて、演出制御用マイクロコンピュータ100がステップS675の処理で、チャンス目予告演出ありに図29（C）に示すテーブルよりも判定値の個数が少ない3個の判定値が設定されたテーブル（図29（A）に示すテーブル）を参照してチャンス目予告演出を実行するか否か決定する）、判定値テーブルが、特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別に対しては、保留記憶手段が記憶する保留記憶数にかかわらず、共通の判定値が割り当てられ、特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別以外の可変表示パターン種別に対しては、保留記憶手段が記憶する保留記憶数に応じて異なる判定値が割り当てられている（例えば、図10（A）、（B）に示すように、保留記憶数が0～2であるか3以上であるかにかかわらず、スーパーリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別に対して230～251の範囲の判定値が割り当てられている。また、スーパーリーチ以

10

20

30

40

50

外の非リーチやノーマルリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別に対しては、保留記憶数が0～2であるか3以上であるかに応じて異なる判定値が割り当てられている)ように構成されていてもよい。

【0351】

本発明による遊技機は、所定の始動領域を遊技媒体が通過した後に、各々を識別可能に所定の順序で配列された複数種類の識別情報を可変表示する可変表示部を複数備え、複数の可変表示部において停止表示された識別情報の組み合わせがあらかじめ定められた特定組み合わせとなったときに、遊技者にとって有利な特定遊技状態に制御する遊技機であって、所定の始動領域を遊技媒体が通過したが未だ開始されていない可変表示について、特定遊技状態に制御するか否かを特定するための情報を保留記憶情報として記憶する保留記憶手段と、保留記憶手段に特定遊技状態に制御することを特定するための保留記憶情報が記憶されていることにもとづいて、当該保留記憶情報にもとづく可変表示より前に停止表示される1回または複数回の可変表示において停止表示する識別情報の組み合わせとして特定組み合わせとは異なる特殊組み合わせを可変表示部に停止表示させる予告演出を実行する演出実行手段とを備え、演出実行手段は、保留記憶手段に特定遊技状態に制御しないことを特定するための保留記憶情報が記憶されている場合であっても、所定条件が成立したときは、当該保留記憶情報にもとづく可変表示より前に停止表示される1回または複数回の可変表示において停止表示する識別情報の組み合わせとして特殊組み合わせを可変表示部に停止表示させる偽予告演出を実行可能であり、特殊組み合わせを可変表示部に停止表示させる偽予告演出の終了後の次の可変表示において、特定組み合わせとは異なる識別情報の組み合わせであって、特殊組み合わせを構成する識別情報に対して最後に停止表示される識別情報以外の識別情報に共通の識別情報の組み合わせを含む準特殊組み合わせを可変表示部に停止表示させるように構成されているので、保留記憶手段に特定遊技状態に制御しないことを特定するための保留記憶情報が記憶されている場合であっても、所定条件が成立したときは、偽予告演出を実行して、遊技者の特定遊技状態への期待感を煽ることができる。

【0352】

演出実行手段が、保留記憶手段に特定遊技状態に制御しないことを特定するための保留記憶情報が記憶されている場合に、所定の確率で準特殊組み合わせを可変表示部に停止表示させるように構成されることによって、保留記憶手段に特定遊技状態に制御しないことを特定するための保留記憶情報が記憶されている場合であっても準特殊組み合わせを可変表示部に停止表示されないときがあるので、準特殊組み合わせが停止表示された場合であっても、遊技者に、特定遊技状態への期待感を維持させることができる。

【0353】

可変表示を開始するときに、保留記憶手段に記憶されている保留記憶情報にもとづいて、識別情報の可変表示パターンをリーチ態様を含む可変表示パターンまたはリーチ態様を含まない可変表示パターンのいずれかに決定する可変表示パターン決定手段を備え、演出実行手段は、可変表示パターン決定手段によってリーチ態様を含まない可変表示パターンとすることに決定されている場合に、準特殊組み合わせを可変表示部に停止表示させるように構成されることによって、準特殊組み合わせが停止表示された後にリーチ態様の演出が実行される場合があり、遊技者の特定遊技状態への期待感が薄れることを防ぐことができる。

【0354】

演出実行手段は、予告演出として、準特殊組み合わせを可変表示部に停止表示させた後の次の可変表示において、所定の割合で、特殊組み合わせを可変表示部に停止表示させる特定予告演出を実行するように構成されることによって、準特殊組み合わせが停止表示されても、その後の最終の可変表示において特殊組み合わせが停止表示され、遊技者に特定遊技状態への期待感を維持させることができる。

【0355】

演出実行手段は、準特殊組み合わせとして最後に停止表示させる識別情報として、特殊

組み合わせとして最後に停止表示させる識別情報に対して識別情報の配列の順序において所定個数以内に配列された近接識別情報を停止表示させるように構成されることによって、準特殊組み合わせとして近接識別情報を停止表示されるので、準特殊組み合わせが停止表示されても、遊技者に特定遊技状態への期待感を維持させることができる。

【 0 3 5 6 】

始動領域を遊技媒体が通過したときに、特定遊技状態に制御するか否かを決定するための特定遊技状態決定用乱数と、識別情報の可変表示パターンを決定するための可変表示決定用乱数とを抽出し、該抽出された乱数値を保留記憶手段に保留記憶情報として記憶させる抽出手段と、可変表示を開始するときに、保留記憶手段に記憶された可変表示決定用乱数と、複数種類の可変表示パターンに対して判定値が割り当てられた判定値テーブルとを用いて、識別情報の可変表示パターンを特定の可変表示パターンとするか否かを決定する可変表示パターン決定手段と、可変表示パターン決定手段による決定前に、保留記憶手段に記憶された可変表示決定用乱数と、判定値テーブルとを用いて、識別情報の可変表示パターンが複数種類の可変表示パターンのうちの特定の可変表示パターンとなるか否かを判定する始動判定手段と、始動判定手段の判定結果に応じて、偽予告演出を実行するか否かを決定する演出決定手段とを備え、演出決定手段は、始動判定手段が特定の可変表示パターンとなると判定した場合には、特定の可変表示パターンとならないと判定した場合と比較して、高い割合で、始動判定手段の判定対象の保留記憶情報にもとづく可変表示より前に停止表示される1回または複数回の可変表示において偽予告演出を実行すると決定し、可変表示パターン決定手段は、保留記憶手段に記憶されている保留記憶情報が特定遊技状態に制御することを特定するための情報である場合には、保留記憶手段に記憶されている保留記憶情報が特定遊技状態に制御しないことを特定するための情報である場合と比較して、当該保留記憶情報に対応する可変表示パターンを高い割合で特定の可変表示パターンとすることに決定し、判定値テーブルは、特定の可変表示パターンに対しては、保留記憶手段が記憶する保留記憶数にかかわらず、共通の判定値が割り当てられ、特定の可変表示パターン以外の可変表示パターンに対しては、保留記憶手段が記憶する保留記憶数に応じて異なる判定値が割り当てられているように構成されることによって、特定の可変表示パターンにもとづく可変表示が実行されたときの特定遊技状態（大当たり遊技状態）への期待感を高めることができ、遊技に対する興趣をさらに向上させることができる。

【 0 3 5 7 】

始動領域を遊技媒体が通過したときに、特定遊技状態に制御するか否かを決定するための特定遊技状態決定用乱数と、識別情報の可変表示パターン種別を決定するための可変表示パターン種別決定用乱数と、識別情報の可変表示パターンを決定するための可変表示決定用乱数とを抽出し、該抽出された乱数値を保留記憶手段に保留記憶情報として記憶させる抽出手段と、保留記憶手段に記憶された可変表示パターン種別決定用乱数と、複数種類の可変表示パターン種別に対して判定値が割り当てられた判定値テーブルとを用いて、識別情報の可変表示パターン種別を特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別を含む複数種類の可変表示パターン種別のいずれかに決定する可変表示パターン種別決定手段と、保留記憶手段に記憶された可変表示決定用乱数にもとづいて、可変表示パターン種別決定手段により決定された可変表示パターン種別に含まれる可変表示パターンの中から識別情報の可変表示パターンを決定する可変表示パターン決定手段と、可変表示パターン種別決定手段による決定前に、保留記憶手段に記憶された可変表示パターン種別決定用乱数と、判定値テーブルとを用いて、識別情報の可変表示パターン種別が特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別となるか否かを判定する始動判定手段と、始動判定手段の判定結果に応じて、偽予告演出を実行するか否かを決定する演出決定手段とを備え、可変表示パターン種別決定手段は、保留記憶手段に記憶されている保留記憶情報が特定遊技状態に制御することを特定するための情報である場合には、保留記憶手段に記憶されている保留記憶情報が特定遊技状態に制御しないことを特定するための情報である場合と比較して、当該保留記憶情報に対応する可変表示パターン種別を高い割合で特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別とすることに決定し、演出決定手段は

、始動判定手段が特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別となると判定した場合には、特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別とならないと判定した場合と比較して、高い割合で、始動判定手段の判定対象の保留記憶情報にもとづく可変表示より前に停止表示される１回または複数回の可変表示において偽予告演出を実行すると決定し、判定値テーブルは、特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別に対しては、保留記憶手段が記憶する保留記憶数にかかわらず、共通の判定値が割り当てられ、特定の可変表示パターンを実行する可変表示パターン種別以外の可変表示パターン種別に対しては、保留記憶手段が記憶する保留記憶数に応じて異なる判定値が割り当てられているように構成されることによって、特定の可変表示パターンにもとづく可変表示が実行されたときの特定遊技状態（大当り遊技状態）への期待感を高めることができ、遊技に対する興趣をさらに向上させることができる。また、可変表示パターン種別の振り分けを変更するだけで、特定の可変表示パターンとそれ以外の可変表示パターンとの振り分けを設計段階で容易に変更することができる。

10

【産業上の利用可能性】

【０３５８】

本発明は、パチンコ遊技機などの遊技機に適用可能である。

【符号の説明】

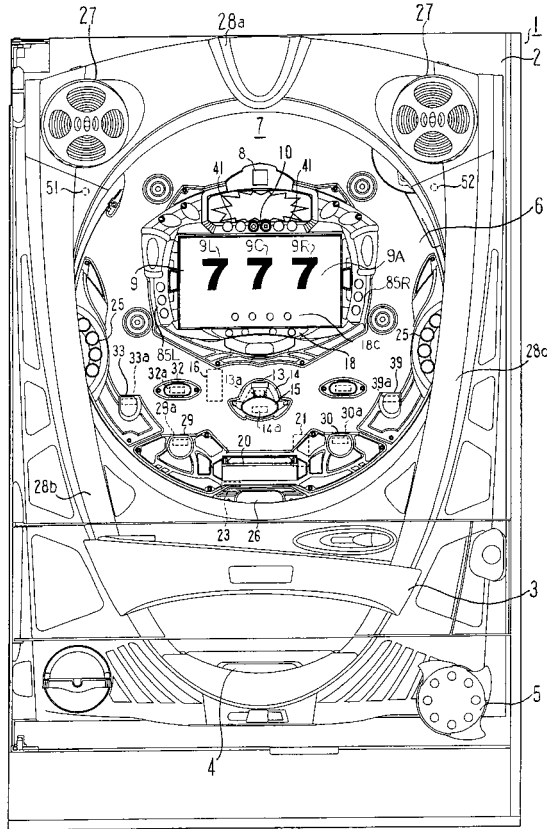
【０３５９】

- １ パチンコ遊技機
- ８ 特別図柄表示器
- ９ 演出表示装置
- １３ 第１始動入賞口
- １４ 第２始動入賞口
- ２０ 特別可変入賞球装置
- ３１ 遊技制御基板（主基板）
- ５６ ＣＰＵ
- ５６０ 遊技制御用マイクロコンピュータ
- ８０ 演出制御基板
- １００ 演出制御用マイクロコンピュータ
- １０１ 演出制御用ＣＰＵ
- １０９ ＶＤＰ

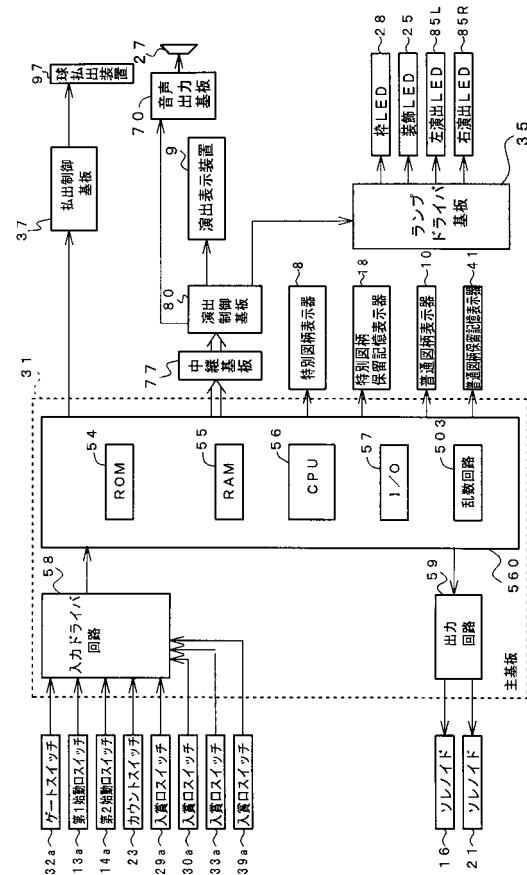
20

30

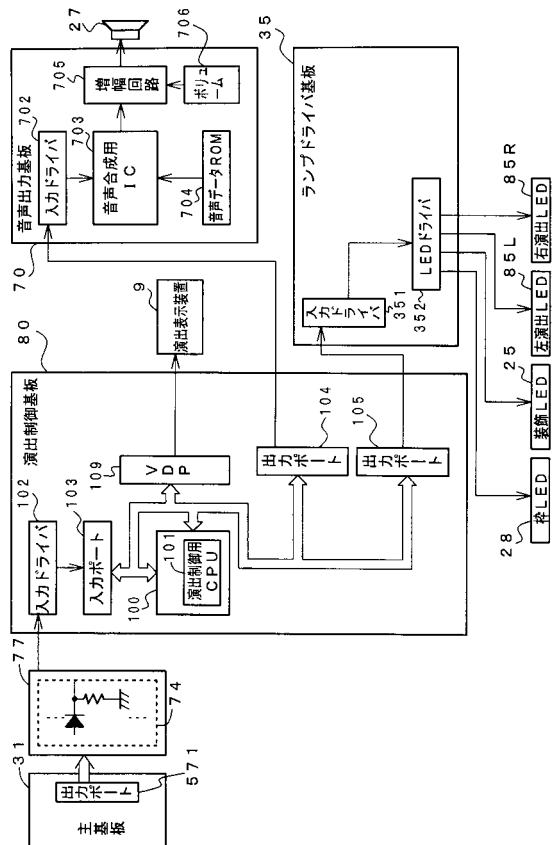
【図 1】



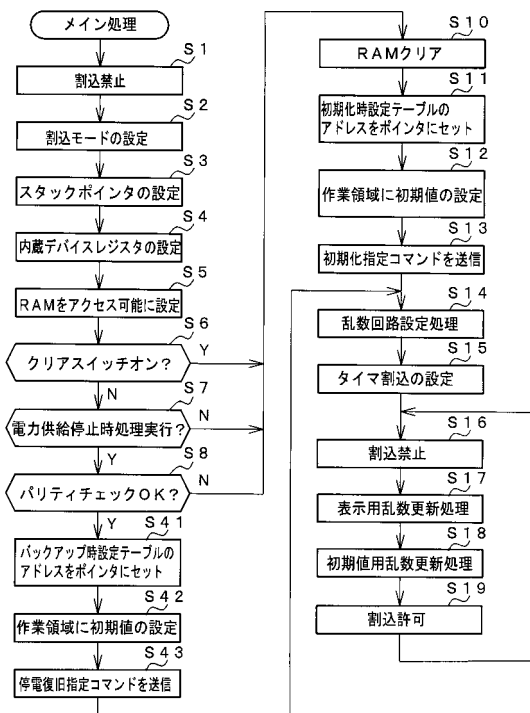
【図 2】



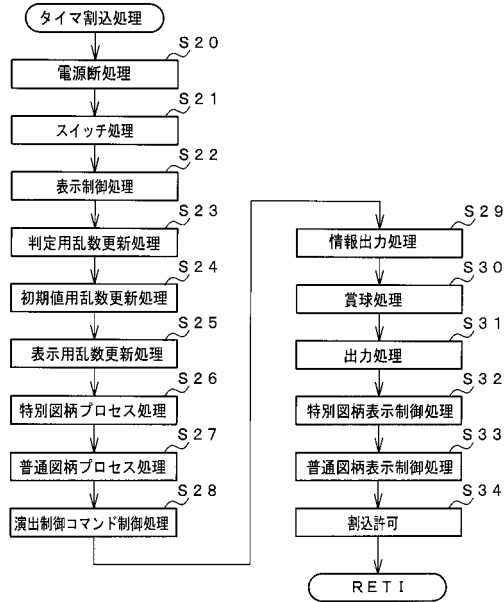
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

可変表示結果	変動パターン	特定演出	リーチ演出	特変時間(秒)	備考
はずれ	非リーチPA1-1	なし	非リーチ	5.75	短縮なし、通常変動ではずれ
	非リーチPA1-2	なし	非リーチ	1.50	短縮変動ではずれ
	非リーチPA1-3	滑り	非リーチ	8.25	通常変動ではずれ後、再演出ではずれ
	非リーチPA1-4	擬似連(2回)	非リーチ	10.20	通常変動ではずれ後、再変動2回ではずれ
	ノーマルPA2-1	なし	ノーマル	12.75	ノーマルリーチではずれ
	ノーマルPA2-2	なし	ノーマル	25.50	ノーマルリーチではずれ
	ノーマルPB2-1	擬似連(2回)	ノーマル	10.75	通常変動ではずれ後、再変動2回の最終変動でノーマルリーチはずれ
	ノーマルPB2-2	擬似連(3回)	ノーマル	11.75	通常変動ではずれ後、再変動3回の最終変動でノーマルリーチはずれ
	スーパーPA3-1	擬似連(4回)	スーパーA	32.75	通常変動ではずれ後、再変動4回の最終変動でスーパーリーチAはずれ
	スーパーPA3-2	擬似連(4回)	スーパーB	35.50	通常変動ではずれ後、再変動4回の最終変動でスーパーリーチBはずれ
大当り	スーパーPB3-1	なし	スーパーA	22.75	スーパーリーチAではずれ
	スーパーPB3-2	なし	スーパーB	25.50	スーパーリーチBではずれ
	ノーマルPA2-3	なし	ノーマル	12.75	ノーマルリーチで大当り
	ノーマルPA2-4	なし	ノーマル	25.50	ノーマルリーチで大当り
	ノーマルPB2-3	擬似連(2回)	ノーマル	10.75	通常変動ではずれ後、再変動2回の最終変動でノーマルリーチ大当り
	ノーマルPB2-4	擬似連(3回)	ノーマル	11.75	通常変動ではずれ後、再変動3回の最終変動でノーマルリーチ大当り
	スーパーPA3-3	擬似連(4回)	スーパーA	32.75	通常変動ではずれ後、再変動4回の最終変動でスーパーリーチA大当り
	スーパーPA3-4	擬似連(4回)	スーパーB	35.50	通常変動ではずれ後、再変動4回の最終変動でスーパーリーチB大当り
	スーパーPB3-3	なし	スーパーA	22.75	スーパーリーチAで大当り
	スーパーPB3-4	なし	スーパーB	25.50	スーパーリーチBで大当り
突然確変大当り/小当り	特殊PG1-1	なし	非リーチ	5.75	通常変動で突然確変大当り又は小当り
	特殊PG1-2	滑り	非リーチ	11.75	通常変動ではずれ後、滑り演出で突然確変大当り又は小当り
	特殊PG1-3	擬似連(2回)	非リーチ	15.50	通常変動ではずれ後、再変動2回で突然確変大当り又は小当り
	特殊PG2-1	なし	ノーマル	12.75	リーチではずれ後に再変動で突然確変大当り又は小当り
	特殊PG2-2	滑り	ノーマル	16.50	リーチではずれ後に滑り変動で突然確変大当り又は小当り

【図 7】

乱数	範囲	用途	加算
ランダム 1	0~39	大当り種別判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
ランダム 2	1~251	変動パターン種別判定用	0.002秒毎および割り込み処理 残り時間に1ずつ加算
ランダム 3	1~997	変動パターン判定用	0.002秒毎および割り込み処理 残り時間に1ずつ加算
ランダム 4	3~13	普通図柄当り判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
ランダム 5	3~13	ランダム 4 初期値決定用	0.002秒毎および割り込み処理 残り時間に1ずつ加算

【図 8】

大当り判定値 (ランダム R [0~65535] と比較される)	
低確率時 (非確変時)	確変時
1000~1217 (確率: 1/300)	1000~3184 (確率: 1/30)

(A)

小当り判定値 (ランダム R [0~65535] と比較される)
54000~54217 (確率: 1/300)

(B)

大当り種別判定用テーブル		
大当り種別判定値 (ランダム 2 と比較される)		
通常大当り	確変大当り	突然確変大当り
0~9	10~29	30~39

(C)

【図 9】

(A) 大当り用変動パターン種別判定テーブル			
大当り種別	変動パターン種別		
	ノーマルCA3-1	ノーマルCA3-2	スーパーCA3-3
通常大当り	1~74	75~149	150~251

132A

(B) 大当り用変動パターン種別判定テーブル			
大当り種別	変動パターン種別		
	ノーマルCA3-1	ノーマルCA3-2	スーパーCA3-3
確変大当り	1~38	39~79	80~251

132B

(C) 大当り用変動パターン種別判定テーブル		
大当り種別	変動パターン種別	
	特殊CA4-1	特殊CA4-2
突然確変大当り	1~100	101~241

132C

(D) 小当り用変動パターン種別判定テーブル	
大当り種別	変動パターン種別
	特殊CA4-1
小当り	1~241

132D

【図 10】

(A) はずれ用変動パターン種別判定テーブル(通常用)				
変動パターン種別				
非リーチCA2-1	非リーチCA2-3	ノーマルCA2-3	ノーマルCA2-4	スーパーCA2-6
1~79	80~99	100~169	170~229	230~251

135A

(B) はずれ用変動パターン種別判定テーブル(短縮用)				
変動パターン種別				
非リーチCA2-2	非リーチCA2-3	ノーマルCA2-3	ノーマルCA2-5	スーパーCA2-6
1~179	180~199	200~214	215~229	230~251

135B

【図 1 1】

(A) 当り変動パターン判定テーブル 137A

変動パターン種別	判定値	変動パターン
ノーマルCA3-1	1~560	ノーマルPA2-3
	561~997	ノーマルPA2-4
ノーマルCA3-2	1~560	ノーマルPB2-3
	561~997	ノーマルPB2-4
スーパーCA3-3	1~268	スーパーPA3-3
	269~560	スーパーPA3-4
	561~900	スーパーPB3-3
	901~997	スーパーPB3-4

(B) 当り変動パターン判定テーブル 137B

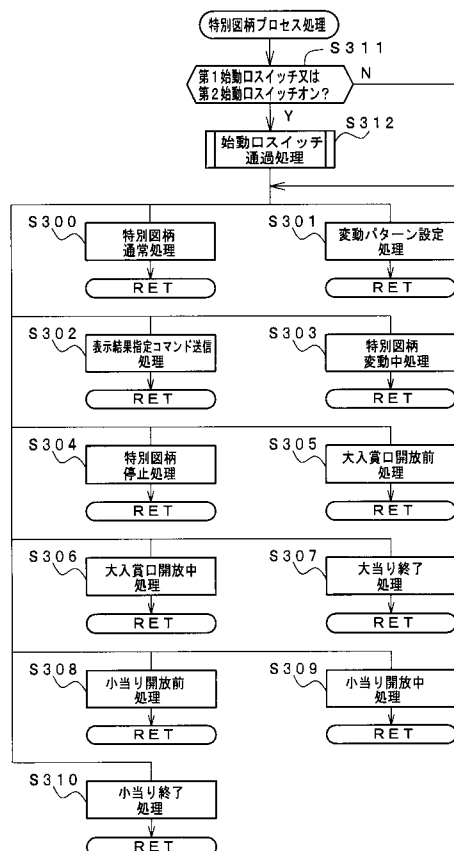
変動パターン種別	判定値	変動パターン
特殊CA4-1	1~540	特殊PG1-1
	541~636	特殊PG1-2
	637~997	特殊PG1-3
特殊CA4-2	1~180	特殊PG2-1
	181~997	特殊PG2-2

【図 1 2】

はずれ変動パターン判定テーブル 138A

変動パターン種別	判定値	変動パターン
非リーチCA2-1	1~997	非リーチPA1-1
	1~997	非リーチPA1-2
	1~500	非リーチPA1-3
非リーチCA2-3	501~997	非リーチPA1-4
	1~560	ノーマルPA2-1
ノーマルCA2-3	561~997	ノーマルPA2-2
	1~997	ノーマルPB2-2
ノーマルCA2-4	1~997	ノーマルPB2-1
	1~268	スーパーPA3-1
スーパーCA2-6	269~560	スーパーPA3-2
	561~900	スーパーPB3-1
	901~997	スーパーPB3-2

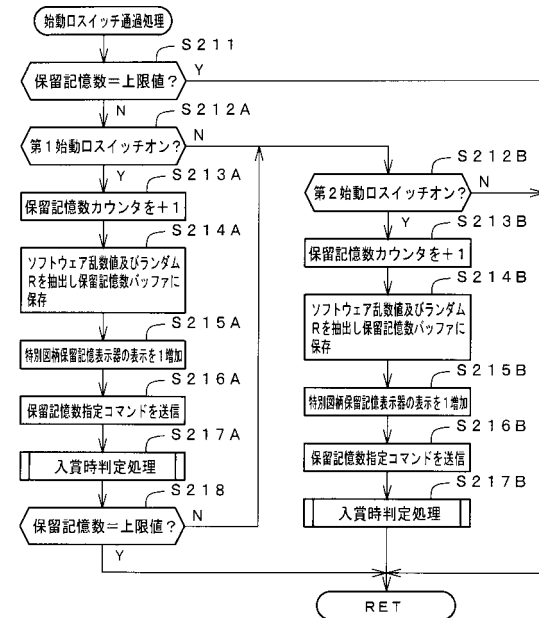
【図 1 4】



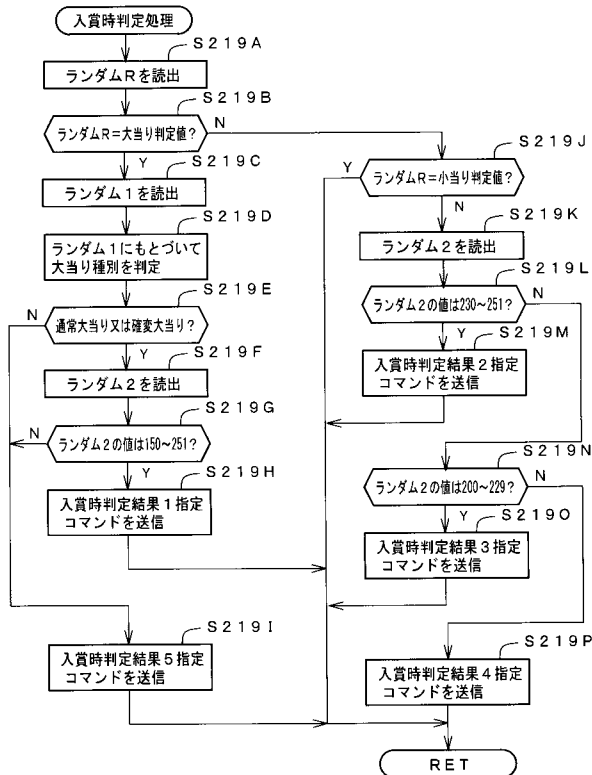
【図 1 3】

MODE	EXT	名称	内容
8 0	X X	変動パターンX指定	飾り図柄の変動パターンの指定 (X=変動パターン番号)
8 C	0 1	表示結果1指定 (はずれ指定)	はずれに決定されていることの指定
8 C	0 2	表示結果2指定 (通常大当り指定)	通常大当りに決定されていることの指定
8 C	0 3	表示結果3指定 (確変大当り指定)	確変大当りに決定されていることの指定
8 C	0 4	表示結果4指定 (突然確変大当り指定)	突然確変大当りに決定されていることの指定
8 C	0 5	表示結果5指定 (小当り指定)	小当りに決定されていることの指定
8 F	0 0	図柄確定指定	図柄の変動を終了することの指定
9 0	0 0	初期化指定 (電源投入指定)	電源投入時の初期画面を表示することの指定
9 5	0 1	入賞時判定結果1指定	始動入賞時判定結果 (スーパーリーチ当り) を指定
9 5	0 2	入賞時判定結果2指定	始動入賞時判定結果 (スーパーリーチはずれ) を指定
9 5	0 3	入賞時判定結果3指定	始動入賞時判定結果 (ノーマルリーチはずれ) を指定
9 5	0 4	入賞時判定結果4指定	始動入賞時判定結果 (非リーチはずれ) を指定
9 5	0 5	入賞時判定結果5指定	始動入賞時判定結果 (非スーパーリーチ当り) を指定
A 0	0 1	大当り開始1指定	通常大当りのファンファーレ画面を表示することの指定
A 0	0 2	大当り開始2指定	確変大当りのファンファーレ画面を表示することの指定
A 0	0 3	小当り/突然確変大当り開始指定	小当り又は突然確変大当りのファンファーレ画面を表示することの指定
A 1	X X	大入賞口開放中指定	X Xで示す回数目の大入賞口開放中指定 (X X=01 (H) ~0F (H))
A 2	X X	大入賞口開放後指定	X Xで示す回数目の大入賞口開放後指定 (X X=01 (H) ~0F (H))
A 3	0 1	大当り終了1指定	大当り終了画面を表示すること及び通常大当りであることの指定
A 3	0 2	大当り終了2指定	大当り終了画面を表示すること及び確変大当りであることの指定
A 3	0 3	小当り/突然確変大当り終了指定	小当り終了画面 (突然確変大当り終了画面と兼用) を表示することの指定
B 0	0 0	低確率状態指定	確率状態が低確率状態であることの指定
B 0	0 1	時短状態指定	時短状態であることの指定
C 0	0 0	始動入賞指定	始動入賞があったことの指定
C 1	X X	保留記憶数指定	保留記憶数がX Xで示す数になったことの指定 (X X=01 (H) ~04 (H))

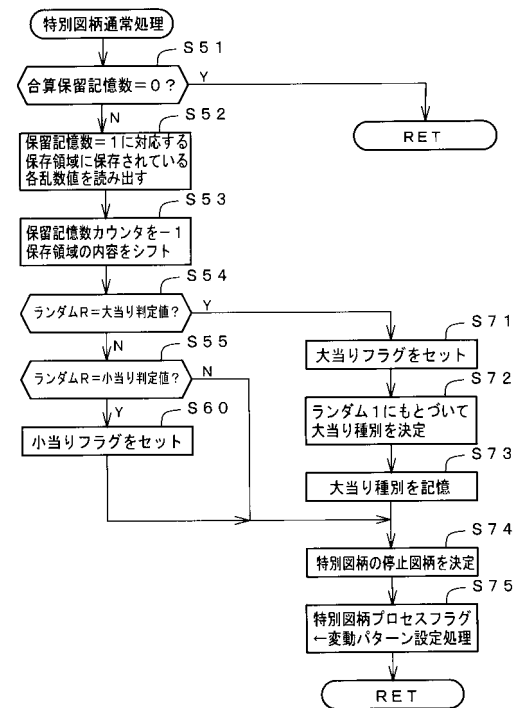
【図 1 5】



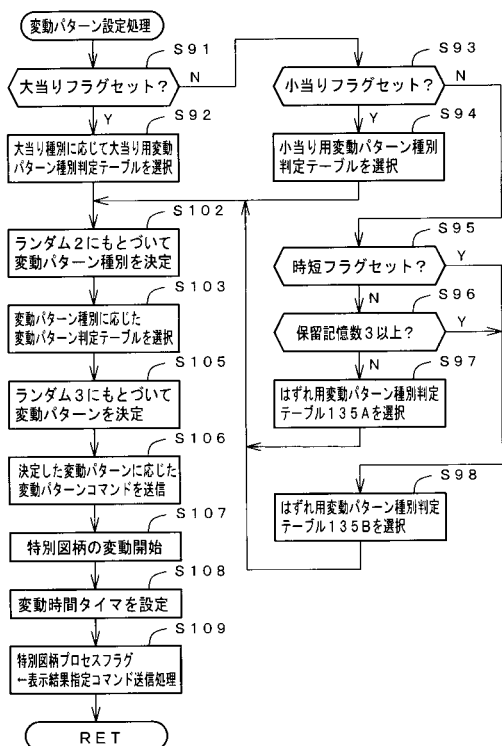
【図 16】



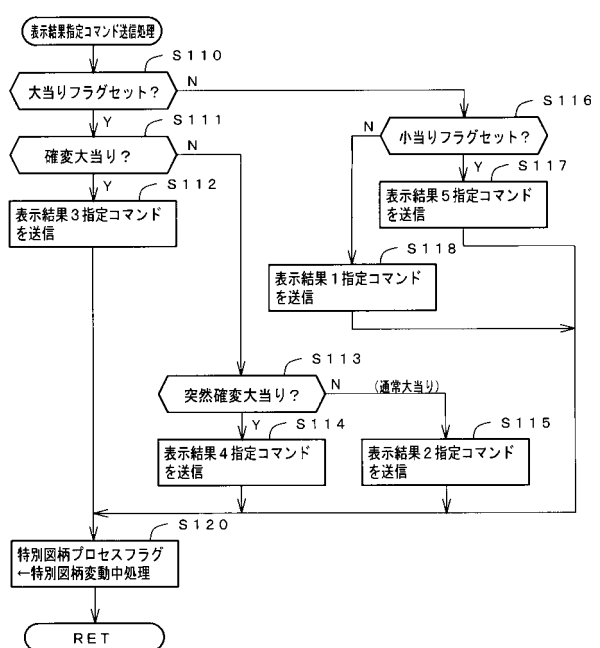
【図 17】



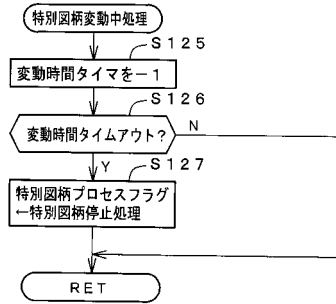
【図 18】



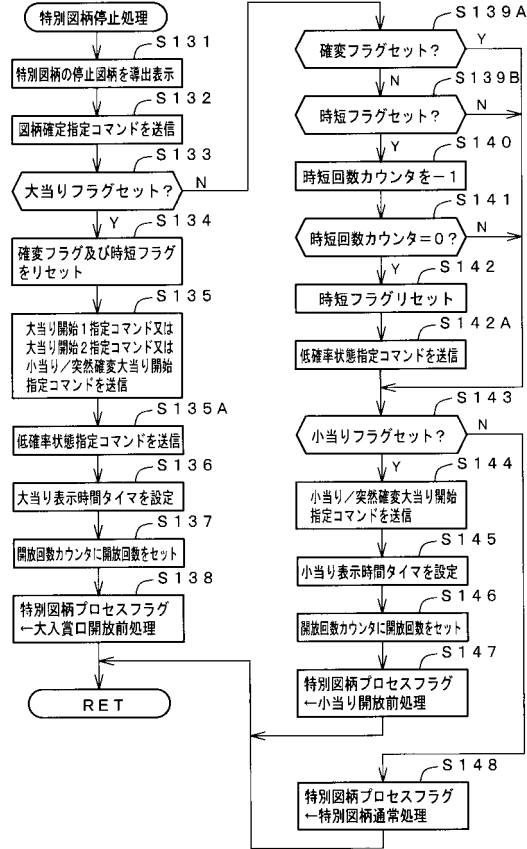
【図 19】



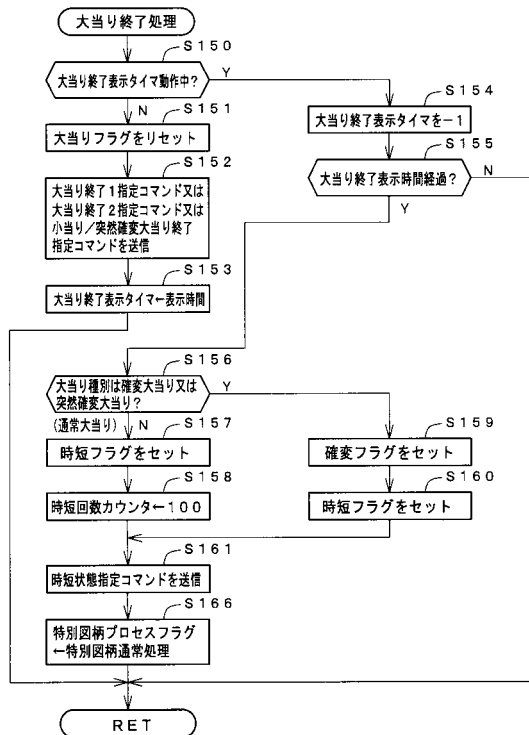
【図 20】



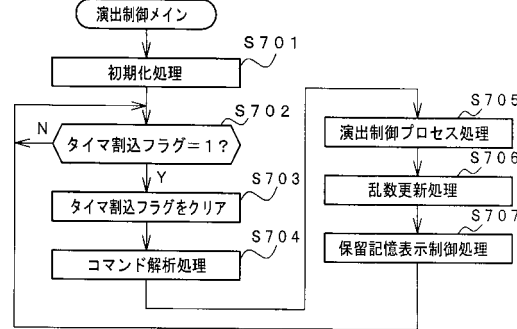
【図 21】



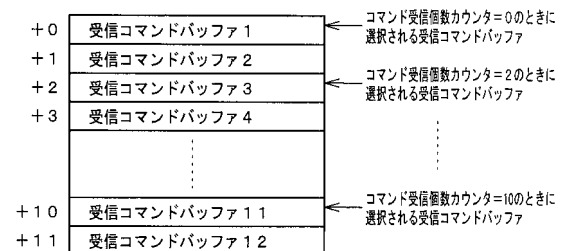
【図 22】



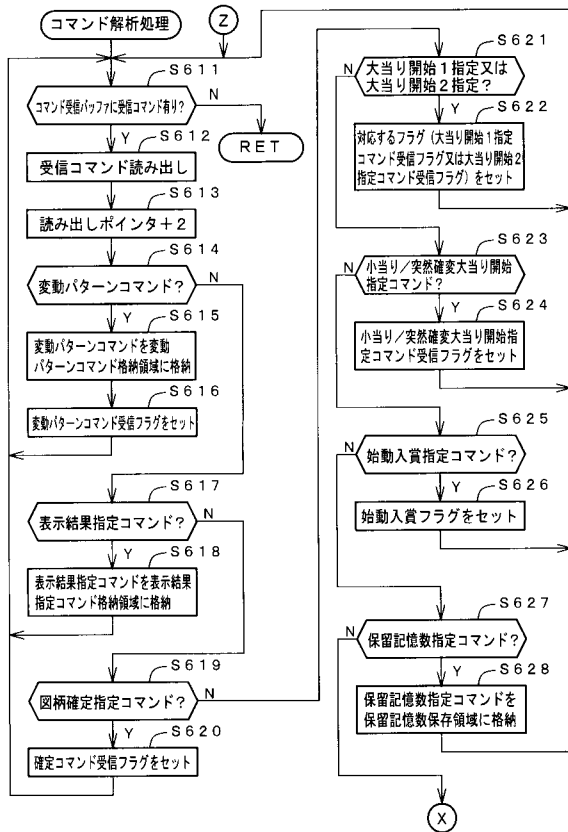
【図 23】



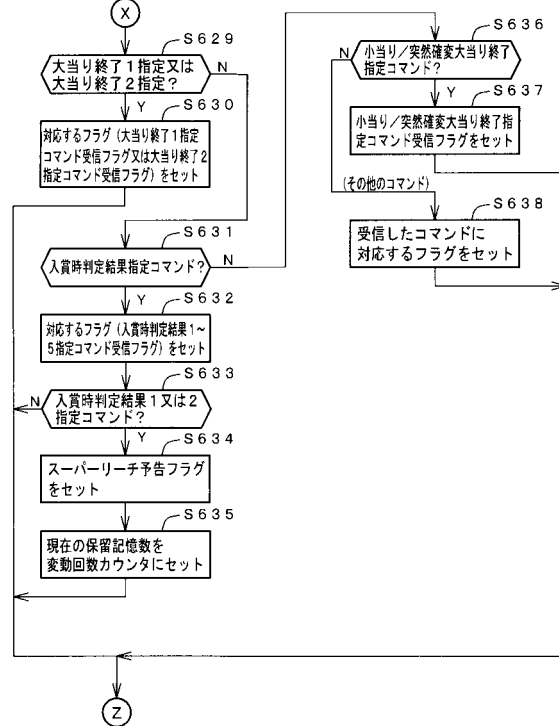
【図 24】



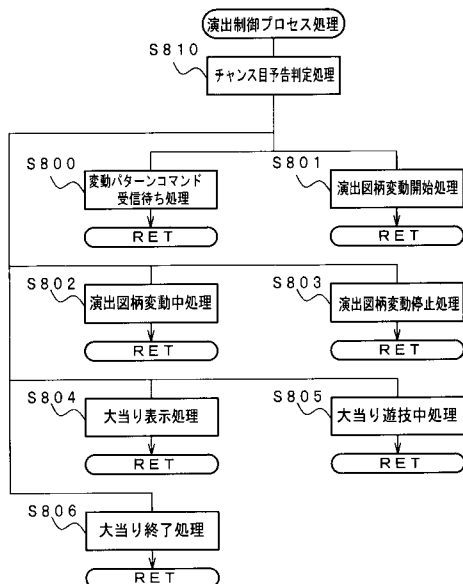
【図 25】



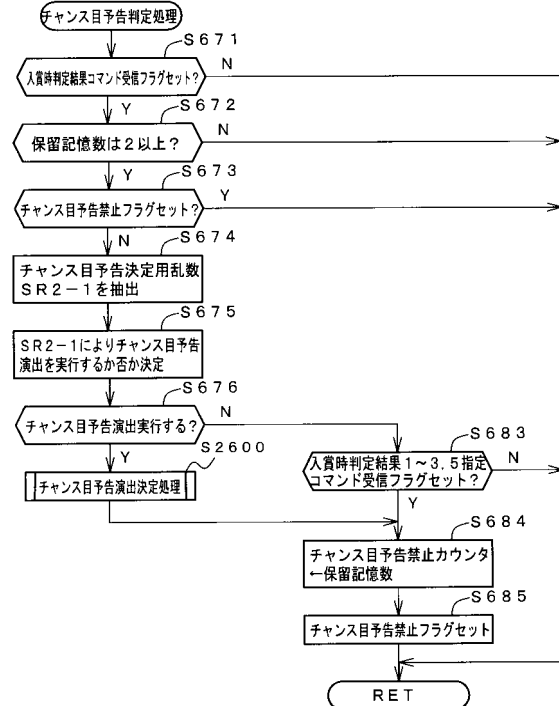
【図 26】



【図 27】



【図 28】



【図 29】

(判定値：予告決定用乱数 (1~31) と比較される)

チャンス目予告演出の有無	判定値数
チャンス目予告演出あり	3

(A) 入賞時判定：非リーチはずれ

チャンス目予告演出の有無	判定値数
チャンス目予告演出あり	6

(B) 入賞時判定：ノーマルリーチはずれ

チャンス目予告演出の有無	判定値数
チャンス目予告演出あり	21

(C) 入賞時判定：スーパーリーチはずれ

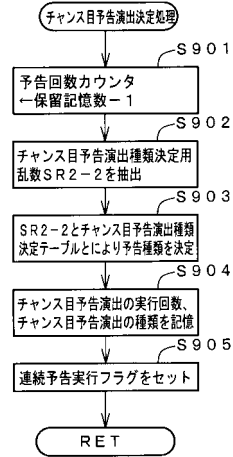
チャンス目予告演出の有無	判定値数
チャンス目予告演出あり	27

(D) 入賞時判定：スーパーリーチ当り

チャンス目予告演出の有無	判定値数
チャンス目予告演出あり	0

(E) 入賞時判定：非スーパーリーチ当り

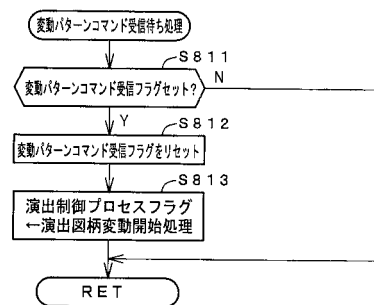
【図 30】



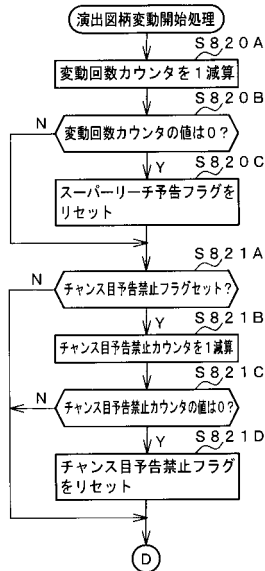
【図 31】

演出パターン番号	演出パターン	連続予告回数	判定値
1	チャンス目	1	1~31
(A) 連続予告回数=1回			
2	チャンス目 + チャンス目	2	1~31
3	チャンス目 + チャンス目 + 大当たり	2	1~31
(B) 連続予告回数=2回			
4	チャンス目 + チャンス目 + チャンス目	3	1~31
5	チャンス目 + チャンス目 + チャンス目 + 大当たり	3	1~31
6	チャンス目 + チャンス目 + チャンス目 + 大当たり + 大当たり	3	1~31
7	チャンス目 + チャンス目 + チャンス目 + 大当たり + 大当たり + 大当たり	3	1~31
8	チャンス目 + チャンス目 + チャンス目 + 大当たり + 大当たり + 大当たり + 大当たり	3	1~31
9	チャンス目 + チャンス目 + チャンス目 + 大当たり + 大当たり + 大当たり + 大当たり + 大当たり	3	1~31
(C) 連続予告回数=3回			

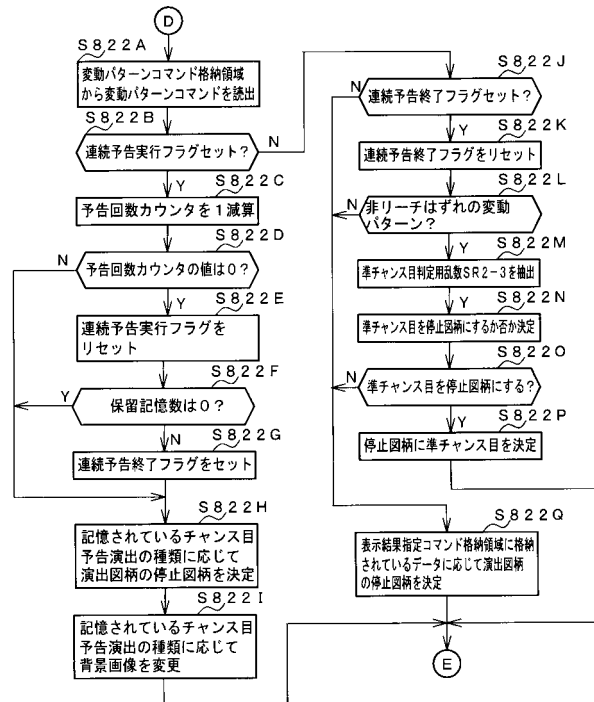
【図 32】



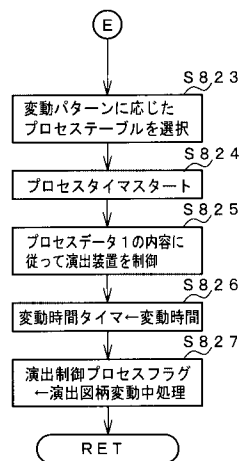
【 ㊦ 3 3 】



【 図 3 4 】



【 図 3 5 】



【 図 3 7 】

(A)	(B)	(C)
左國柄	中國柄	右國柄
1	1	8
2	2	7
3	3	6
4	4	5
5	5	4
6	6	3
7	7	2
8	8	1

【 図 3 8 】

(A)

チャンス目	左国柄	中国柄	右国柄
GC1	1	2	3
GC2	2	3	4
GC3	3	4	5
GC4	4	5	6
GC5	5	6	7
GC6	6	7	8

【 図 3 6 】

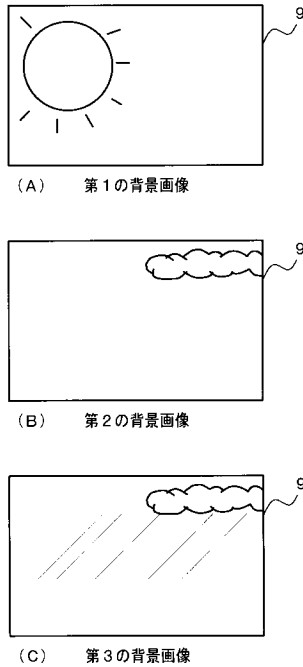
(判定値：準チャンス目判定用乱数と比較)	
準チャンス目表示の有無	判定値
準チャンス目表示する	1～15
準チャンス目表示しない	16～31

(判定値：準チャンス目判定用乱数と比較される)

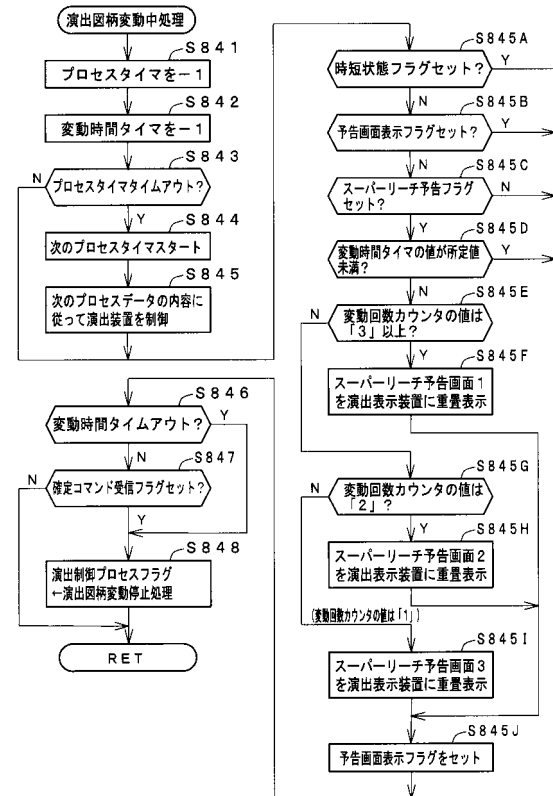
(B)

準チャンス目	左図柄	中図柄	右図柄
HC1	1	3	3
HC2	2	4	4
HC3	3	5	5
HC4	4	6	6
HC5	5	7	7
HC6	6	8	8

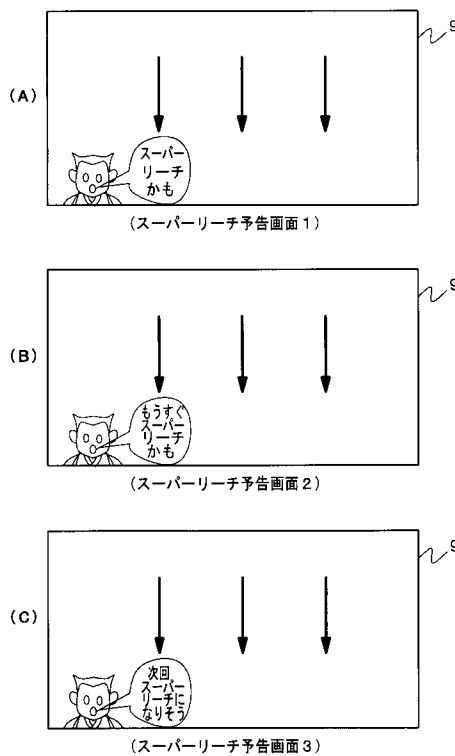
【図 39】



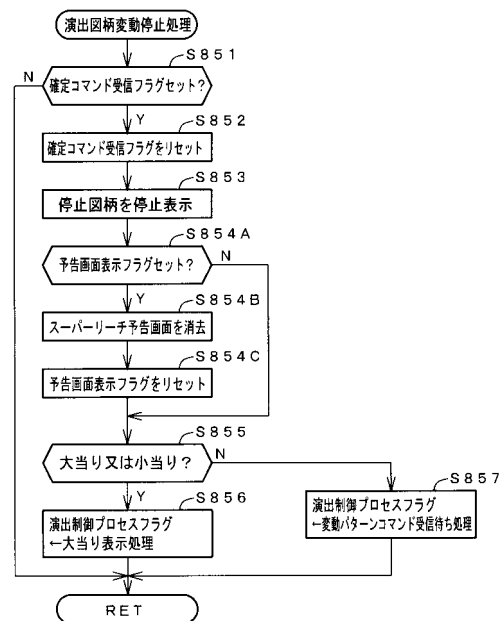
【図 40】



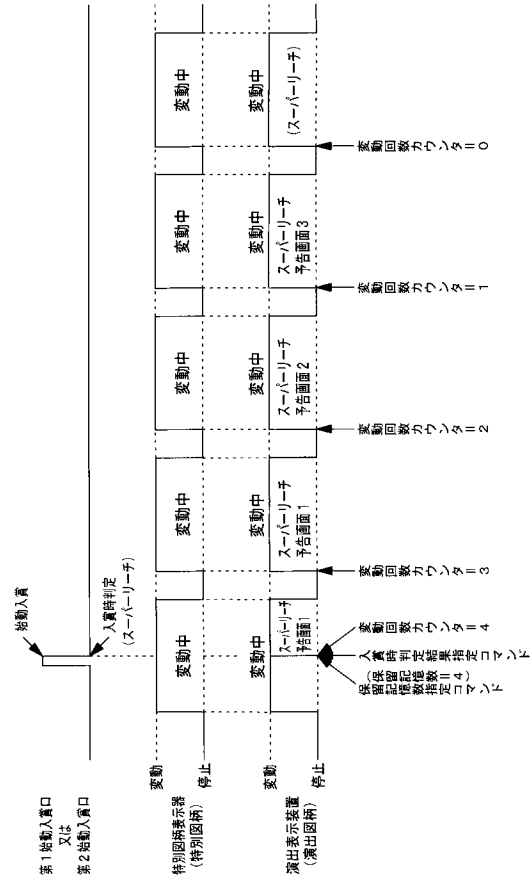
【図 41】



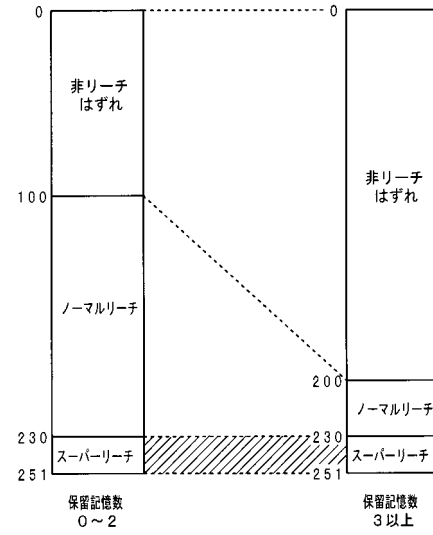
【図 42】



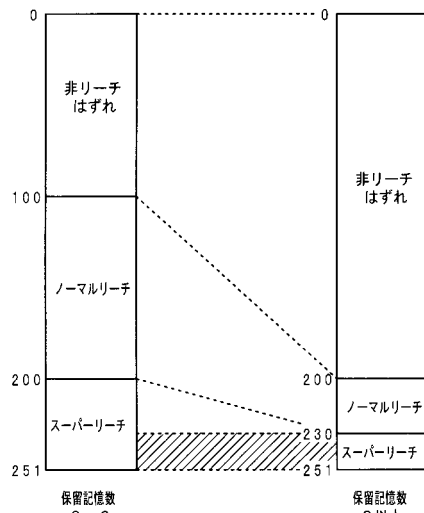
【図 4 3】



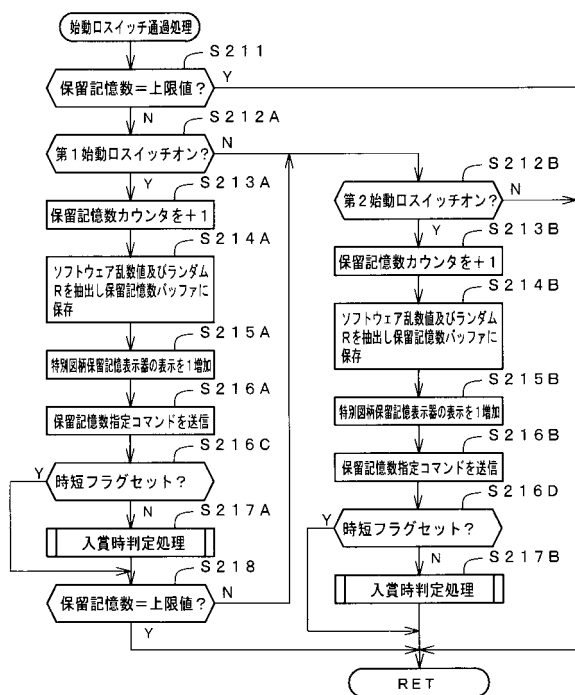
【図 4 4】



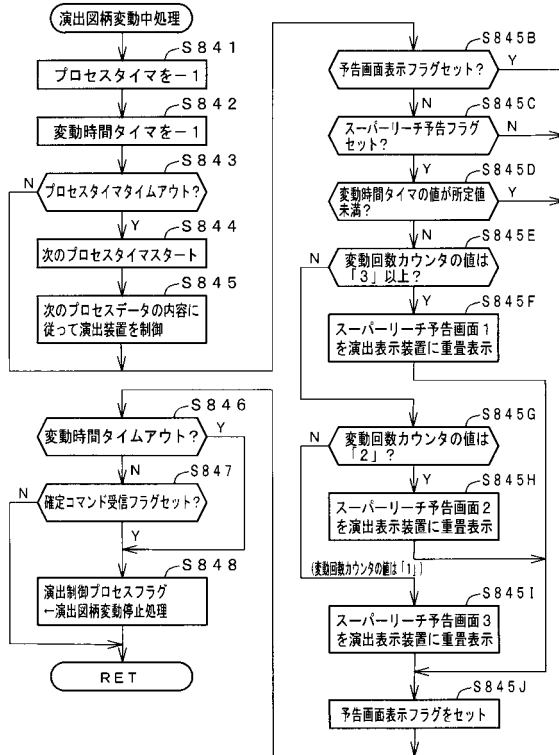
【図 4 5】



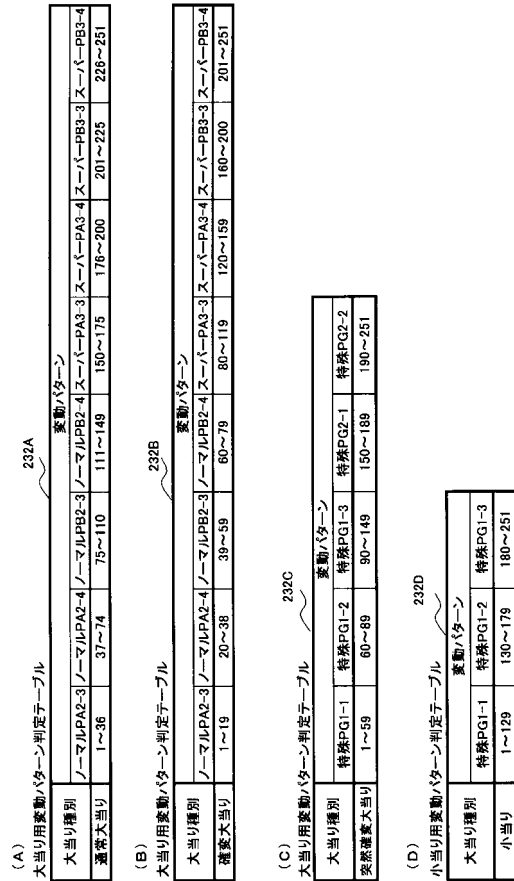
【図 4 6】



【図 47】



【図 48】

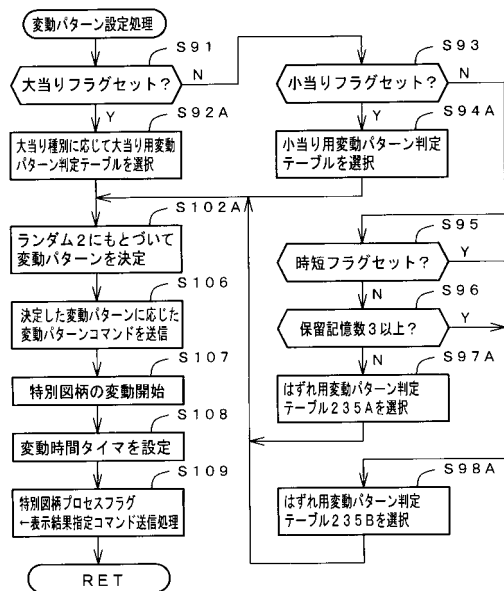


【図 49】

変動パターン	変動パターン
スーパーPA1-1 1~79 80~99 100~139 140~189 190~229 230~249 250~251	スーパーPA2-2 ノーマルPA2-3 230~249 250~251

変動パターン	変動パターン
スーパーPA1-1 1~179 180~189 190~207 208~214 215~229 230~235 236~240 241~247 248~251	スーパーPA2-2 ノーマルPA2-3 230~235 236~240 241~247 248~251

【図 50】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2005-245982(JP,A)
特開平10-033772(JP,A)
特開2003-265750(JP,A)
特開2007-296130(JP,A)
特開2003-210733(JP,A)
特開2001-120773(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A63F 7/02